

ピボン首相は、同二十七日、ラジオ放送を以て泰國が當面せる重大危機について左の如く國民の覺悟を要望するところがあつた。

『泰はその地理的關係の故に極東の危機に捲き込まれてゐる。國民は既に危機のなかにあることを充分に留意しなければならぬ。泰國民は各國と友好關係を持するに忠實であると同様に自己防衛にも忠實であらねばならぬ。泰國は各國と融和してゆくことにおいてのみ輝やかしき將來が約束されるのである。泰國民は來らんとする戰爭を防止するために全力を傾倒せねばならぬ。しかしながら我等は泰國國境外でなされる政治的あるひは軍事的事實が泰を脅やかすものでないことを明記すべきである。即ち佛印に駐屯する日本軍やマレーの英軍は泰を脅威するものではない。國民は政府の聲に耳を傾けるべきで決して外國の宣傳に動かさるべきではない。最近行はれた豫備兵の召集や最高司令部設置は何れも恐怖を除き泰國內の平和を維持するための手段であつて決して侵略を企圖したり外部に對して採られたものではない。最後に余は國民に對し泰英不侵略條約及び泰の主權に對する日本の諒解の存することを附言したい。』

泰國最大の訴訟事件として過ぐる昭和十四年（一九三九年）七月十七日以來、全國民の關心を集めて居た廢王プラジャチボク及びランパイ妃に對する現政府の告訴事件は、二年餘の歲月を経てやうやく十月三十日結審した。即ち、前國王が一九三五年三月の退位に先ち同年一月十二日、泰國を去るに當り四百十九萬五千八百九十五バーツに相當する國家の財産を持ち出したとして、現政府から告訴されたのに對し、三十日の判決に於て法廷は前國王に對し訴訟費用及び利子をも加へて、總額六百二十

二萬七千七百十二バーツの返還を命じたのであつた。なほ、當時前國王が持ち出した國家所屬の財産は、證券、現金及び寶石類等で、これは全部米國の某銀行に寄託してあると言はれて居り、前國王は先年逝去したが、バンコックに在るその莫大なる不動産は、元外相サルンヴァツチ及び前國王の一族ウバリサーンの兩名が相續人に指定されて居る。

第九章 印度

今次の歐洲大戰勃發以來、印度に於ける情勢は激化の一途を辿りつゝあるが、英當局の極端なる言論抑壓報道取締のためにその真相が傳へられないのみならず、一般の事情も英國に取つて有利なるもの若しくは英國側の宣傳のみで、殆んど報道されて居ないので、印度の事情を判断するに足る資料は甚だしく缺乏して居る。印度大衆が前回の大戰に於ける英當局の裏切りに懲りて、今度は即時獨立を要求して居る事實は英政府に取つては大きな悩みであり、印度が今次大戰に於て、前回にもまして英國に取つて重大な役割を有して居る以上、英政府は如何なる手段に訴へても印度をその手に確保すべく、従つて獨立の如きは斷じてこれを容認するものではなく、獨立運動乃至反英運動に對しては斷乎たる彈壓を以て臨むであらうと想像される。

二月二十四日、アメリカ印度事務相は現戦局に於ける印度の役割及び印度洋を繞る英軍の作戦等について放送を行ひ、シンガポールとスエズの東西兩關門を確保して英國が印度洋を支配して居ることは、今次大戦に於ける英軍の作戦中、戦略的に最も重要な意義を有するものであることを指摘し、この觀點より英近東軍の勝利は單なる局地的戦果以上の大きな影響力を有するものであると論じ、さらに英國の兵器廠としての印度の成長を誇示して次の如く述べて居る。

『印度兵はリビア、エリトリア、エチオピア等各地で勇敢に戦つてゐるが、一方印度は世界最大の食料品原料品の生産國であるばかりでなく、今や世界一流の工業國の列にも加はるに至つた。印度は最早印度軍の爲の小銃、機關銃、野砲、彈藥その他各種の裝備を自ら製造し得るやうになつてゐる。印度は既に遠征に出てゐるものゝ外更に近代的裝備訓練を有する五萬の兵力を組織すべく急速に増強を圖つてゐる。』

英當局は印度國民會議派議長アザットを一月三日、國防法違反の嫌疑で逮捕し、同八日禁錮一年半の判決を與へ、ナイニ監獄に送監したが、續いてサチアグラハ（個人的非服従運動）参加者を主とせる各層に亙る大量檢擧が行はれ、ために抗英運動は一段と擴大激化するに至つた。また、前年末、十二月五日釋放された國民會議派の領袖チャンドラ・ボースは一月二十六日以来失踪し行方不明となつたと傳へられ各方面に大きな反響を起しつゝあつたが、二月三日に至つて英當局はボースに對して逮捕令を發すると共に、その財産を沒收する旨を發表した。（十一月十日、印度議會上院に於てスミス

内相は議員の質問に答へて、ボースは目下ローマ、或はベルリンに居る旨を發表、各方面に衝動を起した。）

次で三月十四日、ラホールに於ける印度國民會議の開催を機として、英當局は國民會議派の大量檢擧を行ひ五千四百九十九人の印度獨立主義者を逮捕し、而も英官憲はこれが保釋金として二千三萬七千ルピーを要求したと傳へられて居るが、この報一度傳へらるゝや全印に大衝激を與へ、ベンガル州ダツカを初め各地に於て反英暴動が勃發し、ダツカに於ては十九日市内數ヶ所に於て暴動勃發、武裝警官と衝突多數の死傷者を出し、學校、商店、會社等は悉く閉鎖した。事態はなほ引續き、三月下旬聯合州カウンプル市を中心としてヒンズー、モスレム教徒の叛亂が勃發し、英當局は峻嚴なる彈壓政策を以てこれに臨み、擾亂は益々擴大の兆を示しつゝある。斯くの如く各地に於ける叛亂勃發のため、その不安に堪へかねて英人家族にして空路濠洲方面へ避難引揚げる者が續出しつゝありと報ぜられて居る。

斯くて六月には、アランバシラ地方を初め、ボンベイ、ナグプール等の各地に於ては罷業が續發するに至り、事態は益々悪化し全印の不安は増大したが、この情勢について久しく沈黙を守つて居た詩聖タゴールも遂に堪まりかねて、憤然起つて六月十四日ボンベイ紙上に於て、痛烈に英當局を攻撃して次の如く叫んだ。（タゴールは、八月七日カルカッタの自宅に於て八十一歳を以て逝去した）

『英國は飽なく印度人を搾取した結果、いまや印度人は飢饉に瀕して居る。印度は英國に對して食料品を供給したため印度人の方には最早一粒の米も残つて居ない。而も、英國自身は印度の流血の慘事を喜んで居るのだ。英國人が印度人の嫌惡を買つて居るのは英國人自身の失敗である。何故ならば、英國人は印度人の信頼を裏切り自己のポケットを充すために多数の印度人の幸福を犠牲に供した。英國人はこの事實に大いに慚愧してよからう。英國は印度に與へた不正に、これ以上侮辱を加へてはならぬ』

さらに同十七日、ガンヂー翁も新聞記者との會見に於て『鬭争は次第に熾烈化するものと思ふ』と言明したが、この言葉は、ガンヂーの主唱する非服従運動が強化されることを意味するものとして各方面の注目を惹いた。また、一方中央會議元議長ラヒムトラーも『印度人は最近數年間に於ける英國の財政、經濟政策に對し多大の不滿を感じて居る』と言明したことも併せて、非服従運動の成行きが重大視されるに至つた。

斯くの如き印度國內の情勢の悪化並に東亞情勢の緊迫に對處するために、英當局は印度中央政治機關の非常體制を整備するために、七月上旬、先づ印度國民議會の上下兩院議員の任期を明年十月一日まで一年間延長する旨の總督令を公布し、議員の改選による政争の激化を回避すると共に、同二十一日、總督執行會議の大擴張並に印度國防會議の創設を發表した。執行會議の擴張は司法、軍需、交通、労働の各省を分離獨立せしめ、現在の教育、保健、土地の各省を、教育、保健、土地及び印度屬領の

二省に改組し、さらに情報及び民間國防省を新設したのであるが、右發表と同時に左の如く各省長官の任命が行はれた。

△國防アーチボールド・ウエーヴェル大將(印度軍總司令官) △内務レギナルド・マックスウェル卿 △交通アン
ドリュウ・クロウ卿 △財務ゼレミイ・ライズマン卿 △軍需モデイー卿(印度中央銀行總裁) △情報アクパール・
ハイダリ卿 △國民國防ラガヴェンドラ・ラオ博士 △労働フィロズカン・ヌーン卿 △印度屬領アネイ(印度國民
會議派領袖) △教育保健土地サルカル △司法アーメツド汗

右總督執行會議の改組に伴ひ新たに任命された十一名の各省長官中、八名までは在野派から選任されたが、各政黨は、全印ヒンズー・マハサバ派を除いて、國民會議派を初め各派ともに左の如く不滿の意を表明した。

△サヴァルカル(全印ヒンズー・マハサバ派總裁) リンリスゴウ總督の改組發表は印度が正しい方向に向ふ第一歩である。

△ガンヂー(國民會議派) 今回の改組は國民會議派の要求を満すものではない。

△ジンナー(回教徒聯盟總裁) 今回の改組に對して全的支持を與へることは出来ない。リンリスゴウ總督によつて選ばれ各省長官に任命された人々は人民の眞の代表ではなく回教徒の信頼を博することは出来ない。

なほ、印度政廳は、一方米國との聯絡提携を強化するため、相互に辨務官を交換することに決し、同じく、七月二十一日、初代駐米辨務官として、總督會議議員パイパイ卿を任命する旨を發表した。

アメリカ印度事務相は八月一日の下院に於て『印度は既に戦争に入つて居るが、現實の戦火の脅威は、こゝ二三ヶ月中に東西兩方面からその海岸線に近づいて来るであらう』と、警告したが、印度政廳當局は着々と戦時體制の整備に努め、八月に入るや、全印度の攻撃を受くべしと目されつゝある四十都市に防空施設を計畫中であると報ぜられ、また、同十三日、印度軍總司令官ウエーヴェルは就任以來初めてのラジオ放送を行ひ、印度の防衛について左の如く述べた。

『エジプト、パレスチナを初め近東各地を防衛することは即ち印度を防衛することであつた。殊に今日の如き航空機の發達した時代には、印度の國境から出来るだけ遠い地域で印度の防衛戦を行はねばならぬ。この意味でエジプトやパレスチナ、アデン、イラク、マレー等は何れも印度防衛のための保壁である。印度が戦争遂行のため既に七十五萬の印度人が武装されて居る上に、なほ東部方面では多くの徵募兵を訓練中である』

第十章 濠洲

第二次歐洲大戰勃發するや濠洲朝野は、頻りに濠洲の危機を強調して英本國の救援並に濠洲の國防強化を要求して來たのであつたが、さらに、太平洋に於ける事態の緊迫に伴ひ、米國の救援をも要請し、愈々、國防の擴充に狂奔するに至つたのである。即ち全世界を衝動せしめた二月の極東危機説の

如きも、その根源はこの濠洲の神經衰弱的な恐怖感念乃至は、米英の注意を喚起せんがための謀略に出づるものである（本編最初の『ABC D對日包圍陣』の項参照）が、左に列記するところの濠洲朝野各方面の危機説乃至國防強化論を見れば、以て濠洲國內の不安動搖が如實に窺はれるであらう。

△スミス（濠洲労働黨最有力者の一人「クインズランド」首相）濠洲が戰場となる時期は極めて近きにあり、若し濠洲にして敗北せんか吾人の凡てのものは失はれ、吾人は苦力以下の状態に征服せらる可し。（二月三日）

△フアツデン（首相代理）戦争の危機は濠洲にまで擴大せんとしてゐる。濠洲が平和維持を希望してゐるにも拘らず暗雲は今や太平洋上に低く垂れこめてゐる。英本國に對する軍隊、食糧、軍需品等の供給者として濠洲の任務は益々増大してゐるが、これに對し敵が何等かの行動に出る危険が多くなつてゐる。（二月十二日）

△カーチン（濠洲労働黨領袖）太平洋の危機切迫せる現在の國際情勢の下に於て濠洲の國防を現状のまま放任するときは濠洲はノルウェー、ポーランドが經驗した悲運の轍を踏むことは明かであり、これをそのまま拱手傍觀することは愚の骨頂である。何人と云へども現在敵の目的が何であるかを明確に洞察し得るものはないが、濠洲が既に敵に對し防備を施さねばならぬことは絶対必要なことであり、而も防備とは武装することによつてのみ達せられるものである。（二月十七日）

△フアツデン（首相代理）濠洲の國防施設強化は不測の危局に對處する爲で濠洲政府は進んで太平洋の平和を攪亂せんとするものではない。但し戦争が我々の戸口にまで迫つた場合は我々としては戦ふ以外に途はない。濠洲國民は到底戦争の試練に堪へ得ないなどと考へて絶望することは禁物である。濠洲國防の第一線は英佛海峽

にある。最近マレー半島に派遣した將兵はリビア戦線に於いてイタリア軍を潰滅せしめたのと同一の優秀な將兵である。濠洲は如何なる最悪の事態に對しても準備を完了してをり、且又英國が結局は勝利を獲得することを確信してゐる。(二月十九日)

△メンジス (首相)前大戦には日本は我々の同盟國であつた。濠洲國民はその際日本の示してくれた數々の友誼的行爲を未だ忘れてはゐない。然し現在では日本は樞軸國と同盟を結び我々の敵に對する援助義務を有してゐるので、現在の濠洲の太平洋に於ける立場は前大戦當時の夫とは同一ではない。但し濠洲は太平洋に於ては飽くまでも平和を維持すべきであるとして居り、又これが濠洲のみならず太平洋各國の最も利益となる所であると信じてゐる。最近シンガポール及びマレー半島各地に濠洲軍を派遣したが、之は全く防備的性質のものである。濠洲本土の現在の防備兵力は派遣軍を除いても現在濠洲に於て訓練中の兵士よりも遙かに多い。斯かることは濠洲の歴史上始めて見る事である。戦前は僅か四百名足らずの空軍要員を持つてゐたに過ぎないが、現在の濠洲空軍は二萬六千の操縦士、射手、偵察要員の養成を目標としてゐる。建艦に於ても濠洲はトライバル級(一、八七〇噸)の驅逐艦五十一隻の建造を目標として努力してゐる。(二月二十一日)

斯くの如くして國防の強化軍備の擴充に狂奔する濠洲政府は、本年に入るや先づ一月三日軍需省は國家保本法に基き棉花、綿、人絹、化學藥品、工作機械、非金屬類、醫療器械等六十六種の物資を徵發及び貯藏する權能が與へられ、同時に軍部大臣は軍需工業の利潤を制限又は管理する權力が與へられたが、また、同八日、正規軍及び義勇軍より成る裝甲軍團の編成を決定したが、これに關しメンジス

首相は、正規軍裝甲師團一個(二裝甲旅團、豫備團、裝甲騎兵、補助騎兵より成る)を至急編成すべく、戰車及び裝甲車輛の大部分は濠洲に於て製作せらるゝ筈で、既に訓練用敷地及び學校その他は準備中であると發表した。次で同九日には中東地方に於ける陸軍と協力のため空軍部隊の派遣が決定されたが、これに關しては、本部隊は英帝國空軍計畫により濠洲に於て訓練せられたる人員を以て編成し、器材は英空軍より配給されると發表して居る。

越えて二月五日、戦時評議會が開かれ、各省長官と軍令部長、空軍參謀長等を加へて長時間に亘り國際情勢の検討、國內防備並にシンガポールを中心とする英軍の作戰との連絡等を協議したが、右に關しフアツデン首相代理は左の如き聲明書を發表した。

『濠洲は今や危機に面せる事實を何れも自覺した。評議會は國際情勢並に國防計畫進捗振に深甚なる考量を拂ひ濠洲の對外關係及び沿岸通商保護、海軍力の配置、空軍の警備並に防禦上重要な陸海空軍の特別配備等に関し討議し外敵侵入の際の濠洲防禦に關し説明があつた。』

なほフアツデン首相代理は二月十二日、閣議終了後全國民に對し上掲(三七七頁)の如き太平洋危機の警告を發し、さらに、十八日、濠洲全土の防空強化のため、(一)防空壕の設置、(二)緊急輸送對策、(三)市民の避難計畫、(四)重要施設に對するカムフラージュ、(五)燈火管制の技術的研究、(六)市民に防火訓練を施す等の諸方策を實施する旨を言明したが、なほ、マツクブライド兼任軍需相はフランス敗戦後に

開始された海軍艦艇建造計畫は豫定通り進捗して居ると發表し、また、戰時對策會議についてフアツデン首相代理は『閣僚及戰時對策會議員は來週末までの三日間に互つて、太平洋問題並に國防計畫の検討を行ふ豫定であるが、現在の軍隊の訓練は三ヶ月若しくはそれ以上の長時間に延長されなければならぬ。マックブライド陸相及び陸軍首脳部の意向も軍隊の増強にあり、これが戰時會議の結論となるものと思はれる』と聲明し、さらに十九日には記者團に對して、上掲(三七七頁)の如き國防強化についての談話を發表したのであつた。

濠洲朝野は英本國が事實に於て濠洲を救援することの不可能なるに焦慮し、米國に恃まんとするに至り、メンジス内閣は頻りに米國との提携強化に努力を集中しつゝあるが、一月四日、濠米間の軍事的緊密關係を増進するために、相互に武官を交換することとなり、濠洲側はバーレル中佐を駐米海軍武官として、また米國側はユーセイ中佐を海軍及び空軍武官として、夫々派遣すべくその任命を行へる旨が發表された。

次で二月歸國せるメンジス首相は三月再びロンドンに赴いたが、同首相は三月三日、ロンドン外人記者協會に於て、濠洲の對外政策について演説を試みたが、殊に日本との關係について左の如く述べて各方面の注目を惹いた。

『若し太平洋を繞る諸國の間に何事か起つたならば日濠兩國は共にこの大洋に於ける責任と信義と危険とを負擔せざるを得ない。余は紛争が不可避であるとは信じられない。歐洲の現状は盜賊を驅逐しなければならぬ状態であるが、かゝる状態が太平洋に到來するでなければ、太平洋諸國家の間には相互の率直と禮儀を以つて解決出来ない様な難問は存在しない。我々は互に面談した事はないが、お互に成人なのだから日本が國際場裡に占める地位を承知して居り、日本は又我々も同じ地位を有してゐる事を理解せねばならない。若し我々の間に何等か見解の相違あらば相互に之を論議しやうではないか。かゝる理由に依つて濠洲は東京に直接外交代表を送り兩國間に新しい傳統を開いたのであるが、駐日濠公使に與へた余の訓令は勿論のこと河合公使が帶同して來る日本の訓令も共に『兩國間には何等問題は有しない』とだけ合ふといふものではなく、『懸案の諸問題を共に論議せんことを提案してゐるに相違ないと確信してゐる。』現在の世界に種々の悶着を惹起せしめてゐるものは偏見、疑心暗鬼、誤解の厚い障壁であつて、之が永い間幕の如く歐洲を蔽つて來たため、率直、誠實な討議、相手の立場を理解せんとする眞摯な試み等は凡て不可能となつたのである。濠洲は從來から日本との接近に努めてきたし、又現在も努めてゐる。疑心暗鬼の念を以つて徒らに手を拱いてゐるが如きは我々の執るところではない。余は太平洋の凡ての國民が虚心坦懐で、思慮深く互に寛容で理解がありさへすれば太平洋をしてその名に背かしめずに済むことを確信するものである。』

なほ、メンジス首相は米國側との連絡のため五月九日ワシントンに到着したが、同首相は同日、濠洲公使館に於て新聞記者團に對し、濠洲は自國の防衛について十分にその準備を進めて居る旨を誇示して左の如く聲明した。

『英米協同太平洋防衛計畫については何にも云ふことは出来ないし、日蘇中立條約の成立が濠洲にとって脅威となるものかどうかも知らない。何れにせよ濠洲の關する限り我々はその防衛については充分の準備が出来て居りその防衛能力は日に日に増大してゐる。太平洋の共同防衛といふことになれば當然米國の政策が問題になるが、今日のハル長官との會談でこの問題が取上げられたかどうかと云ふことは言明の限りでない。余は最後の勝利が英國にあることは疑を容れないが、勝利までの時間は偏に米國の援助の量と速度の如何によつて決定されよう。最後に護送問題に對する余の意見を云へば完全な護送に越すものはないと思ふ』

これより先きロンドン滞在中のメンジス首相は、三月二十三日、中東派遣軍濠洲軍司令官ブレイミイ中將は今回近東軍副司令官に任ぜられ、ウエーヴェル總司令官の下にあつて帷幄に參畫することゝなつた旨を發表したが、この異動はギリシア戰線の英軍に對する濠洲側の不満を抑へんとする意圖に出づるものと見られて居るが、モイン英上院院內總務はウエーヴェル總司令官の權限を削減せんとしたものであるとの説を否定して『ウエーヴェル將軍は政府の信頼を得て居る』と言明した。

斯くて英軍のバルカン戰線敗退を契機として、濠洲勞働黨は濠洲軍派兵の責任を問ふてメンジス内閣の辭職を迫るに至つたため、メンジス首相の立場は頗る困難に陥つた折しも、四月二十三日、政府黨下院院內幹事ブライスが死去せるが爲に、下院に於ける勢力の分野は政府黨三十五、勞働黨三十六となつて野黨が過半数を占めることとなり、事態は益々メンジス内閣に不利となつた。而して政府側はこの危機を打開するために、勞働黨議員に對して、戰時舉國一致内閣の口實の下に入閣を懇願す

るとしても勞働黨側はこれを拒絶することは明白であり、勞働黨首腦部は『勞働黨は濠洲軍當局の行動に對しては十分支持を與へるが、メンジス政府の政策には反對である』と言明して居るが、これに對してファッデン首相代理は『最近のギリシア戰線に於ける英軍の戰闘が退却のみに終始して居ると考へるのは愚なことである。濠洲が未曾有の危機に臨んで居るこの際、國內の結束が一層強固とならねばならぬ。』と勞働黨側の責任追窮に對して應酬に努めた。

斯くて、米國より歸國せる、メンジス首相はこの内閣の危機打開に努力したる結果、六月二十六日に至り、戰時體制の強化を標榜せる左の如き内閣の改造並に行政機構改革を發表した。

- (一) 五省の新設 航空機製造、運輸、戰時産業編成、治安及屬領の五省を新設する。
- (二) 閣員の増加 閣僚を十九名に増員する。
- (三) 内閣の二委員會制 内閣を戰時委員會(六名)と經濟産業委員會(七名、議長ファッデン蔵相)とに分ちこの兩委員會は各々その所管事項に關し完全なる權限を有す、主要政治問題のみ内閣全體の所管とす。
- (四) 諸委員會の設置 議會各派を網羅する委員を以て戰費支出委員會、社會保安委員會、利潤委員會、勞務委員會、放送委員會、税制委員會及び地方産業委員會を設置する。

右、行政機構の改革に基き新たに戰時産業編成相スプーナー、治安相アボット、屬領相マクドナルドの三戰時内閣閣僚が任命され、その他の一般閣僚として、郵政長官コリンズ、運輸相アンソニー、

航空機製造相にレッキーの三閣僚が新たに任命された。

なほ、メンジス首相は内閣改造に先ち、六月十七日、無制限戦時體制強化を宣言せる放送を行つたが、この無制限戦時體制強化は大體に於て一般民衆に歓迎された模様であつたので、これに自信を得て内閣改造を發表したのであつたが、この無制限戦時體制の中に、罷業禁止の一項を含んで居たのでこれに對し労働組合側は猛烈な反對を表明し、殊に反對黨たるカーチン労働黨首は十八日議會に於て『労働黨はメンジス内閣の今次の政策についてはその大部分を支持するが、労働問題に關しては全面的に賛成し得ない』と労働黨の立場を明らかにした。

斯くて、七月末佛印に對する日佛共同防衛協定が成立するや、濠洲も英帝國の一員として對日資産凍結を實施したのであつたが、これによつて太平洋の情勢は俄然重大化するに至つた。この情勢に鑑み濠洲は愈々米國の救援を待むこと痛切なるものがあり、政府は米國に對して武器貸與法の實施を濠洲にまで擴大適用すべき交渉を開始するために、特別使節團を派遣することに決定したと傳へられたが、右に關し濠洲政府筋の言明せるところによれば、米國との相互通商協定により米國よりの生産品輸入を増加する途を拓くと共に、濠洲の農産物を米國へ輸出せんとする計畫なるものゝ如くである。

八月十一日、緊急閣議が開かれ、太平洋に於ける緊急事態並に米英會談等につき重要協議が行はれたが、閣議後、政府當局は『太平洋情勢が今や未曾有の危機に襲はれて居ることは最早疑問の餘地は

無い』と言明し、濠洲の重大なる立場を示唆したが、同二十八日に至り、メンジス首相は正式に辭任する旨を表明した。よつて統一オーストラリヤ黨及び統一地方黨は即日聯合會議を開き、満場一致を以てフアツデン副首相兼藏相を首相候補に推選した。なほ、メンジス首相は辭意表明に先つて、英本國政府は濠洲政府より首相以外の閣僚をロンドンに派遣し濠洲代表として英帝國戰時會議に列せしむることを承認せる旨を發表した。

フアツデン新首相は、九月十七日の議會に於て、

『濠洲の安全は今や未曾有の危険に曝されてゐる。而して政府は英本國政府との間に極東政策の重要諸點につき協議中であるが、太平洋に於ける英國の政策は米國の政策と協調するにありと信ずる。なほ對蘇援助に就ては濠洲はその及ぶ限りに於て全力をつくす方針である。』

と、米國との協調を力説したが、これに次で、スチュアート外相も米國の態度を禮讚して左の如く述べた。

『極東情勢は依然不安定状態を續ける外はない。樞軸國の機關はいまなほ太平洋諸國を歐洲の戦火にまき込む意圖を棄てゝゐない。米國が太平洋において率先して取つた役割は極めて明確で、且つ頼もしい。濠洲は東洋及び西洋における英米協力の死活的な重要性に鑑み米國の發議を喜んで認めるものである。日米會談についていふならば、太平洋情勢の解決に導く基礎が見出されることを衷心より希望して止まない。』

なほ、蘇聯との關係については八月七日、ヒューズ海相が新聞記者會見に於て『濠洲は獨立した自治領政府を有して居るが、現下の情勢に鑑み、英帝國の一員としてとなれば外國と協定を締結する意思はない』と言明し、蘇聯との單獨平和協定締結説を否定したのであつたが、ファッデン新内閣は九月十七日濠洲と蘇聯との通商の増大に鑑み、既に蘇聯より新たに領事及び通商代表部所要の役員を入國せしむる用意を整へたと發表し、また前述の同日議會に於ける演説の中にも對蘇援助の態度を明らかにしたのであつた。

然るにファッデン内閣は十月三日の議會に於て、労働黨より國民負擔の公正を期するため豫算案の再編成を要求する動議を提出したる結果信任投票となり、三六對三三票で破れたので直ちに總辭職を行つた。よつて新内閣は反對黨の労働黨首カーチンによつて組織され、六日左の如き顔觸れの内閣が成立した。

△首相兼國防相ジョン・カーチン△陸相フランシス・フォード△藏相J. B. チーフリー△外相兼檢事總長ハーバート・グエヴァット△補給相ジョン・ピースレー△海相兼軍需相J. M. マツキン△空相A. S. ドレーク△フォード△戰時編成相兼工業相ジョン・デッドマン△航空機製作相ナルド・カメロン△治安相E. J. ホロウエー△商相ウイリアム・シユーリー

カーチン首相は組閣の翌七日、戰時公債一億磅の募債を發表すると共に、新内閣は前内閣の政策を

踏襲し、今次大戰に對しては飽迄も完全なる勝利を目標とし邁進する決意であると聲明した。而も、日米交渉は愈々悲觀すべき重大事態に移行しつゝありと傳へられるや、十月十五日、海軍當局は、アーピントン礁からニューギニアに至る濠洲東北海岸に沿ふグレートバリアー礁全突端並に木曜島西方の二海面に機雷を敷設した旨を發表した。

さらに十月下旬には、日本の濠洲侵入計畫説といふ荒唐無稽な流言が濠洲方面に傳へられ、出所不明のラジオ放送までが行はれる等全濠洲を擧げ騒然たる情況にあつた折から、同三十一日、カーチン首相は左の如き強硬決意を發表したのであつた。

『我々は外敵の侵入を防ぐため萬全の用意を整へた。然もこの用意は決して濠洲單獨のものではない。濠洲は太平洋がその名の如く波靜かならんことを望むものではあるが、侵略を受ける場合は敢然外敵に當る牢固たる決意を有する。そして、濠洲と他の太平洋民主義陣營國との協力は共通目的に向つて極めて大なる發展を遂げてゐる。』

第六編 第二次歐洲大戰の經過

第一章 緒言

昭和十六年に於ける歐洲戦局の進展は、年初に於ては、前年より持ち越されたる伊希戦争は膠着状態を示し、差したる變化を見なかつたが、バルカンに對する獨蘇英米等の外交攻勢は激烈を極め、ために、バルカン諸國は非常なる動搖を來すに至り、遂に三月に入るや、ユーゴスラヴィアを繞る情勢は緊迫を呈し、ブルガリアの日獨伊三國樞軸同盟參加に續いて、ユーゴスラヴィアの参加を見るや、俄然、事態は急轉し、こゝに獨伊軍のユーゴスラヴィア進撃となり、獨軍の電撃作戦は一舉にしてユーゴスラヴィアを席卷し、併せてギリシアに於ける英希聯合軍を粉碎し、忽ちにして多島海を制壓するに至つた。

一方、一路参戦に驀進しつゝある米國は、一月武器貸與法が議會に提出され、二ヶ月に亙る論議を経て三月を以て成立し、こゝにルーズヴェルト大統領の豪語せる『民主主義諸國の兵器廠』たる大計畫を以て、英國その他の反樞軸諸國援助を口實に、豫ねでの世界制覇の大野望達成に乗り出すに至つ

たのであるが、これに對して、ヒットラー總統はナチス政權八周年記念日の演説に於て、援英米艦船の撃沈を宣言し、さらにレーダー警告を以て敢然米國に應酬するに至り、斯くして遂に米國參戰は事實上實現したのであつた。また、英軍はイラクに侵入し、英イ戦争の發生を見たのであつたが、またシリアに於ては英佛軍の衝突が起り、戦火は西亞にも擴大を見るに至つた。

而も、前年末頃より悪化を傳へられて居た獨蘇關係は遂に六月末に至つて爆發し、こゝに獨蘇の開戦となり、獨、伊、芬、洪、羅等の樞軸軍は赤化撃滅の十字軍を呼號して、北は蘇芬國境より黒海に至る長大なる東部戦線の全線に互つて潮の如く殺到し、世界戦史に未曾有の激戦が展開されたのであつた。然しながら、蘇聯側もまた頑強に抗戦を試み、レニングラード及びモスクワを死守して、獨軍の電撃作戦を阻止し、遂に嚴冬の到來と共に、戦線は膠着状態に陥り、そのまゝ今年を終つたのであつた。

なほ、米英は八月、所謂洋上會談に於て大西洋憲章を作成し、蘇聯援助を決定し、反獨伊共同戦線を結成したのであつた。さらに、一方、日米交渉決裂の結果、大東亞戦争の勃發を見、獨伊も米國に宣戦し、こゝに日獨伊三國は對米英戦争完遂、世界新秩序建設協力の同盟を締結し、對米英戦争の共同戦線が結成されたのであるが、米英側に於ても蘇聯を初め反樞軸諸國、重慶、ポーランド、ベルギー、オランダその他の亡命政權をも糾合せる反樞軸聯合軍を組織して、樞軸側に對抗するに至つたの

で、全世界は僅か數ヶ國の中立國を除いて、數十ヶ國が樞軸、反樞軸の二大陣營に分れて相戦ふの大戦亂場と化し、五大洲、七つの海の到るところに於て戦争が行はれ、實に人類有史以來の大戦争が展開されたのであり、この點に於て、本年は世界歴史の上に特筆さるべき重大なる年であると言はなければならぬ。

第二章 獨・英及伊・英希の戦況

新年に入つてから歐洲一帶に寒波が來襲し、而も風雪を伴ふの悪天候が続いたので、一月、二月の獨英戦線は冬眠状態に入つたと評されたが、それでも年末からロンドン猛爆を續けた獨空軍は、この悪天候を冒して、新年の早くも三日から出撃し、晝夜に互り、イングランド東海岸地方に爆撃を加へたのに始まり、次で五日夜にはロンドンに對して夜襲を行ふ等連日頻りに活躍を示し、二月九日には長驅アイスランドの首都レイキヤヴィックに對して初空襲を行つた。これに對して英國側でも八日、獨本土北岸を空襲し、九日には獨本土を始めフランス及びオランダの占領地に爆撃を加へて應酬し、連日に互り相互爆撃戦を展開しつゝ二月を終つた。

なほ、一月三日、エールの首都ダブリンに對して國籍不明の飛行機が爆撃を加へたが、同國當局は

調査の結果獨飛行機を行爲となし、六日ベルリン駐劄の代理公使を経て獨外務省に抗議を申入れた。これに對して獨外務省は七日、調査の結果、獨機が誤つて爆撃した事實が明らかとなつた場合には、陳謝並に賠償を行ふに吝でない旨の聲明を發表した。

斯くの如く歐洲本土に於ける戰況が専ら空爆戰のみに止まる不活潑な状態を呈せるに反して、獨海空軍は大西洋を始め地中海、遠く印度洋、太平洋方面にまでも及んで旺盛なる活躍を示し、二月中に於ける獨海空軍の敵船舶撃沈數は、海軍によるもの五十五萬噸、空軍によるもの十九萬噸、合計七十四萬噸に上つたと發表され、英國始め反樞軸側を戰慄せしめたのであつたが、ヒットラー總統は一月三十日、シュポルトパラストに於けるナチス政權獲得八周年の記念大會の席上、左の如く、潜水艦戰の開始及び、英國援助のための米船舶に對する撃沈警告を與へて、各方面の注目を惹き、特に米國に於ては大きな反響を呼び起したのであつた。

『英米兩國はドイツが世界制覇を目指してゐると稱してゐるが、事實上はイギリスこそ全世界を征服し今なほこれを繼續せんと努力してゐるではないか。自己の權力を保持するためにヨーロッパを混亂に陥れること、これが從來イギリスの踏んで來たやり方である。而して地球の大部分に對するかくの如きイギリスの支配は理念に基いて繼續されてゐるのではなく、權力と政治とに基礎を置いてゐる。その結果は周知の如くインド、エチプト及びその他の地方において數千數萬の牢獄が現出してゐるではないか。イギリスの如き小國が地球上のかくも大きな部分を支配してゐることが不正以外の何物でもないことを強調することは、この際特に重要である。イギリスは

この大帝國を永續せしめんとしてゐるが故にドイツとの共存を許すことが出來ぬのである。これがためドイツは狭少の地に踞踏せしめられ窮乏の極におとし入れられた。同様の状態はイタリアに關しても眞實である。イギリスは口を開けば自由と民主主義とを讃へるが、全世界の大部分に見る窮乏、悲惨、飢餓、不幸等はこれはいはゆる民主主義制度の成果に外ならぬのだ。

今日イギリスは愚かにもドイツの實力を輕視してゐる。ドイツが現在如何によく武装されてゐるか、これまでに示して來た實力の數千倍に上る實力を依然として保持し、如何に多くのものを擁してゐるかを敵が本當に知つてゐるかどうかを疑ひたい。われ／＼は自己の要求を力説強調する用意を存してゐる。われ等は非合理なものは何物をも要求しない。ただ當然われ等に屬するものを獲得せんとする意思を有してゐることのみ主張する。イギリスでは戦ひ未だ耐なる今日、戦後の社會改革についての議論が行はれてゐるが、かくの如きはまことに憐むべき古風のやり方といはねばならぬ。もし戦争が非常に長期に亘る場合には、イギリスがわれ／＼の許に委員を派遣し、社會正義に基くドイツの改革案を詳細に示されるやう教へを乞はねばならぬ。さういふ道化芝居は想像するだけ滑稽である。われ等はいま大陸に敵としてその地位を堅持してゐる。何者もわれ等を大陸から放逐することは出來ぬ。ドイツは既に相當數の基地を建設した。時到期なばこれを根據地としてイギリスに對し決定的打撃を與へるであらう。ドイツは時間の利用に成功した。敵は本年内に必ずやこの事實を理解するであらう。われ／＼は欲せざる戦争を遂行してゐるのである。しかしイギリスその他の國民に正義感が發生しない限り、今度こそ彼等は十分準備ができたドイツ國民に對抗するのだから、完全に息の根を止められるものと覺悟すべきであらう。彼等がイタリアの崩壊といふ如きことに一縷の望を囁いたとしても、余はそれは笑止の沙汰だといはざる

を得ない。ミラノの暴動説を流布する暇に自國に革命が起らぬやう警戒せよと余は進言したのである。陽春と共にわれ／＼はポルト戦を開始するであらう。これによつて世界はわれ／＼が決して冬眠してゐなかつたことを思ひ知るであらう。またわが無敵空軍の活動も一層熾烈化するであらう。完全に武装せる全ドイツの將兵は今度決定的手段を執るであらう。われ／＼は場所の如何を問はずイギリスに對し攻撃を加へるであらう。友邦イタリアが對希臘線において喫してゐる僅かばかりの苦汁をイギリス國民が自己の勝利への第一歩と信するならば余は敢てイギリス國民に、そは自らの避く可からざる敗北を惧れる餘りはかない勝利を夢想する哀れな心理にすぎない事を警告したい。

今次のヨーロッパ戦は獨伊が一體となつて戦つてゐる戦争である。ドイツとイタリアとは切り離された二つのものではない。ムツソリーニ首相と余はユダヤ人もなければ陰謀家でもない。われ／＼の固き握手が如何なるものであるかは今度こそ明瞭になるであらうし、また明瞭ならしめることがわれ／＼の義務と考へる。一九四一年はヨーロッパ新秩序建設の巨歩を踏みだす眞に畫期的な年となるであらう。ヨーロッパ新秩序建設のプログラムのうち最も主要なものは種々なる特權及び專制の廢止である。一九四一年は正に諸國民の間に理解と平和をもたらしすべき基礎を創造する年でなければならぬ。萬一ヨーロッパ以外の地域が戦争の渦中に投ずるとしても余は一九三九年九月一日に國會でヨーロッパからユダヤ的支配を驅逐せねばならないと述べた點をもう一度強調するのみであつて、われ／＼の根本方針は毫も變らないのである。イギリスは他國特にアメリカからの援助を望んでゐる。しかしドイツ國民はアメリカ國民に對し何らの敵意も抱いてはゐない。ドイツはアメリカ大陸の自由獲得のための戦ひに對する援助以外にはアメリカ大陸に對しかつて何等の關心を持つたことはない。イギリスは又恐

らくバルカン諸國の希望をも抑へつけるかも知れないが、然しわれ／＼は如何なる地域でイギリスがわれ／＼に對抗的措施を取つて來ようとも、これに一撃を加ふる用意がある。もしアメリカがヨーロッパ紛争に干渉せんと試みるならばドイツはヨーロッパを擁護するためその戰術を變更するのみである。如何なる國といへどもイギリスを援助し得ると考へる國は次の一事、即ち直接戦闘に参加すると否とを問はずイギリス援助のために航行する船舶はすべてわが水雷管の發射に見舞はれるものとの一事を銘記すべきである。イギリスは他の國をも戦争に捲き込み得るとの希望をつないでゐるかも知れないが、われ／＼はあらゆる場合を豫測し萬全の對策をととのへてゐる。究極の勝利はわれらのものである、われ／＼の豫言の正しいことはやがて事實によつて立證されるであらう。以上の如くわれ／＼はドイツの勝利を確信するものであるが、余は更に他の諸國がその最も恐るべき内敵を自覺しユダヤ資本の搾取に對しわれ／＼と共同戦線を結成せんことを望む者である。今やドイツ國民は萬難を排しヨーロッパの指導權を獲得せんとしてゐるし、又今次戦争の目的がそこにあることもよく知つてゐる。ドイツが受ける打撃は必ずや倍加されて敵に返報されるであらう。』

一方、ギリシア戦線は、前年末より全く膠着状態に陥り、僅かに伊、英海軍相互に爆撃が交換され一月末よりアルバニア國境方面に於て伊軍が反撃に出たと報ぜられた程度に止まつて居たが、北アフリカ戦線は頗る活況を呈し、キレナイカ地方のバルディアに於ては、前年十二月上旬より展開された攻防戦愈々決戦に入り、また、伊領ソマリランド及びエチオピアに孤立せる伊軍に對する英軍の攻撃は激化し、さらに、地中海各方面に於ては、獨伊軍が英海軍に對して果敢なる攻撃を加へ、屢々、

大なる戦果を挙げたのであつた。

即ち、伊領リビアのキレナイカ戦線に於ては、英侵入軍はバルディアに對して一月三日を期して陸海空三軍協力による猛攻撃を開始し、伊軍は善戦に努めたが、遂に同五日リビア東北端の要港バルディアは陥落し、次で英軍はトブルクに殺到し二十日間に亙る激烈なる死闘の後、二十五日、同地も遂に英軍の手に歸したが、さらに伊軍は一月三十日にはデルナを、また二月六日にはキレナイカ北部の要衝ベンガジよりも撤退し、同戦線に於て伊第十軍司令官テレラ大將が戦死する等、伊軍頻りに苦戦を重ねつゝあつたが、東アフリカのエリトリア及びソマリーランド戦線に於ても、各方面より侵入し來れる英軍を迎へて伊軍は奮戦を續けたが、本國より孤立し、補給全く杜絶せる伊軍は非常なる苦境に陥り、戦況は漸次伊軍に不利となり來つたのは已むを得ないことであつた。

然し、一方ギリシア及び北阿戦線に於ける事態に鑑み、伊空軍司令官は、獨軍占領地に在つて對英空襲に参加しつゝあつた伊空軍を本國に歸還せしむると共に、獨空軍の一部を伊空軍基地に移駐して地中海作戦に協力せしむることとなり、一月二日、プリコ伊空軍司令官はこの旨を布告し、伊空軍將兵に對して獨將兵との緊密なる協力を命じたのであつた。斯くて獨伊空軍の活躍は目醒しく、イタリアの参戦にも拘らず、今日まで全く英軍の支配下にあつた狹隘なるシチリア水道を通過してアフリカに聯絡せる英軍の補給路は、忽ちにして、獨伊軍の猛攻撃により重大な脅威を受くるに至つた。

即ち、一月六日より十三日にかけて行はれた獨伊軍の攻撃は、英輸送船團に大打撃を與へ、その護衛にあたる英軍の、航空母艦イラストリアス、巡洋艦ザンプトン、驅逐艦ギャラント等を撃沈破したる他、マラヤ級主力艦一隻を初め驅逐艦及び潜水艦等の多數に大損害を與へるの大戦果を挙げたのであつた。また北阿戦線の側面攻撃として、獨空軍はバルディア港を初め、エジプト・スーダンの各地、マルタ島の英軍に對して猛烈な攻撃を行ひ、何れも大なる戦果を挙げつゝあつた。また、二月十三、四日の兩日に亙り、伊北部山麓のメラノに於て、獨レーグー海軍總司令官と伊リカルテ海軍次官との會見が行はれ、地中海共同作戦に關する協議が行はれたが、これにより、地中海に於ける獨伊空海軍は愈々猛威を逞うし、英軍は非常な損害を受くるに至つた。

第三章 バルカンに於ける獨英蘇の外交攻勢

前年末に於けるバルカンの情勢は、ハンガリー、ルーマニア、スロヴァキア三國の日獨伊三國同盟條約加入により、バルカンの大半は、獨伊樞軸の勢力下に歸するに至つたが、残る問題は中立維持に汲々たるトルコは暫らく別として、差し當つてブルガリア及びユーゴ・スラヴィアの動向が問題と

されるに至つたのであるが、前年十二月十二日、チャーキー洪外相のベルグラード訪問によつて調印された洪ユ友好條約は、バルカン外交に一期を劃すものとして注目され、特に反樞軸側ではこれを以てユーゴの樞軸接近の傾向を現すものとして多大の關心を示したのであつた。

なほ、右洪ユ友好條約の全文は次の如くである。

第一條 洪ユ兩國は永久に平和を維持しその友好關係は永遠に變ることなし。

第二條 締約兩國は兩國相互關係に關聯ありと思惟する一切の問題につき審議すべきことを約す。

第三條 本條約は批准を要し批准文書は可及的速かにブダペストに於て交換すべきものとす。本條約は批准交換の日よりその效力を發生す。

本年に入るやブルガリアのフィロフ首相は新春早々の一月二日、病氣靜養を口實にウィーンに赴き七日ソフィアに歸還したが、この間、ウィーンに於てドラゴノフ駐獨勃公使と協議し、また、同地滯在中のリツベントロップ獨外相と會談し、さらに、四日にはザルツブルグに赴きヒットラー獨總統と會見したと傳へられた。また、勃國王ボリス三世もフィロフ首相と前後して極秘裡にウィーンに赴いたとの説も傳へられ、各方面の注目を惹いたのであつた。

斯くてウィーンより歸着したフィロフ首相は、一月十二日、ブルガリアの嚴正中立政策を強調すると共に、ルーマニアに對する友好的態度を表明せる左の如き放送を行つた。

『ドゴルジア返還問題に關し獨伊蘇三國がブルガリアに與へられた援助に深謝するものであるが、ブルガリアを

國家社會主義、共產主義乃至ファシズム化せしめることは絶対反對である。ブルガリアはルーマニアと友好關係を切望して居り、國境改訂交渉は是非共に平和的手段によつて行ひ度い。ブルガリアの外交政策の基礎は次の二項に盡きる。

(一) ブルガリアを外國の戰爭から保衛する。

(二) ブルガリアのみならず全バルカンの平和維持。』

然るに一方、ルーマニア政府は一月十四日『ドナウ河口は危險水域たることを黒海上の凡ての船舶に警告す。右警告を聞かずして同水域を航行するものは自己の危險に於て之を爲すものである』と公表し、何等かルーマニア國情の異變を想はしむるものがあつたが、一月十八日、ブカレストに於て獨參謀將校デーリング少佐の暗殺事件が勃發し、アントネスコ首相は事件の責任者としてペトロヴィツチエスコ内相を罷免し、ブカレスト衛戍司令官ポベスコ將軍をその後任とすると共に、鐵衛團員警官全部を罷職する旨の布告を發表した。この布告に對して五百名の鐵衛團員は不満を表し二十一日に至り叛亂を企て、これが鎮壓に向へる陸軍部隊と衝突市街戰を現出したが、叛亂は忽ち全國各地に波及し、死者のみにても、數千に達したと報ぜられたが、アントネスコ首相は事態の重大化を防ぐために警察權を全部軍隊の手に移して治安の維持を圖り、擾亂の指導者たるシマ鐵衛團長の逮捕と共に、鐵衛團急進派首腦部の自決を要望せる結果、二十六日に至り叛亂は全く鎮壓された。

斯くてアントネスコ首相は翌二十七日、鐵衛團員及び前閣僚一切を除き、且つ専門技術者以外は全

部國軍出身者を以て組織せる左の如き完全なる獨裁新内閣を組織した。

△首相兼外相アントネスコ將軍、△内相ボベスコ將軍、△藏相ストエネスコ將軍、△國防相ヤコビキ將軍、△經濟相ボトガン將軍、△法相ドカン判事、△文相ロセツチ將軍、△交通相ジエオルジエスコ將軍、△農相シキチン將軍、△財政調整相グラゴミル大佐、△勞働保健相トメスコ教授、△宣傳相クライニツク教授

以上の如き各國の動向に對して英國では何れもドイツのバルカンに對する外交攻勢を現すものとしてこれを重大視し、二月九日、チャーチル首相は『ドイツは黒海岸に向けて新たな作戦を展開しようとして居るが、先づ最初に目指すのはブルガリアであらう。ドイツはハンガリーを手中に收めルーマニアの國內情勢を混亂に陥れた……』と放送したが、翌十日に至り、突如として英國政府はホーマニアの國內情勢を通じて『英國とルーマニアとの外交關係は決裂した』旨の通告をアントネスコ羅首相に手交せしめ、同公使の引揚を發表した。これに對してルーマニア政府も翌十一日、在英のフロレスコ代理公使以下全公使館員に對して召還命令を發し、英駐羅公使の出發日たる二月十五日を以て羅英外交關係は斷絶する旨を發表した。

この英國の對羅斷交は、バルカンの情勢に一大危機を齎したものであり、これに伴ひ愈々獨軍のブルガリア進駐は必然的と見らるゝに至り、従つてこれに對するトルコの態度が重大視され、一時は勃土國境の緊迫が傳へられた程であつたが、二月十七日、勃土不可侵協定が成立し、アンカラに於てサ

ラジョグル土外相とクリストフ駐土勃公使との間に調印され、同時に左の如き不可侵共同宣言が兩國政府より發表された。

『勃土兩國政府は屢次に互る意見交換の結果茲にその完全なる成果を見て、兩國の相互信頼と友好關係が傷けられることなく、而して兩國政府が兩國間の牢固たる平和と眞摯にして永遠の友好關係を保障する兩國友好條約に忠實であり、又兩國政府が兩國自身の安全を相互に尊重することにより、平和と秩序を維持せんとする相互信頼の政策を基礎として立つことが兩國の利害と目的に一致するものであるとの確信に到達した。勃土兩國政府は相互の意見を交換するに決し次の諸點に關し完全なる意見の一致を見た。

- 一、勃土兩國は如何なる侵略をもなさざることをその對外政策の不動の基礎となす。
- 一、兩國政府は相互に友好的措置を講じ、その善隣關係に於ける相互信頼を維持し且つ之を強化する。
- 一、兩國政府は兩國内の經濟機構と調和する相互の通商關係を出來得る限り擴張する爲の先決條件を創り出すべく用意してゐることを茲に宣言する。
- 一、本共同宣言は兩國の友好關係と相互信頼を再確認するを以て目的とするものであり、右に鑑み兩國政府は兩國の新聞がその紙上に於いてこの友好關係及び相互信頼を強調せんことを希望する。』

右の勃土不可侵協定の成立は、事實上英土軍事協定を無効ならしめるものとして、獨外交の勝利と見られたが、その成立には實力を背影とする獨外交が威力を發揮したものであるが、なほ、トルコを伊希戰爭の渦中に捲込まれることを極力回避し、バルカン全土の安定を要求する蘇聯が、勃土兩國に側面的に働きかけたことも與つて力ありとされ、昨秋、ヒットラー總統とボリス三世との會見直後に

ソフィヤに乗り込んだ蘇聯外務人民委員部總務局長ソボレフの活躍が注目を惹いたのであつた。

然しながら、英國側もその對抗策に躍起となり、勃土不可侵協定の成立によりトルコは英國との相互援助條約を事實上廢棄したものであるとの説を否定すべく、トルコに壓迫を加へたるものゝ如く、二月二十三日、サラジヨグル土外相は『トルコは外國からの攻撃を受ける場合は勃土友好不可侵協定とは關係なく、英土相互援助條約に支援されて起つ用意をして居る。』旨の聲明を發表したが、同二十六日にはイーデン英外相がチル參謀總長等を帶同してアンカラに到着し、二十八日までの三日間に互つてサラジヨグル外相並にチャクマツク參謀長を始めトルコ政軍首脳部と會談して活潑なる工作を試み、さらに三月二日ギリシアのアテネに赴きゲオルギオス國王を始めコリジス希首相、パパゴス希軍最高司令官等と會談し、對ブルガリア策について協議すると共に、對伊抗戰繼續についてギリシアを激勵するところがあつた。

なほ、この間に、二月二十六日モスクワに於て、蘇聯とルーマニアとの通商航海條約並に通商支拂協定が、ミコヤン蘇聯外國貿易人民委員とガフェンコ駐蘇羅大使及びレモヤヌ特派使節との間に調印され、蘇羅兩國の第一年度貿易總量を八百萬米ドルとし、相互より總額四百萬米ドルの物資を交換すること、及びルーマニアは主として蘇聯にガソリンを輸出し、これに對して、蘇聯は主として綿、鉄、鐵をルーマニアに輸出することに協定が成立したこと、同二十八日、ユーゴスラヴィアとエチプ

トとの間にベーター協定が成立し、ユーゴスラヴィアよりは木材を輸出し、エチプトよりは棉花を輸出することに協定されたことは、何れも夫々の經濟關係を表現したものと見て注目すべきものであらう。

斯くて三月一日、ブルガリアは日獨伊三國同盟條約に加盟したが、これに關してフィロフ首相は左の如き聲明書を發表した。

『余はヒットラー總統及びリッペントロップ外相との會談からブルガリア國民の利益に對する完全なる諒解を見出し得たとの印象を受けたのである、余がチアノ外相との間に行つた會談も又同様に極めて満足すべき結果を得た。ブルガリアは三國同盟が歐洲に於ける新しい且正しき秩序を保障し得る平和の手段であると見做すものであり、余はブルガリア國民と強力なる日獨伊三國民との間の不滅の友情を神聖に誓つた。今回の歴史的事實に心からなる満足を覺えた。而して我々が諸隣邦と締結する友好諸條約並びにブルガリアの對ソ關係は我々の傳統的善隣政策の精神に於て今後も持續されるであらうことを確信する。余が本日調印せる三國同盟參加議定書はブルガリア國民の諸利益と一致し、且つ將來も重要性を喪失することはないと確信するものである。』

なほ、右同盟條約參加と共に、豫ねてルーマニアに待機中の獨逸陸軍は潮の如くブルガリア領に進駐し、ギリシア及びトルコの國境に向つて南下したが、この進駐に關して獨逸軍司令部は三月二日『獨逸軍は東南歐に於てイギリスが行つてゐる策謀として傳へられるものに對する防護的措置として、ブルガリア政府の同意を得て三月二日を期し、ブルガリア國內へ進駐を行ふに至つた。獨逸軍進駐部隊

は到る所でブルガリア國民の熱誠なる歓迎を受けつゝある』と發表した。

また、蘇聯邦政府は三月一日ブルガリア政府より、バルカンの平和維持の目的により三國同盟加入並に獨軍の進駐を許容せる旨の通報を受けたのに對して、三日、不滿の意を表せる回答を、在モスコ―勃公使を経て同國政府に送つた旨を、四日、タス通信を通じて左の如く發表した。

『ブルガリア外務省代表アルチノフ氏は一日ラヴレンチエフ駐勃蘇聯公使を通じ蘇聯政府に對し、ブルガリアはバルカンにおける平和維持の見地から獨軍のブルガリア進駐に同意を與へた旨傳達し來つた、これに對し三日ヴイシンスキー外務次官はスタメノフ駐蘇勃公使を通じてブルガリア政府に對し次の如く回答を送つた。

一、蘇聯政府はブルガリア政府が今回の事件において當面せる立場の正確なる解釋に關しブルガリア政府の見解に同意することは出来ない、即ちブルガリアのかかる態度はブルガリア政府が好むと好まぬとに拘らずバルカンの平和を鞏固ならしめるより寧ろ戦火の範圍を擴大しブルガリアも結局はその中に捲込まれる誘因となるからである。

一、平和政策に忠實ならんとする蘇聯政府の見地からはソ聯はブルガリアの現在の政策を妥當とし、これを支持することは出来ない、蘇聯政府はブルガリア諸新聞が流言を流布し事實の真相から遠い誤報を報道しつつある状態に鑑み特にこの聲明を敢て發するものである。』

ブルガリアの樞軸同盟加入並に獨軍の進駐が發表されるや英政府は、三月五日附を以て『ブルガリアは三國同盟に参加せる故を以て同國との國交を斷絶する』と發表し、さらに、經濟戰爭相並に貿易

相の名を以て『ブルガリアを敵國の占領下にあるものと見做し貿易禁絶に關する措置を執る』旨及び『ブルガリア國との取引は對敵取引禁止令を適用せられる』旨を公表したのであつた。次でユーゴスラヴィアに於ては三國同盟加入を繞つて政變が勃發し、遂に樞軸軍の進撃となり、こゝに俄然戦局の發展を見、ユーゴスラヴィアの崩壊及びギリシア降服を見るに至つたのである。

なほ、三月五日、英政府がレンデル駐勃公使を経てフィロフ首相に手交せる斷交覺書は左の如くである。

『敵國ドイツの軍隊は明らかに英國の同盟國を攻撃する意圖のもとに貴國の同意を得て貴國に進入した、よつて貴國はドイツの管理下にありすでにその對外政策の獨立性を失つたものと看做されなければならぬ、また貴國政府がポーランド、ベルギーの公使並にオランダの代理公使に國外退去を要請したことの背後にドイツの壓力があることは明瞭である、貴國側ではドイツ軍の進入は不可抗力であるといふが貴國在住の英國國民の利權に對して貴國當局の加へて來た迫害は如何ともし難い事實である、フィロフ首相は三月二日の演説でドイツ軍の進入はブルガリアの平和を維持するため一時的に過ぎないと言明したが英國政府は貴國の平和が三國同盟加入國以外の國によつて脅威されたといふ事實を認め得ない、ドイツ軍貴國進入の目的が英國の同盟國たるギリシア攻撃にあることは明らかである、英國政府は貴國がドイツと協力する意思なることを確信する。』

斯くて、三月に入りユーゴスラヴィアの政變によつて、捲き起された情勢は遂に獨ユ戰爭の勃發となつたのであるが、この情勢の最も緊張を示した三月二十五日、モスクワ及びアンカラに於て蘇土

友好宣言が發表され、兩國が一九二五年の相互不可侵條約の再確認を爲せる旨の共同宣言を行つたことは、蘇聯の動向を示したものとされたが、さらに、四月五日、獨ユ開戦の寸前に於て、ユーゴスラヴィアとの間に不侵略條約を締結せることは後述の如くであり、この蘇聯の態度は、獨蘇關係について深刻なる風説が行はれて居たことに鑑み、注目すべきこととされた。なほ、蘇土友好宣言の全文は左の如くである。

『一部外國新聞が蘇聯政府はトルコに戦禍波及の場合トルコ政府が直面する困難を利用しトルコを攻撃するであらうと報じてゐるに鑑み蘇聯政府は過般來蘇聯トルコ兩國政府間に交換された宣言に基きトルコ政府に對し

一、この種報道は蘇聯政府の立場と斷じて一致せざることを

一、トルコが外國の攻撃を受け國土防衛の爲參戰の已むなきに至つた場合トルコは蘇聯、トルコ兩國間に存する不可侵條約に基き蘇聯政府の完全なる諒解と完全なる中立維持を期待し得ること

の二項を通告した。トルコ政府は蘇聯政府に對しこの通告に對する深甚の謝意を表し、且つ同様の事態が蘇聯

邦に對して惹起せる場合には蘇聯政府も亦トルコの完全なる諒解と中立維持を期待し得ることを明かにした。』

〔註〕右の蘇土友好共同宣言によつて再確認された蘇土友好及中立協定とは一九二五年十二月十七日パリで調印されたもので、左の如き條項を含み、すでに一九二一年のモスクワ條約で緊密化された兩國關係をさらに一歩進めたものであつた。

第一條 一又は二以上の第三國が締約國の一に對し軍事行動に出でたる場合には他方の締約國は右締約國に

對し中立を維持すべきことを約す（註、軍事的演習は他方の締約國を害するものに非ざるに依り「軍事的行動」に包含せざるべし）。

第二條 締約國の各は他方に對し一切の侵略をなさざることを約す。

第四章 獨ユ關係遂に爆發

ユーゴスラヴィアに於ては、ツヴェトコヴィツチ首相並にマルコヴィツチ外相によつて、日獨伊三國同盟加入が決定され三月十四日を以て調印される運びとなるや、首相外相等の親獨政策に對して多大の不滿を抱くセルヴィア人出身閣僚たる法相コンスタンチノヴィツチ（急進黨）及び農相ツブリロヴィツチ（農民黨）及び社會相ブデイサヴィエヴィツチ（獨立民主黨）の三閣僚は二十一日突如辭表を呈出したので、政局は忽ち急迫したが、ツヴェトコヴィツチ首相は政局收拾のため鋭意後任閣僚の詮衡に努めた結果二十四日に至り、農相にキイトヴィツチ博士を社會相にイコニツチを任命して内閣を改造し、二十五日を以て三國同盟加入議定書に調印したのであつたが、同日の調印式に於けるツヴェトコヴィツチ首相の挨拶は左の如くであつた。

『一、ユーゴ國の外交政策基調は國民の自由、獨立、統一擁護にあり、隣邦との和平關係確保にある。

一、ユーゴ、ドイツ兩國關係は一九三四年以降の歴史に明らかなる如く常に友好的である、ドイツはユーゴの國家統一の希望を常に正しく認識して來た、イタリヤとも一九三七年の友好條約締結以來の親善關係はいささかの動搖もなかつた。

一、今回の同盟加入によつてユーゴが戰禍からまぬがれ、しかも歐洲新秩序の中に重大な役割を受持つに至つたことは欣快に堪へない。』

然しながら國內に於ては軍部を中心として親樞軸政策反對運動が激化し、遂に二十七日に至り軍部によるクーデターが行はれ、ツヴェトコヴィツチ内閣は崩壊し、パウエル、ペロヴィツチ及びスタンコヴィツチの三攝政も退位し、國王ベタール二世は『我が國が危殆に瀕せる此の秋に當り、余は國家の實權を余の手中に收めることを決意した、三攝政は事の重要性を悟り自發的に辭職したのである、依つて余は茲にシモヴィツチ將軍を新内閣の首班に任命した。』との親政の布告を發し、これにより陸軍參謀總長兼空軍司令官シモヴィツチは即日組閣を完了し、左の如き新内閣が成立したが、こゝに二十五日正式に調印を了つた三國同盟關係は急轉を見るに至り、ユーゴスラヴィアを繞る事態は俄然重大化するに至つた。

△首相ダシアン・シモヴィツチ將軍、△副首相ブラドコ・マチエツク(留任クロアト黨首領)、△副首相スロボダン・ヨヴァノヴィツチ、△内相ブデイサルエヴィツチ、△外相ニンキツチ、△藏相ユラユ・シエテユ博士、△陸海、體育相ボゴリユー・イリツチ將軍、△法相マルコヴィツチ、△文相ミツシャ・トリフノヴィツチ、△交通相

ボグリコー・エフテイツチ、△商相イワン・アレドレス博士、△工業相ダフェル・クレノヴツチ、△社會保健相ミラン・クロール、△遞相トルバル博士(留任)、△労働相フラレツ・クロヴエツツ、▲無任所相マルコ・ダルコヴツチ

即ち、シモヴィツチ新内閣の出現は、ユーゴスラヴィアが百八十度の方向轉換を行ひ、反獨的態度を表明したものに他ならなかつた。シモヴィツチ新首相は二十七日、ヘイレン駐ユ獨公使を通じて三國同盟に對する態度に關し左の如き通告をドイツ政府に送つた。

『一、ユーゴスラヴィア新内閣は同國の三國同盟參加協定廢棄は行はれないがベタール二世並に同國議會は三國同盟加入後民意に反するものであるからその全條項を履行することは不可能なりとしてこれに對する批准を行はない。

一、ユーゴスラヴィアは獨伊兩國のみならずその他の諸國とも一樣に友好關係を維持するを希望、又今後も絶對的中立を守らんとするものである。』

一方、英國はユーゴスラヴィアに於けるクーデター勃發の報に對して狂喜し、二十七日、チャーチル首相は保守黨大會の席上に於て次の如く、シモヴィツチ新政權に對する全幅的支持を言明した。

『英國はユーゴスラヴィア新政府に對し全幅的支持を與へることを誓約する、予は米政府もドイツのユーゴスラヴィア制壓反對運動に對し支援を與へるものと確信する、英國は米國の援助の下に誓つてドイツを粉碎し遠からぬ將來において決定的勝利を宣言し得るに至るであらう、我々は國內團結維持のため最後の勝利を得る日まで

で犠牲を拂ひ續けるであらう、予はまだ當分戰爭目的を闡明しない、これを云々することは各方面の反對意見を誘發する惧れがあるからだ、全世界をヒットラー主義から救ふためには英語圏の協力こそ必要である。

ルーズヴェルト米大統領は三月二十八日夜ベタール國王治下の新ユーゴ政府を完全に承認し、樞軸の侵略に對する抵抗を激勵せるメッセージを同國王に送つた。

また、蘇聯政府は二十九日、シモヴィツチ政權に對して『蘇聯はユーゴスラヴィアの政變に祝意を表し、且つユーゴスラヴィア國民が光輝ある傳統に恥ぢざる果敢なる態度を示したことを欣快とする』との祝電を送つたとの報道も傳へられた。

然しこれに關しては、四月一日の黨機關紙ブラウダには、

『ブルジョア新聞特派員には蘇聯について見え透いた嘘を流布する癖がある、米國系某通信社ベルグラード特派員は蘇聯がユーゴスラヴィア新政府に對し光榮ある過去にふさはしいユーゴスラヴィア國民の行動に對して祝辭を送つたと傳へてゐる、しかし事實上、蘇聯は何の祝辭も送つたことはない、この報道は終始眞赤な嘘である、しかもこの嘘は必要によつてつかれたものでなく、習慣によつてつかれたものである、この嘘には反ソ運動につきものの惡意的な性質はないが、勿論、ユーゴ國民は祝辭を受ける資格はある、しかし蘇聯政府はかかる祝辭を忘れたのかこれを送らなかつたのだ、この報道は全部ブルジョア嘘つき連の製造品にすぎない』

とのザラフスキーの評論が掲げられ、祝電説を否定して居るが、これは極めて微妙な蘇聯の態度を示すものとして注目された。

シモヴィツチ新政權は、二十七日、全國に戒嚴令を布告し、軍隊が國內の秩序維持に當るべき旨を宣言したが、各地に反獨的示威運動が行はれ、形勢刻々惡化の兆を示しつゝあつたので、二十九日正午、ベルグラードの獨公使館はセルビア地方に於けるドイツ居留民に對して一齊に引揚げを勧告すると共に、同夜、ヘイレン獨公使は、シモヴィツチ首相に對して、三國同盟に對する新政府の態度を明確にされ度しとの、本國政府よりの正式要求を提出した。この要求は三十一日を期限としたものであつたが、これに關聯して、三十一日、獨外務省情報部長は左の如き、獨政府の強硬態度を表明した。

『ユーゴスラヴィア國內の反獨デモは愈々激化しつつあり、ドイツ人に對する迫害行爲、獨國旗凌辱事件は到處で繼續してゐる、ドイツが同盟國と共に國力を擧げて大戰爭を遂行しつつある際、ドイツの威信を公然毀損するが如き行爲に對し何時迄も之を拱手傍觀してゐることは出来ない、獨政府は六十萬に上る獨少數民族並に獨居留民の安全を保護する爲め引揚命令を發したが、セルビアの盲目的愛國主義者共はドイツの忍耐にも限度のあることを知らねばならぬ、新政府がかかる分子の反獨運動に對し徹底的鎮壓の手段に出ないばかりか獨ユ國交の調整に努力して來たヴレーメ紙の主筆其他の新聞人を逮捕してゐることは反獨政策の明瞭な現れである、ベルリンのアンドリツチユーゴ公使はベルグラードに歸つたがヘイレン駐ユ獨公使も近く歸國して現地情勢につき打合せを送げることにならう。』

また、ブルガリア政府も、二十九日、シモヴィツチ新政府に對し、三國同盟を含む從來の同國の外交政策を變更せざる様にとの、友好的な非公式警告を發したと傳へられて居るが、なほ、勃政府のス

ボークスマンであり且つ議會に於ける多數派の首領であるソルチャネフは、新聞記者團に對して次の如き談話を發表した。

『何事が起らうともセルビア人とブルガリア人が絶対に敵として相見ることがあつてはならない、戦争が遂にバルカンにまで波及した曉には一、二の國家は必ずや互に敵として犠牲に供されることは明かである、ブルガリア國民は新ユーゴ政府が一時的の感情に驅られることなく堅實なる理性より出發した決斷を生み出さんことを希望する。』

斯くて三十一日、シモヴィツ首相は、

「ユーゴスラヴィアの陸、海、空軍は今や全く出動準備の態勢を整へた、文官及び僧侶諸氏は如何なる事態が生じても斷じてその職場を死守すべきである、一般人民の避難は特別の文書による命令による以外は許可しない。」との聲明を發表し、對獨強硬態度を表明した。よつてヘイレン獨公使は同日午後急遽ベルグラードを發してベルリンに歸還したが、獨政府はヘイレン公使の報告に基き、ユーゴスラヴィア對策を検討せる結果、ユーゴ問題について重大なる決意を爲すに至つたが、シモヴィツ内閣が斯くの如き對獨強硬政策に出でたのは、英國の支持を恃んでのことであり、従つて英國の策謀が如何に熾烈であるかを窺ふことが出来る。即ち、シモヴィツ首相が強硬態度を表明し、ドイツの態度が硬化するや、イーデン英國外相はチル參謀總長を帶同、翌四月一日、アテネよりベルグラードに到着、シモヴィツ首相以下のユーゴ政府首脳部と協議を擬すところがあつた。また、米國も盛んに反獨工作を行ひ

つゝあり、これについて四月六日のフェルキツシュ・ベオバハター紙が、既に本年一月ルーズヴェルト大統領の特使ドヴァン大佐が、ベルグラードを訪問して復々畫策したと、米國の陰謀を暴露攻撃したるが如く、ベルグラードの外務省は英米の策謀によつて混亂し、加ふるに國內に於てはシモヴィツ新内閣の副首相に任ぜられその去就を注目されて居たクロアト農民黨の首領マチェツク博士は四月一日、

(一) クロアト人、セルビア人、スロヴァキア人代表を以て構成する強力な最高政治會議を樹立すべきこと。

(二) ベタール二世は三月二十七日クーデターにより王位に即いたもので憲法上適法と認め得ない。

との二ヶ條の條件を提示し、嘗つて彼を投獄せるが如き政權に協力することは全く不可能である旨を附言し、新内閣に對する非協力の態度を表明し、こゝに反獨テロを激化しつゝあるセルビアの急進分子との民族的對立は俄然重大化し、ユーゴスラヴィア内外の情勢は、まさにチエコ・スロヴァキア崩壞の前夜に彷彿たるものがあつた。

然し、豫ねてから總動員態勢を整へつゝあつたユーゴ軍は四月四日を以て動員を完了し、セルビア人の居住地の中心であり、且つ、ブルガリア、ルーマニア、ハンガリアの三國國境に接する地方に軍を集結しつゝあつた。こゝに於て、五日、獨外務省スポークスマンは、獨ユの外交關係は事實上斷絶状態に入つた旨を聲明し、また、ユーゴスラヴィア政府官邊も、獨ユ關係は最後の一分間に到達

した旨を言明し、こゝに最早獨ユの一戦は不可避の情勢に陥つたのであつた。

なほ、この五日、蘇聯政府の機關通信タスによつて、蘇聯とユーゴスラヴィアとの間に友好不侵略條約が成立せる旨並に、同日兩國政府によつて『蘇ユ兩國間の平和維持は兩國共通の利益である』との共同宣言が發表されたことが報ぜられ、各方面に多大の衝動を與へた。右不侵略條約の全文は左の如くである。

蘇聯最高會議及びユーゴスラヴィア國王は現在兩國の間に存する友好的精神に鑑み平和の維持は兩國の共同の利益なりと確信し、ユーゴ・ソ聯兩國間に友好不侵略條約を締結することに決定、蘇聯最高會議はモロトフ人民委員會議議長兼外務人民委員を、ユーゴスラヴィア國王はガブリロヴィッチ特命全權公使をそれぞれ正式代表に任命し、左の條約を締結せしめた。

第一條 締約國は相互に蘇聯並にユーゴスラヴィアの主權の獨立並に領土の保全を尊重し他の締約國に對する一切の侵略をなざざることを約す。

第二條 締約の一方が第三國より侵略を受けた場合に於ては他の締約國は被侵略國と友好的關係を維持すべき政策を堅持することを約す。

第三條 本條約の有効期間を五ケ年とし右五ケ年の期間満了一ヶ年前に締約國の一方が本條約廢棄の意志を表明せざらば本條約は最初の五ケ年の期間満了後更に五ケ年自動的に延長する。

第四條 本條約は調印の日より效力を發生するものとす、本條約の批准は兩國政府において可及的速かに行はれるものとし、批准交換はベルグラードにおいて行はれるべきものとす。

るものとし、批准交換はベルグラードにおいて行はれるべきものとす。

第五章 ユーゴの崩壊とギリシアの降服

ユーゴスラヴィアのクーデター勃發以來、ドイツ軍は最悪の事態に備へて、ブルガリア、ハンガリア、ルーマニア、オストマルク(舊オーストリア)、アルバニアの五國國境に兵力を集結して待機して居たが、四月六日拂曉、ヒットラー總統は、斷乎、ユーゴスラヴィア及びギリシアへの進軍を命じた。進撃に際して總統は左の如き布告を發し、全ドイツ國民並に東南歐の前線將兵に對し、英國の策謀とこれに踊らされつゝあるユーゴスラヴィア及びギリシアの蠢動を一舉にして粉碎すべき決意を明らかにしたのであつた。

『イギリスは前大戰におけるイギリス軍のサロニカ上陸作戰の成功を想起しつつ、今次戰爭においては先づギリシアに安全保障を與へてこれを抱込みギリシアを自己の利益のために全的に奉仕させるに至つた。これがため余はしばしば東南歐においてドイツを脅威するが如き行爲のあることを指摘しその都度警告を重ねて來たが遂に一切は無駄であつた。即ちユーゴスラヴィアは數週間來祕かに豫備軍を動員し今や更に全國總動員を行ふに至つた。余が八年の久しきに亘り獨ユ兩國間に友好的關係を設定せんと辛抱強く努力し來つたことに對するユーゴ

の回答なのだ。イギリス軍數師團は前大戰と同様ギリシアに上陸しつつあり一方セルブ人はドイツ及びその同盟國に對する新たな攻撃をなすべき十分の時間を得んと努力し今日既に準備完了せりと信じてゐる。かくて今や東南歐戦線にあるわが將兵諸君の遂に起つべき秋は來たのである。

一年前に諸君の僚友はノルウェー及び西部戦線において勇猛果敢に戦ひ抜いたが今や諸君は東南歐におけるドイツの利益を守るためにこれに劣らぬ勇敢さを以て戦ふであらう。諸君はまた一九一五年の秋前大戰においてこの同じバルカンで勇戦奮闘したドイツ軍に劣らぬ果敢さをもつて戦ひこの榮譽ある古戰場に進軍を開始せんとするのである。諸君は血もあり涙もある態度を敵に對して取らねばならぬ。併し諸君の敵にしてもしその持前の残忍性を發揮せんか諸君は徹底的に敵を粉砕し盡さねばならぬ。併しギリシア領内における戦闘の眞の相手はギリシアではない。昨年北歐の果てまで戦火を擴大し再び南歐の果てまで戰場を擴大せんとしつつあるわれわれの仇敵イギリスである。従つてわが同盟軍はイギリス軍をしてギリシアにおいてかの『ダンケルクの悲劇』の二の舞ひを演ぜしめ、イギリス軍の最後の兵を打ち破るまで戦ひ抜かねばならない。わがドイツ軍は昨年北歐の雪と氷の中でイギリス軍粉砕の輝かしき大戰果をあげたが、諸君はここに南歐の暑熱の中で自己の誇らしき義務を遂行することになつたのである。

世界の如何なる國がギリシア援助を行はうともわれわれはギリシア諸ともこれを壊滅するであらう。われわれが今追及せんとしてゐる目的はただ一つ即ちドイツ國民の將來の自由と生存權の確保あるのみである。余は從來常にドイツ國民が決してギリシア人と反目してゐなかつたこと並びに第三國がギリシアと結託してドイツの生存圖たる東南歐に攻撃を加へることを許容し得ない旨を強調してきた。余はまた東南歐がイギリスの右翼戦線たる

ことを言明しかかる南方からの脅威を黙許しないことを決意してきた。一九三三年以來余は前世界大戰におけるユーゴの敵性を不問に付してユーゴとの友好關係を設定しこれを維持すべく努力してきたがユーゴが三國同盟條約に調印を終るか終らぬにイギリスの走狗達は永遠に陰謀のみをたくらむユーゴ軍部に働きかけてクーデターを起すに至つた。此不敵なクーデターによつてツヴェトコヴィッチ内閣が崩壊して以來ユーゴスラヴィアには恥づべき數々の事件が引續き勃發し、わがドイツ國民に對し飽くなき侮辱行爲が繰返されたが、われわれ名譽あるドイツ國民は、新秩序建設の指導たるべき大國民としてもはやかかる事態を寛恕することは出来ないのだ。實にかかる暴虐を働きつつある國民こそかつて一九一四年イギリス諜報網の買収と使喚との下にかのサラエボの爆彈一擲、時のオーストリア皇太子を暗殺して全世界を悲慘のどん底に突き落したと同じ國民なのである。而もこのユーゴは既に總動員を実施することによりドイツとの平和的關係を忌むべき暴力的關係に代置することを承認したのである。併しながら彼等の動員した兵力は今や彼等自らを滅亡に導くであらう。だがドイツ國民はセルブ人に對して徹底の憎惡をも抱くものでなく、クロアイト人並びにスロヴェーン人に對しても戦ひを挑む理由は全くないのである。

過去八年間に亘る友好保持の努力も遂に水泡に歸し今日ドイツ國民は再びバルカンに兵を進めイギリスのヨーロッパ平和破壊行爲を粉砕すべき機會を持つたのである。ここにおいて余は同盟國の承認の下に常識的見地から合理的と考へられる一箇の手段によつてこのバルカン地方に適當なる關係を再び建設することを決定したのである。六日拂曉とともにドイツ軍はイギリスに踊らされたベルグラードの政權篡奪者達との戦ひを開始した。ドイツ軍はベルグラード政權が崩壊した同地方から最後のイギリス人が撤退する迄は決して戈を收めぬであらう。

願はくば神よ！われらの將士の行手を守り恵みを垂れ給へ。』

なほ、獨政府は、右獨軍の進撃と同時にユーゴースラヴィア及びギリシア兩國政府に對して、夫々左の如き通牒を送つた。

〔對ユ通牒〕 英國の益々激化する困難なる情勢及び瓦壞の徵候は英國を駈つて歐羅巴を更に對獨戰線に立たしめんと愈々自暴自棄的企圖をなさしめてゐる。この英國最後の對象はバルカンであり、希臘は英國のこの犯罪的戰爭擴大政策の犠牲に供されたのである。現在英國はユーゴースラヴィアをその目標を到達する爲出來得べくんば全バルカンを戰禍に陥し入れる爲に好個の道具に供せんとしてゐる。この英國の政策とは反對に獨逸はバルカンに於ける多種多様の利害を調節し以て南東諸國をして戰禍の脅威より救はんと努力し來つたのである。ヒットラー總統は政權掌握以來この平和外交を不斷に促進し、ユーゴースラヴィアに對しても友好的又協力的政策を遂行して來たのである。世界大戰以來獨ユ兩國間に存在した香ばしからぬ諸關係に終止符を打たんとしたこの總統の平和政策は實に獨ユ兩國の眞の利害に一致したものである。元來この兩國は政治的方面に於ては全く利害の背馳を見ず又經濟的にも利害は相一致するものである。

ムツッリーニ首相の政策は伊太利とユーゴー間の關係を友好的な新基礎の上に置いた。近年に於けるユーゴーの近隣諸國に對する情勢の安定が見られるに至つた事は議論の餘地なき樞軸側の功績である。ヒットラー總統及び當時のユーゴー首相ストヤディノヴィツチの遠大な政策に依り獨・ユ關係はこの期間中は緊密友好な協同を見るに至り此の爲兩國間の非常な意見の疎隔等はなかつた。一九三九年のストヤディノヴィツチ政府の崩壞後、獨逸との協調、友好を阻害し、以前の反獨外交政策に戻らせるのを目的とする強力な勢力がこの國に現はれるに至

つた。この企圖は最初は小範圍で認められたに過ぎなかつたが、佛蘭西進駐後ラ・シャリテに於て發見された文書を検討するに及び同國の對獨態度が全く明瞭に分つた。

此の程に至り漸く公表された佛國參謀本部のこの機密文書は、ユーゴースラヴィアが既に今次大戰勃發以前、即ち一九三九年夏季以來明らかに獨逸を敵とした英佛兩國に對する片務的共同政策を取つて來た事を示すものである。此の點に關し同文書は次の如く説明してゐる。

一、佛國が一九三九年夏季即ち本次戰爭勃發以前レヴァンテに佛國遠征軍設置を計畫するや直ちにユーゴースラヴィア參謀本部とも聯絡を取つた。ベルグラード駐劄佛國公使とユーゴースラヴィア參謀本部との間に佛國のサロニカ作戰計畫に關し最初の豫め打合せ済みの會談が一九三九年八月十九日行はれた。

二、一九三九年十一月ユーゴースラヴィア政府及び參謀本部の希望に依り上記の聯繫はユーゴー特別陸軍使節團の遣佛とガムラン將軍麾下の一將校にベルグラード駐劄を任命する事に依り愈々緊密化された。

三、戰爭勃發以來最初の數ヶ月間中は發見された文書が明らかに證明するが如くユーゴースラヴィアの態度の異色ある點は陽に中立を装ひながら英佛兩國に對する輸送の最大の援助を與へ且つ兩國に對し廣範圍に亘り積極的に情報の交換を行つたといふ事であつた。

四、一九四〇年四月十六日ベルグラード駐劄佛公使は軍事會談開催に際し同國陸相と面談を行つた。ユーゴースラヴィアは特に信頼出來得る聯絡將校を在レヴァンテ佛國遠征軍司令長官の本營に派遣した。之に依りサロニカ作戰がユーゴースラヴィアの支援を受けることは確實となつた。

五、佛國崩壞後ユーゴー當局者は一九四〇年六月十一日ベルグラード駐劄佛國公使に對し若し佛國の情勢挽回

に一縷の望みあるに於てはユーゴスラヴィアは佛國と隨時提携の用意ある旨を保障した。

此の文書に對し今更説明の必要はない。戰爭勃發以來戰爭の局地化の爲獨逸側が凡ゆる努力をし續けて來、且バルカンを戰禍の外に置く爲凡ゆる手段を講じたにも拘らずユーゴスラヴィアは恰も獨逸と協調する政策を採るが如く見せかけ乍ら當時明瞭なる態度で獨逸の敵國側に通じてゐたのであつた。此の事實に鑑みユーゴスラヴィアの政策を樞軸國側との相互理解へと反省せしむべく獨逸はユーゴスラヴィアとの和解政策を他に例を見ざる寛大なる態度と忍耐とを以て實行して來たのである。獨逸及び伊太利側からは再三再四ユーゴスラヴィア政府をして樞軸國との了解及び協同の重要性を確信せしむべき凡ゆる努力が拂はれた。此の政策はユーゴスラヴィアの三國同盟參加後進に至つてその最高潮に達した。

もう一度理性が再び勝利を博すかの感を呈し、責任あるユーゴスラヴィア政治家が自國の眞の權益を認むるに至れるが如き形跡を呈するに至つた。之が爲長時に亘る交渉の後ユーゴスラヴィアは本年三月二十五日維納に於て三國同盟條約に参加したのである。

當時調印された條約の内容は次の通りである。

- (一) 三國同盟締約諸國はユーゴスラヴィアの完全獨立を認めること。
- (二) 今次戰爭繼續中、軍隊のユーゴスラヴィア進駐乃至輸送、或は何らかの形態の軍事的援助をユーゴスラヴィア國に要求せずとの保證。
- (三) 歐羅巴新秩序成立の曉には、ユーゴスラヴィアはエーゲ海への通路を得ると共に、ユーゴ政府の特別の要求により、サロニカ及びその港灣をユレゴ主權下に置くとの保證。

右の如き廣汎なる保證を得る一方、ユーゴスラヴィア側の負擔すべき義務は歐大陸再建に關し單に誠心誠意歐羅巴諸列強に協力するにあつたのである。

ユーゴスラヴィアに三國同盟加入を要請するに當り、獨伊兩國の願望とせるところは、ユーゴ國自身のため他の歐羅巴諸國と誠心誠意協力せしめ、戰爭の擴大を防止し以てこの國をして歐羅巴新秩序に於てその處を得しむるにあつたことは根本的に確認する必要がある。

ベルグラードに徒黨を組む一味は、單にベルサイユ體制と民族自決權の蔑視に基いて成立せるこの國に與へられた又となき絶好の機會に答ふに、愚鈍と云はんよりは寧ろ犯罪的なる方法を以てしたのである。ユーゴスラヴィア國の永續的なる安全とその國の將來に於ける福祉とを保證せる條約に調印せる大臣諸氏は、歸國と共に直ちに逮捕された。その下手人はこの行爲に依つて重大なる責任を負ふに至つた一味徒黨である。而してこの徒黨こそは、終始バルカンの不安動搖を事として來た天下周知の一味に外ならぬ。彼等は國王を刺殺することすら敢へて辭するものではなく、一九一四年には斯のサラエボの虐殺によつて人類に未曾有の不幸を齎らした世界大戰の因をつくつたのである。

之等の一味が政權を掌握するに至つて以來、今やベルグラードはその假面を剥ぎ取り數日來はユーゴ全土を擧げてテロの巷と化し樞軸國とその結盟諸國に屬する凡ゆる人民に對して暴虐の限りを盡すに至つた。總統は誹謗され、獨逸國公使は公然たる侮辱を受け、伊太利公使はシモヴィツチ將軍から公然と戰爭を以て威嚇された。獨逸國公使館員たる一大官は侮辱され、剩さへ暴行を受けた。獨逸側の諸施設は破壊され掠奪された。最近の二三日に至つては、獨逸人に對する暴行は極度に達し、波蘭に於ける獨逸人迫害の最惡に彷彿たるものがある。

斯くてユーゴスラヴィアの外交政策が實際の目標とするところは、今や明瞭となつた。若し今日この國の政權を掌握せる人々が三國同盟加入の招請、即ち歐羅巴共同體内部に於ける誠心誠意の協力の要請を以てユーゴ國の名譽を毀損する行動なりと主張するならばそれこそ今日この國に決定的勢力を有する人々の偽らざる態度を明白に示すものである。彼等は平和を欲しない。即ち彼等は絶えざる亂脈と不統一によつてのみ利己的なる目的を達し得るからである。それであるから現軍司令官が執つた處置が左の如き意義を有することは完全に明瞭である。

一、全ユーゴスラヴィア陸軍に總動員を命じた。
二、英國參謀將校が最近數日間にユーゴスラヴィア陸軍との連絡將校としてベルグラードに到着した。
三、ユーゴスラヴィア參謀將校を希臘に派遣することにより同地に作戰中の軍隊と希臘陸軍との連絡を開始した。

四、獨逸政府は最近數日間に反證し得ざる證據を手に入れたが、それに依れば、ユーゴスラヴィア政府がシモヴィッチ將軍を通じ英米兩國に對し差し迫つた獨逸との戰爭に此の兩國より軍隊、武器及び借款を提供して援助する様懇請した。

ユーゴスラヴィアは之に依り遂に獨逸軍の敵國と協同戰線を張りその指導國たる英國に身を委せ之により自國を對獨攻撃の基地たるに至らしめようと決心したのである。現國王がベルグラードに於て將軍一味に左右され英國に親書を送つてユーゴスラヴィアがナチスと交戦するのを決意し國王自らが陸軍を統帥するの機會があるのを待ち設けてゐると申送り之に對しチャーチルは首相以下の英國政治家が國王の即位はユーゴスラヴィアが

今や英國側に付いた證左であると回答してゐるのを見るにつけても之等は何れも事實の最後の確證に外ならないのである。獨逸政府はベルグラードに於ける犯罪者一味の陰謀の續行を希望せざるのみでなく、ユーゴスラヴィアも希臘の如く本大陸に何ら干渉の權利なき英國利益追求者の走狗となり終らせるのを見るに耐へないのである。獨逸政府は茲に獨逸軍に全軍力を盡して歐洲の此の方面に於ける平穩と秩序を確保すべく命じた。

〔對希臘〕 英佛兩國の宣戰に依り英佛側より獨逸に強制された敵意の發動以來獨逸政府は終始明確に軍事的係争を交戦國のみに局限し、就中バルカン半島を戰禍の外に置く意圖ある旨を表明し續けて來た。更に獨逸政府は繰返し、明確に、英側一切の戰爭擴大計畫に對しては即時全力をつくして反抗すべき旨を聲明して來た。

英遠征軍が一敗地に塗れ、敗殘部隊が諸威、佛蘭西から驅逐されるに及んで漸く歐羅巴は完全に英部隊を一掃した。歐羅巴全國は茲に於て歐羅巴に於ける最も有效な平和保障として英帝國を歐羅巴大陸から完全に隔離し此の状態を維持せんとする共通利害を抱くに至つた。この利害觀の當然の結果として英國の一兵たりとも今後再び歐羅巴の土を踏ましむべからずといった事が必要になつて來た。この問題は希臘國民にとつても、他の大陸國民と同じ事を意味し、希臘政府としては當然この間の事態に鑑みて嚴正中立を堅持するの至當なるは明らかであつた。希臘としてはかかる態度を採るのは當然で、従つてそれが同國の利益に順應する最良の手段でもあつた筈である。惟ふに苟くも交戦國たる限り、かくも現實の戰場より遠隔する國を參戦せしむる事を以て眞に必要缺くべからざる利益と見做し得る譯はない筈である。右の理由よりして獨伊兩國は從來一度として希臘に對しては眞の中立以外に要求した事はなかつたのである。

故に希臘政府が判然と同國に指示されてゐる此の針路を捨てて、希臘國民を早晚非常な危險に追ひ込むに相違

ない道程を執るに至つたことは愈々了解に苦しむ所である。現在我々の知つてゐる通り、一九三九年九月戦争が勃發し希臘が最初は秘密に後に至つては公然と獨逸の敵即ち主として英國の味方に立つに至つた時、希臘は事實上既に中立を廢棄したのである。如何なる程度に希臘の政策が戦争勃發前既に同國の政府筋に存してゐた對英同情に依り影響を受けたかは、一九三九年四月に希臘が西歐諸國の政治的保障を受諾したといふ事實によつてのみで證明される。希臘が斯る事實に依り必然的に英國に從屬し、當時既に存在してゐた英國の對獨逸包圍策に引入られるであらう事は、希臘に對して英國の保障が周知の如き結果に基いて明瞭とならざるを得なかつた。この傾向は、最初は一九三九年十月に即ち戦争勃發後希臘政府が其の年滿期となつた伊太利との友好條約の延期に關心を示さなかつた時明瞭となつた。時を同じうして獨逸政府は文書を手に入れた。その文書は、英國の援助を得て組閣された希臘政府がその組閣當初より廣範圍に英國の命じてゐる政策を行つたことを示してゐる。尙疑問があるとしても佛蘭西のラ・シャリテイに於て發見され現在發表されてゐる文書には頗る明瞭に希臘政府が戦争開始以來樞軸國に對して取つてゐた態度を示されてゐる。佛蘭西參謀本部及び佛蘭西政府の公文書により、希臘政府が秘密に追求してゐた政策を總括的に次の如く表明するを得るのである。

- (一) 一九三九年九月既に希臘參謀本部はドオヴァス大佐を近東佛蘭西遠征軍最高司令官ウエーガン將軍との連絡のためアンカラに送つた。
- (二) 一九三九年九月十八日ポリテス駐佛希臘公使は、希臘が昨年十月に伊太利との暫定協定を東部戦線の開幕に背馳しない程度に於てのみ更新する意圖を有してゐる旨保障を與へた。
- (三) 一九三九年十月初旬駐佛公使はナヴロウデイス希臘外務次官から希臘は同盟軍のサロニカ上陸を妨害する

何等の行爲もせぬのみでなく、希臘は加之斯る作戰の成果が確保されればこの企圖を積極的に援助するであらう旨詳細報告を受けた。

- (四) 一九三九年十月下旬駐佛武官及び希臘參謀長の間に行はれた會談は、一九三九年十二月二日には公式軍事會談を開催し、マリオ大佐を佛參謀本部から希臘に送つて呉れとの希臘參謀本部表明の希望に迄言及した。
- (五) 一九四〇年一月四日附のガムラン將軍の記録に依ると希臘參謀長がガムラン將軍に對し飛行機及び防空砲の形に依る充分な援助が保證されるならば希臘參謀本部は同盟遠征軍のサロニカ上陸を保證し得るであらうことを通知した事が明かとなる。

希臘政府をかくも害ふに至つた上記公文書の内容を知悉せる獨逸政府は、依然希臘政策爾後の展開を隱忍以て靜觀を事として來た。希臘が同國島嶼上に英側海軍基地を提供し其の結果獨逸の友邦たる伊國が斯る非中立行爲に鑑み對希臘の止むなきに至りし際の如きすら獨逸は猶且つ事態靜觀の態度を捨てなかつたのである。獨逸政府をして斯る態度を採らしむるに至つたものは取りも直さずそれ迄希臘國民に對し友好的感情を抱きつづけて來た獨逸國民が猶且つ希臘のやがて同國の利害の奈邊にあるやを理解し併せて希臘政府また從來の態度を一蹴し眞の中立態度に移る日の來る事あるべきを眞實期待してゐたからに他ならぬのである。のみならず希臘政府は總統の公式聲明に依り繰り返し、獨逸が絶對英武装兵力の希臘駐在を默認し得ざる旨通告を受けてゐる。右に就いては總統の一九四一年一月三十日附演説を摘要せざるを得ず。中に總統は次の如く述べてゐる。

「惟ふに我敵國はバルカンを唯一の頼みとしてゐるらしいが余としては右を以て何ら痛痒を感じるものではない。理由は簡單である。即ち獨逸は英國を隨處に擊破するだけの實力があるからである」

希臘政府は斯る警告は一切これを黙殺して、一度として——此のところ特に強調を要す——獨逸政府に對し敢へて中立性復歸の會商すら提案しては來なかつた。理由は極めて明瞭である。即ち希臘としては早くも英側戦争擴大政策に懐柔され、ために獨斷の舉に出ずる譯には行かなかつたのである。否寧ろ當時既に希臘側の行動は事毎に英政府の掣肘を受けてゐたといつてもよいからゐるのだ。

斯くて遂に對伊開戦當初は専ら英國航空技術員の援助を受くるに止めてゐた希臘政府も漸く上述態度を踏襲するに至つた。クリート島占領後に至つては全英軍部隊は希臘本土に上陸し凡ゆる軍略的地點までをも占領するの事態に立至つて了つた。其の間偶々英側に依り發せられたる諸聲明は何れも此の事實の否定に勉めてゐるが右は取りも直さず希臘の不誠實と英國依存を更に實證せるものと言ふべきである。茲數週以來は最早英國が希臘本土に——前世界大戰當時のサロニカ計畫の如く——對獨新戦線構築を意圖し、同地を根城に再び戦争を歐洲に擴大せんとしつある事は蔽ふべからざる事實となつて了つた。右に關する情報として在希部隊總司令部が茲數日來ベルグラード參謀本部と連絡を取るに至つた事實には特筆に値するものがある。然るに茲數日來希臘本土は明かに英軍の作戦地帯と化して了つた。

目下希臘では旺んに上陸作戦や輸送行動が行はれつつある現狀で、米側情報の如きも英軍二十萬が既に希臘本土に駐屯しつある旨を傳へてゐる程である。かくて英軍に再び歐大陸の地を踏ましめて恬然たる歐洲唯一の國希臘は歐羅巴協同政策に背反せる重大責任を自ら負擔するに至つたものと言へる。希臘が目下展開を見つつある事件に何ら責任なきは明らかで、それだけに斯る不信政策に基き希臘政府の双肩にかかる罪には由々しきものがあると云へよう。希臘政府は自らそれに直面して獨逸が之れ以上拱手傍觀し得ないが如き情勢を形成した。

それ故、獨逸政府は國防軍に對し希臘にある英遠征軍を驅逐する様命令を發した。獨逸軍の前に現はれる抵抗は全て假借なく排除されるであらう。獨逸政府は希臘政府に對しこの告知をなすと共に、獨逸軍は希臘國民の敵として希臘に入るものでなく、且獨逸國民は希臘國民と闘ひ、之を殲滅する意圖を有するものでない旨強調してゐる。獨逸が希臘に於て行ふを餘儀なくされてゐる戦争の目標は英國である。獨逸政府は英侵入軍を希臘から迅速に驅逐する事に依り、希臘國民及び歐羅巴共同體に對し赫々たる功績を示すものであることを確信するものである。

また、イタリー政府は、六日早朝獨軍のユーゴスラヴィア及びギリシア進撃開始と同時に、獨軍に協力、陸海空三軍を以てユーゴスラヴィア攻撃を開始すべく、陸空軍は既に行動を開始したと發表すると共に、外務省は左の如き聲明を發表した。

『一九三七年三月二十五日ユーゴスラヴィアは「アドリア海の平和のために」イタリヤと友好條約を締結し終始同條約を忠實に遵守してきたのである、然るにユーゴの對伊敵性は過去二十年を通じて續けられて來た、ユーゴを樞軸の敵の政策と行動に結びつけんと努めて來た敵對勢力の諸行動につき確證を握つてゐるにもかかはらず、イタリヤはユーゴとの善隣關係を捨てず、かへつてアドリア海の平和が脅かされ、ユーゴが英國のために戦争に引込まれるのを極力防止して來たのである、イタリヤはユーゴにその諸隣邦とともに歐洲の平和再建に参加するやう呼びかけ、ユーゴスラヴィアの未來を保障したのである、かくてユーゴは三國同盟参加を許され、その際獨伊兩國よりその領土保全を確證されたのである、しかるにこの條約加盟に引續き、ユーゴを戦争に引込まんとする闇の勢力は一齊蜂起した、その目的は唯一つすなはち三國同盟参加條約を破棄し、英希軍

當局と略つてユーゴスラヴィアを戦争の渦中に押し出すにあつた、かくて三月二十七日以後ユーゴは樞軸の敵國となつた、イタリア政府はこの事態の經過を冷静に注意深く見詰め結果つひにドイツとの緊密なる連絡の下にその陸海空三軍をして行動を開始せしめるに決した』

さらに、一方、米國政府は獨軍進撃の報に接するや直ちにユーゴスラヴィアに對してギリシアと同様武器その他の軍需物資を急送する旨を決定し、即時左の如き援助聲明を發表した。なほ、正式に獨伊とユーゴスラヴィア間に戦争状態の發生せることを布告したのは十一日であり、さらに十六日ハンガリアとユーゴスラヴィア間に戦争状態の存在を宣言した。

『暴力に訴へてユーゴスラヴィアを侵略し其國土を絶滅せんとする行爲は現に進行しつつある世界の征服と支配の企圖における新なる一章をなすに過ぎない。更に他の一小國(ギリシア)も武力侵略を受けて居るがこの事實は彼等の世界征服を目的とする行動の前には如何なる地理的制約も障礙も無いことを又も實證するものである。米國民は斯くも無殘に攻撃された國民に對し深甚の同情を寄せるものであり、我々はユーゴの國民が彼等の祖國を防衛し、その自由を確保せんとする雄々しき抗戦振りを甚大の關心を以て見守るであらう。米國政府は自稱征服者共に對抗して自國を防衛しつつある諸國を援助するとの政策に基き、目下ユーゴに對し、武器その他の軍需物資を輸送するため能ふ限り迅速なる準備を進めつつある。』

また、英國政府も六日、獨軍進撃の報と共に直ちにユーゴスラヴィアに對し無制限援助を與へる旨を發表したが、さらに七日、濠洲軍、英本國軍、ニュージールランド軍より成る遠征軍が、既にギリ

シアに上陸し、在希英空軍も大々的に増強された旨を發表したが、この遠征軍は、ナイル地方に於ける作戦を打ち切つて急遽ギリシアに廻されたもので、總司令官には近東軍司令官のウエーヴェルが任命された。

なほ、獨軍の進撃に伴ひ翌七日、英政府はオマリー駐洪公使を通じてハンガリアに對して斷交を通告し、またギリシア政府はハンガリア、ブルガリア兩國に對する外交關係の斷絶を發表したが、さらに九日、スロヴァキア政府はユーゴスラヴィアに對して斷交を通告した。なほ、ブルガリアは日獨伊三國同盟の盟約に従ひ獨軍の進撃に参加し、約三十萬の勃軍がギリシアに向つて進撃を開始すべく待機しつつありとの報道もあり、さらにルーマニア政府はユーゴ軍の不法爆撃に對し六日同國政府に抗議を提出したと七日發表した。

さらに、獨ユ開戦に對して最も注目されたのはフランスの態度であつたが、パリ駐劄ヴィシー政府代表ド・ブリノン大使は、ドイツを全的に支持するの態度を表明して七日次の如き聲明を發表した。

『フランスはドイツ軍の急速なる勝利により樹立せらるべき歐洲新秩序に参加するにはドイツとの協力によつてのみ爲し得られることを確信して居る。英國人を大陸から驅逐することは戦争の急速なる終結を意味するものである。而してこれこそフランスの悲運を救ふ最大の道なのである。英國はフランスで行つたと同様に南歐に於て英國のために他民族を戦はせやうとして居るのである。吾々はフランスの嘗めた苦い經驗が未だ他國民を啓蒙し得なかつたことを遺憾とするものである』

次で十日、ハンガリアのホルテイ攝政は前回大戰に於てユーゴースラヴィアに割讓せる舊ハンガリア領土たるパナート、パーチカ兩地方の回復を宣言すると共に、

『余は一九一八年ハンガリアから割讓されたユーゴースラヴィア領のハンガリア人を無政府状態から守るため同地方にハンガリア軍隊の進駐を命じたのである。今回の措置は決してセルヴィア人に向つてなされたものではない。ハンガリアは將來彼等と共に平和の中に生活することを欲するものである。』

との布告を發したが、翌十一日ハンガリア軍はユーゴースラヴィアに進撃を開始した。これにつき洪政府は十二日、クリストフ駐蘇公使を通じて蘇聯政府に諒解を求めたのであつたが、ヴィシンスキー外務人民委員代理は、ハンガリア軍の進駐を容認し得ずとして左の如く回答した。

『この聲明書がソ聯の意見を求めんとするものならばソ聯政府としてはハンガリア今回の行動を認むることが出来ぬと述べるを得ない、ハンガリアがユーゴースラヴィアと友好條件を締結して僅か四ヶ月、今ユーゴースラヴィアに兵を進めるに至つたことに對しては特に不快なる印象を受けるものである、この際ハンガリアが紛争に捲き込まれるならば、ハンガリア自身多数の少数民族を擁してゐる事實に鑑み同國の事態は益々困難性を加へることは容易に豫測される。』

なほ、蘇聯は獨軍のユーゴースラヴィア進撃に對しては何等の態度を表明しなかつたが、上記のハンガリアに對する態度はその意嚮を示唆するものであり、さらに、翌十三日には日蘇中立條約の調印を行つたことは極めて意味深長である。

四月六日、ヒットラー總統の命令一下獨軍は、ブルガリア、ハンガリア、ルーマニア、オストマルク、アルバニアの國境を越えて五方面から一齊に進撃を開始し、ベルグラードを初めユーゴースラヴィア國內の要衝に對して猛烈なる爆撃を加へ、またイタリア軍もドイツ軍と相呼應してアルバニア國境を越えて南部ユーゴースラヴィアに進撃を開始すると共に、空軍はアドリア海を越えて西南部各地を爆撃した。

斯くて破竹のドイツ軍は、八日、ブルガリアよりトラキア地方に進撃したりスト元帥麾下の軍は早くもエーゲ海岸に達し、スコプリエを占領して、ユーゴースラヴィアと英希聯合軍との連絡を遮斷し、九日にはエーゲ海の要衝サロニカを陥れ、ドイラン及びメタクサス線を突破するに及んで、英希聯合軍は算を亂して南方に潰走し、早くもギリシアのマケドニア方面軍司令官ベコプルスは獨軍に降伏を申入れたと傳へられた。一方ルーマニアより進撃せるクライス大將の率ゆる快速部隊及び戰車隊はニッシュを占領、ベルグラードとスコプリエとの連絡を切斷し、また、オーストリアより南下の部隊はマルブルグを占領し、十日にはスロヴェニアの首都リブリヤナを占領し、次でザグレブに入城するや、忽ちクロアチアは獨立を宣言し、こゝにユーゴースラヴィアは崩壞するに至り、さらに南部ユーゴースラヴィア軍との連絡に成功し、十三日には遂にクライス將軍の率ゆる機甲部隊はベルグラードに入城し、

十六日、前回大戰の發祥地たるサラエボの陥落するに至つて、ユーゴー軍は正式に休戦を申入れ、ドイツ政府は十七日、ユーゴースラヴィア政府が無條件降伏を爲し、降伏は十八日正午を以て有効とする旨を發表し、全ユーゴー軍は無條件降伏を爲し、同日午前九時を以てユーゴースラヴィア全戦線に亘つて戦闘が停止された。

これより先き、セルヴィア人のテロ行爲を恐れユーゴースラヴィア國內より舊オーストリア領内に非難せる多數のクロアチア人は、獨軍進撃の報に接するや、同六日、ヒットラー總統に對して、セルヴィア人の壓制を打倒してクロアチア人の獨立實現を援助するやう懇請の電報を送つたが、クロアチア獨立運動の指導者で、テロリスト團體ウスタチの首領で去る一九三四年アレキサンデル國王の暗殺を企て死刑を宣告され逃れてイタリアに亡命し、後一九三八年歸還してザブレグ市長に就任せるアンテ・パヴエリッチ博士は、七日、ムツソリーニ首相に對して左の如き電報を送つて、クロアチア獨立の決意を表明した。

『ヴェルサイユ條約の締結によつてセルヴィア人の暴虐とその金權民主主義者の暴壓に悩みつづけたクロアチア人が過去二十二年間待望した重大なる時期を迎へて、余は全クロアイト人及びクロアイト闘争團體を代表してここに閣下に深甚なる敬意を表す。全クロアイト人は光榮あるイタリア軍と共にクロアイト人の自由と獨立のために関ふ決意を有するものである。吾々はここに好意ある小國民として又眞に正義の政權樹立者として更に改めて閣下に敬意を表すると共に閣下に對し不斷の忠誠を誓ふものである』

斯くて四月十日、ドイツ軍がザブレグに入城するや、市長パヴエリッチ博士は、午後六時、ラジオを通じて、歴史的民族的領土を基礎としてのクロアチア獨立國家を建設すべき旨を全クロアチア人に宣言すると共に、ヒットラー總統とクロアチア地方の獨立に關する協定が成立した旨を發表したが、次でクロアイト獨立運動の巨頭たるマチュック博士は左の如き聲明を發表して新國家建設の内容を明らかにした。

『余はここに輝かしきクロアチア國家ならびに民族の獨立を宣言し、新國家の總理としてクロアイト民族の解放と獨立に貢献せるアンテ・パヴエリッチ博士を推戴する、余は喜んでその下に協力するであらう、十日よりクロアチア地方の全住民はクロアチアならびにドイツ兩國旗を掲揚すべきことを布告する』

斯くてユーゴースラヴィア北部地方三百五十萬人の宿望たる獨立が實現したのである。斯くて新國家の主席に推戴されたパヴエリッチ博士は、クロアチア獨立黨のクヴァテルニック將軍を副主席に任命すると共に、クロアチア地方の軍權を委任する旨を發表し、次で、クヴァテルニック副主席はクロアチア軍隊並にクロアイト人に對して左の如き布告を發した。

『クロアチア民族の指導者パヴエリッチ博士並にヒットラー總統は歐洲の到るところに於て特に更生が行はれんとするこの秋に當り古き歴史を誇るクロアチア國の復活を決定した。茲にクロアチアの國家主權が確立されたのである。百年に亘るクロアチアの民族闘争とパヴエリッチ博士の數十年に及ぶ闘争は茲に終結を遂げたのである。余は凡てのクロアイト人が新政府の傘下に集らんことを要求する。余はクロアチア軍隊の指揮權を委ねられた。

凡てのクロアチア聯隊は直ちに其所在を報告し、クロアチア國家とその元首に對し忠誠を誓ふべき事を命令する。余はクロアチア民族解放の爲に多大の犠牲を拂つたドイツ軍の入城を敬虔な態度を以て迎へん事を命令する』斯くて十二日、フアピアン大佐の國民軍參謀長任命が發表され、クロアチア國民軍の内容を充實すると共に、十七日には、主席バヴェリッテ博士を總理とする左の如き顔觸れの新内閣が組織され、國內の建設が進められるに至つた。

△首席兼首相兼外相バヴェリッテ博士、△副主席兼陸海空軍總司令官兼憲兵司令官クヴァテルニツク將軍、△副首相クレノヴツ博士、△法相ブツ博士、△内相バルツコヴィツ博士、△保健相ベトリツ博士、△國民經濟相スツピツ博士、△山林鑛山相フルコヴィツ博士、△組合相ドマンツィツ博士、△文相ブダク博士。次で五月十七日、イタリア國王イマヌエーレ三世の御從弟たるスポレト公アイモネ殿下が初代國王に推戴され、こゝにクロアチア王國が誕生したのである。

一方、ドイツ政府は四月十二日、クロアチアが獨立を宣言した事實を、

『新國家の組織および領域などは未だ明白ではなく、事實作戦終了までは最後の決定にはいたらぬ模様であるが、從來のユーゴー領土面積の約半分をその領土とし、スロヴァキア同様事實上ドイツの保護のもとにクロアチア民族の自治を目的とする民族國家が成立するものとみられる。』

と發表したが、新政權の主班につき、ドイツ側では豫ねてクロアチア農民黨の首領として絶對的信望を集めつゝあつたマチュック博士に期待したのであつたが、開戦直前シモヴィツチ内閣と妥協して入

閣したので、ドイツ側はこれを忌避し、バヴェリッテ博士を推すに至つたものであると傳へられて居る。斯くて獨伊兩國は四月十四日を以てクロアチアの獨立を正式に承認し、ブルガリアも二十二日これに倣ひ、こゝにクロアチアの獨立は完成されたのであつた。

四月六日、ドイツ軍の進撃と同時に同じくユーゴースラヴィアに對して進駐を開始したイタリア軍は西部國境及びアルバニアの國境を突破して破竹の進撃を續け、忽ちにしてユーゴー軍を席捲し、早くも十七日にはダルマチアに於て南北兩軍の連絡成り、西方アドリア海沿岸地方を征壓した。また、ハンガリア軍は十一日より進撃を開始し、ドナウ、ティサ兩河中間に於てトリアノン國境を突破南下し、ドナウ、ドラウ兩河に挟まれた所謂ボロンヨ三角地帯に進駐し、さらにブルガリア政府は十五日ユーゴースラヴィアに對して、(一)ユーゴー軍のブルガリア國境守備兵に對する度重なる不法攻撃、(二)ブルガリア諸都市に對するユーゴー空軍の不法爆撃、(三)ソフィア駐在ユーゴー公使館がブルガリアの不穩分子に對し秘かに援助を與へた、との三ヶ條を理由として國交斷絶を通告すると共に、フィロフ勅首相はソフィアに於てドイツのマケドニア、南セルヴィア方面軍指揮官リスト元帥と會談したが、愈よ十九日を以て豫ねて待機せるブルガリア軍はユーゴー國境を越えてマケドニア地方へ、また、ギリシア國境を越えてトラキア地方へ進駐を開始したが、これと同時に、勃政府は右兩地方の占領を正式に發表した。

なほ、スロヴァキアの獨立によりユーゴスラヴィアは全面的の崩壊に瀕するに至つたが、四月十五日附を以て、ドイツ政府は、サン・ジェルマン條約によつてユーゴスラヴィアに編入された西北部の南シュタイエルマルク（南ステイリア）南ケルンテン（南カリンチア）北クライン（北カルニオラ）の三地方をドイツ領に編入する旨を發表し、同時に右諸地方の行政長官として、現シュタイエルマルク地方長官ユーバライターを南シュタイエルマルク長官に、現ケルンテン長官のクチエラを南ケルンテン及び北クライン長官に夫々任命し、總統直屬の下に占領地の行政に當らしめることとしたが、また、イタリア政府も伊軍占領下のスロヴェニア地方の軍政を廢止し、トリエストのファッシスト黨書記長グラチオリを民政長官に任命した旨を四月十六日に發表し、さらに五月三日、これを伊領に編入爾今ルピアナと改稱する旨を宣言した。

また、四月十三日、ドイツ軍のベルグラード入城と共に、ユーゴ政府のシモヴィッチ首相以下はギリシアのアテネに逃亡し、ユーゴ軍の軍司令部は消滅し、遂に十六日を以て全ユーゴ軍は無條件降伏したのであつたが、ドイツ軍は引續き各地に於ける殘敵掃蕩を終り、四月三十日、獨ユーゴ一占領地域司令官フォルスター將軍は、ユーゴスラヴィア臨時政府主席として元首相たりしストアイノヴィッチを、また左の如き閣僚を任命し、新臨時政府に對して、當面の施政方針として、占領地域内の秩序維持と、一般社會の平靜化に努力すべきことを指令した。

△主席ミラン・ストヤデイノヴィッチ、△内相ミラン・アキモヴィッチ、△交通相ラザー・コステイッチ、△經濟相ミロサン・ヴァシリヴィッチ、△藏相ドシニアン・レチザー、△文相リスト・ジョジック、△法相ムンロ・ジャンコヴィッチ、△逓相ドウシヤン・パンティッチ、△公共相スタニウムラウス・ジョシツオヴィッチ

さらに、一方ドイツ軍と英希聯合軍の決戦は、エーゲ海からアドリア海に至る二百四十軒の全戦線に互つて展開されたが、四月十七日、英希軍は全面的に崩壊を來し、遂に、二十三日に至りマケドニア及びエピルス兩地方に於て獨伊兩軍に包圍されたギリシア全軍は武器を捨て、無條件降伏をなすに至り、即日、サロニカの獨軍前線本部に於て、ヨードル獨代表、フェレロ伊代表とツオラコクル希代表との間に左の如き停戰條約が調印されたが、希軍の降伏條件の全文は左の如くである。

一、伊アルバニア軍司令部及び獨ギリシア派遣軍司令部は、エピルス及びマケドニアの希軍の無條件降服申入を受理せり。

一、エピルス及びマケドニアの希軍は捕虜とす。

一、希軍の示せる勇氣に免じ、希軍將校が軍刀及び軍裝を保持するを許可す。

一、エピルス及びマケドニアにおける全希軍捕虜は、伊軍に對し直ちに引渡さるべきものとす。

一、軍事行動終了後希軍全捕虜の解放方につき考慮を約す。

一、武器はすべて戦利品とす。

一、希軍は戦闘中止を實施すべし。

- 一、エビルス及びマケドニアを通じ或ひは右兩地より發する陸路及び海路交通を一時停止す。
- 一、伊希兩軍の戦闘中止は四月二十三日午後六時より實施さるべきものとす。
- 一、降服に關する協議會は二十三日サロニカで開かるべきものとす。

然るに、ギリシア國王ゲオルギオス二世は、右停戦協定の成立に對して、同二十三日、『マケドニア、エビルス地區のギリシア軍は余に無斷でイタリア軍と休戦條約を締結したものである』と發表すると共に、

『バゲロス王儲および政府はクレタ島に移ることとなつたが、ギリシア政府は同島に據り戰爭をあくまで完遂する覺悟である。なほ希軍が無斷で伊軍と休戦した所でギリシア全國民、余および政府の自由の意思は毫も束縛せられるものではない』

との聲明を發して、なほも英軍と共に抗戰を繼續するに至つたので、ドイツ軍は全希各地方並にエーゲ海の諸島に對する作戰を進めた。

右、ギリシア軍の降伏と前後して、希首都アテネに於ては、四月十八日、コリチス首相がピストル自殺を遂げたので、ゲオルギオス二世は、直ちに政界の首腦部を招致して協議の結果、前アテネ軍政長官のコジアスに組閣を命じたが、コジアスが組閣に失敗したので、二十日に至り已むを得ずゲオルギオス二世自からが首班となり、サケラリユ提督を副首相とする、左の如き顔觸れの親政内閣が一應組織された。

△副首相兼海相アレキサンダー・サケラリユ提督、△陸相兼商相P・アナヨチス・パナガコス大將、△空相P・ニコライデス大將、△逓信相兼鐵道G・コルチャス大將、△外相兼財務相兼經濟相エマヌエル・ツオウデロス、△宣傳相兼厚生相エオログ・ニコルーデイス、△農相兼労働相アリスデ・デイミトラトス、△内相兼治安相コスタス・マニアチキス、△文相兼法相P・セケリス、△海運相スタヴロス・テオパニデス

然し、この親政内閣は一夜にして改造され、翌二十一日、外相兼財務兼經濟相のツオウデロスが首相に就任した旨が發表されたが、ゲオルギオス國王以下政府首腦部は獨軍アテネに迫まるや、クレタ島に逃亡した。

斯くて四月二十九日、ドイツ軍はアテネに入城したが、これと共に曩に希軍降伏に際して獨伊軍との折衝に當つたコラコグル將軍を首班とする軍事内閣が成立し、獨伊と協力して戦後の難局打開に邁進することとなり、二十九日、コラコグル首相は全國民に對して左の如く放送した。

『國王ゲオルギオス二世はクレタ島に逃避し、更にアテネが陥落した今日抗戰繼續はギリシアに取つて全く無意味なものとなつた、ギリシヤ國民は眼前の儼然たる事實を直視せねばならない、吾々には強力にして權利ある政府が必要である、自分がギリシア軍諸將の同意の下に新内閣を結成した所以も一にこの點に存する』

四月二十七日、ドイツ軍のアテネ入城に續いて翌二十八日、イタリア軍もアドリア海のコルフ島及びコルフ市を占領し、こゝにギリシア作戰は事實上終了し、ゲオルギオス二世以下が逃亡立て籠れるクレタ島の戡定を殘すのみとなつたので、ヒットラー總統は、五月四日、ドイツ國會を招集して、ユ

ーゴースラヴィア及びギリシア作戰について左の如く報告した。

『對英永久親善協力のドイツ側の企圖は英國における一少數派の要望に依つて凡て挫折してしまつた、彼等少數派は如何なる場合に於ても戦争は望ましくないと云ふ偽りない結論を理解させようとするドイツの努力に對して耳を藉さず、憎惡或は物質的な見地からドイツに楯ついたのである、あらゆる犠牲を拂つても戦争を招來せしめんとする惡魔の如き計畫に於て指導的役割を果たしたものは今日英内閣を組織してゐる連中即ちチャーチル首相並にその一黨であつた、彼等の戦争挑發の努力は歐洲並びに米洲の所謂「大民主主義」を以て任ずる國に依つて公然と或は假面的に支持を受けた、政府の政策の失敗に對して英國民衆の不滿が次第に昂まつてくるにつれ當面の責任者たる政治家は戦争を起しそれを成功させることが問題を解決せしめる唯一の方法であると考へたのである、そして彼等の蔭にユダヤ人の國際金融市場並に軍需産業資本があつた、彼等は陋劣ではあるが莫大な利潤を得る可能性を戦争の中に見出したのである、ドイツがポーランドを敗北せしめた直後予は一九三九年十月六日チャーチル首相並に其一黨以外の他の政治家の常識と良心に懇へたのであるが徒らに激昂の拒絶を受けたに過ぎなかつた、チャーチル首相が執拗に吹込んだ豫言に目がくらんだノルウェー政府はドイツの覆滅を目的とする英國の手先となりノルウェー諸海港並にスエーデン嶺山地帯占領に協力を與へ英國の侵略的意圖に踊らされ始めてゐた、ドイツは實に戦史上嘗てなき大膽なる作戰を敢行して斯かる危険を免除し、更に世界史上に空前の大殲滅戰を遂行してフランスを屈服せしめたのであつた、予の和平提案は恐怖と怯懦の表現であるかの如くいはれた、歐洲並に米國の戦争挑發者は今次の戦争から何等の利益をも期待出來ない民衆の常識を鈍らす事に成功し新しい希望を彼等の中に植付けた、夜間爆撃と一般國民に對する攻撃とに反對せる予の警告はチャーチル首相が宣傳せる如

くドイツの弱音としか受取られなかつた、この前代未聞の愚鈍な素人(チャーチルを指す)は獨逸軍が一月その機翼を休めたのを見て「これは獨逸軍が夜間飛行の性能を缺いた證據に違ひない」と一生懸命信じてゐた、斯くしてこの男は英國國民に對し「英空軍は獨力で完全に戦争を遂行し得る、而も飢餓封鎖の効果と相俟つてドイツ民衆に對するこの英空軍の冷酷な攻撃に依つてドイツ國民をして希望を失はしめて來た」と數ヶ月に亘つて虚偽の宣傳を續けたのである、併し予はここに再び機會を得たので特に右の點につき予の警告を表明すると共に過去三ヶ月間に生起した事實を述べよう、予の數次に亘る警告がチャーチル氏に何等の印象を與へなかつたことを予は不思議とは思はない、この男は他人の命を心配するやうな人間ではない、彼は文化や文化的建築物などに氣を配る人物ではない、戦争勃發當時既に「假令英國の諸都市が廢墟に化さうとも勝たねばならぬ」と聲明した男である、併し彼はこの戦争に勝てなかつたのである、予が「特定の日以降は敵が空爆する毎に必要とあれば一個の爆弾に百個の爆弾を以て報復する」と約束したが、この男に對してはその犯罪的性格を一度たりとも反省させることは出來なかつた、彼は過般の演説で「獨逸軍の猛爆を受けても英國國民は相變らず歡呼を以て自分を迎へたので、再び新たな勇氣を得てロンドンに歸つて來た」と聲明し、この事實によつて彼が予の警告に「屈しないぞ」といふ意思を表明した、チャーチル首相は或は戦争遂行のため權力強化を計るかも知らぬ、併し我々は今後もなほ敵の空爆し來る毎に必要とあれば百個の爆弾を以て叩き返す決意を強め、英國國民が彼の犯罪的羈絆から脱して自由となるまで、これを續け抜くであらう。

英佛兩國のバルカンに對する意圖は佛國ラシャリテの佛參謀本部で發見獨逸軍に押收された祕密文書でも明かす予はこれを對ギリシア、ユーゴに對する覺書中で發表した、右によれば一九三九年から一九四〇年にかけて既に

英佛兩國はバルカンを戰爭舞臺と爲すことを計畫してゐたのである、かくして英國の利益のために數百の師團が動員される事になつてゐた、フランスの突然の降服はかかる計畫の實行を行惱みとしたがフランス降服後チャーチル首相はいま一回この計畫を考へ始めた、併しこの試みはルーマニアが情勢の變化のためにその手中から逸するに至つて益々困難な問題と化した、予のバルカン政策は次の諸點に要約出来る。

- 一、ドイツはバルカンに何の領土的野心を有せず利己的な打算により行動したものでない。
- 二、ドイツはこれ等諸國と經濟關係を結び出來得るだけその關係を緊密化せんとしたものである、かくすることはドイツの利益であるばかりでなくバルカン諸國自身の利益であり得る、何故ならば商業顧客たり得る二國が有無を通じ相互に利益を得ることの必要はバルカン諸國とドイツとの間の場合に當てはまる言葉であるからである、ドイツは工業國であり食料及び原料品が必要であり、バルカン諸國は農業國であり原料品生産國であり工業生産品を必要とする、若しも英國又は米國さへもかかるドイツの意圖をドイツのバルカン侵略と看做さうとしたとするならばこれは牽強附會に過ぎない、何とならば如何なる國とても自國の經濟政策は自國の根本利益に基いて樹立するのが當然で決して外國の民主主義的資本家の利益を基礎として樹てるものではないからである。
- 三、政治的利益を云々したいもののため敢へていへばドイツはその協力者が健全且つ強力であることを利益としたといふに止まる、ドイツのこの方針を辿ることによつて之等の國々の繁榮は次第に増大したのみならず、相互信頼の途が開けたのである、この平和的發展を妨害しようとするのが戰爭挑發者チャーチル首相の目的であつた、そして彼は鐵面皮にも他國に對して全く價値なき援助約束即ち不安の要素を増し、信頼の缺乏を深める。

やうな保障を與へることによつて遂にこの平和な歐洲を戰亂の巷と化せしめたのである、特にギリシアの如きは進んでこの無益なる保障を要望し英國の誘ひの手に乗つたのである、かくてギリシアは操り人形と同じやうに主人たる英國と運命を共にしたのである、余はギリシアの指導原理を誤らしめた罪人とギリシア國民との區別はギリシアの歴史がそれを示してゐると信ずる、英國の奴隸でありギリシアの國務遂行を考へるよりは英國の戰爭政策をもつてギリシアの國策とした國王の抱懷した原理は國民の關知しないものであつたからである、余はこのことを深く遺憾とする、余はギリシア文化、藝術の財寶に對しては深甚の嘆賞讚美の念を以て見て來た、その余にとつて事態がかくなるを傍觀するのみで之を阻止する何等の力をも盡し得なかつたことは誠に遺憾とする所である、一九四〇年の夏チャーチル英首相はギリシア首腦部の一部に對し度を越えた空虚な援助保證を與へることに成功したがそれは明かにギリシアの中立性を侵害するものであつた、この結果殊に甚大な影響を蒙つたのはイタリーである、それ故に一九四〇年十月イタリーは餘儀なくギリシア政府に對し最後通牒を提出しイタリーにとつて看過し得ない敵性宣傳中止の保障を要求した、併しイタリーの右要求は英國の勢力下にあつたギリシアから素氣なく拒否された、かくて最早バルカンに於ける平和は絶望となつた、ドイツは問題を解決するためにはなほ爲すべき所ありとの一縷の望を託してゐたため直ちにギリシアとの國交斷絶を敢へてしなかつた、然し余は當時全世界に對し若しギリシアが前大戰當時の觀念を持ちつづけてゐるならば我々も亦單に拱手傍觀するのみではないであらうと警告する義務を感じた、英國が歐洲大陸の一角たりとも軍を上陸せしめるならば直ちに斷乎これを大陸より驅逐し返すであらう、との余の警告は眞劍に聞き入れられなかつた、この冬の期間中英國が如何に増長して、新たなサロニカ軍のための基地設置に夢中になつてゐたかは既に我々

の知る所である、北アフリカに於てイタリア軍が喫した敗北は對戰車防禦陣並に戰車の不備といふ技術的缺乏によるものであつたが、これをしてチャーチル首相は戰場をリビアよりギリシアに移轉せしむべき時機到來せりとの確信を抱くに至らしめ、ギリシアにおける主力は戰車と主として濠洲、ニユージールランドよりの派遣軍から成る歩兵師團であつたが、この兵力をもつてバルカンに戰火を波及せしめ得ると確信してゐたのである、余は敵の攻勢に對して先手をうつて兵を進めるに必要な手段をとつた、かくて我々の生命線であるこの大陸におけるチャーチル首相の妨害を速やかに排除し得たのであつた、余は茲に、右の措置が直接ギリシアに向つてなされたのではなかつたといふことを明言しなければならぬ、ムツソリーニ首相は余に對し一人のドイツ兵の援助たりとも要請したことはなかつた、ムツソリーニ首相も順調な季候の到來と共にギリシア戰鬪は勝利に導かれることを確信してゐたのである、バルカンにおける獨軍の進撃はイタリア軍の援助の意味においてなされたのではなく、英國が伊希兩軍の戰鬪繼續中に漁夫の利を占めてバルカンにおける足場を獲得し新たな策動を企てるを未然に防止し、伊希兩軍の戰鬪場に更にユーゴスラヴィア、トルコをも捲き込ますとする英國の陰謀防止を目的としたものである。

ユーゴ、トルコの兩國に對しては余は權力掌握以來、經濟的領域における緊密なる提携を實現せんと大いに盡力して來た、ユーゴは前大戰以來ドイツの敵國であつたがドイツはこれに敵愾心を抱いて居ない、トルコは前大戰でドイツの同盟國としてドイツが蒙つたと同様の苦慮を蒙つた、ドイツはユーゴとの協力に依つて伊希紛争を解決しイタリアの負擔を軽減せんと欲した、ムツソリーニ首相はユーゴを我々の平和戰線に参加することに同意したのみならず、凡ゆる方法を以てドイツの企圖を支援してくれた、斯くして結局ユーゴ政府は三國同盟に参加

可能となつた、三國同盟はユーゴに對し何等の要求をも提起せず、寧ろ同國に利益を齎すものであつた、併しながらユーゴの同盟参加二日後に我々は買収された少數の陰謀團がチャーチル首相を欣喜雀躍せしめるやうな行爲を敢行したとの報告に驚かされた、依て余は直ちにユーゴ進攻を命じた、何となれば斯くてはドイツ國土を安泰ならしめ得ないからである、諸君は余の斯る處置を諒とされるだらう、余はドイツに對して信義を堅持するブルガリアを一方に有し、他方ユーゴの不信行爲に憤激せるハンガリトとドイツ間には充分なる諒解があつたので冷靜にこの決定を爲し得た、我盟友日、伊兩國はドイツの對ユ攻撃を以て嘗て一度歐洲全土を戰火に投じたことのあるユーゴに再び端を發する憤激の爆發であると諒解して呉れたに違ひない、余が三月二十七日獨軍司令部を通じて發表した作戰計畫の實施には次の困難を克服しなければならなかつた、即ち

(一)陸軍並に空軍は至急兵員の増強をしなくてはならなかつた、(二)部隊の配置移動、(三)軍需補給路の確保、(四)敵軍の手中に在る多くの飛行場の占據確保

等を急速に實現しなくてはならなかつた、余は四月六日を以つて攻撃開始の日と決めた、この日ブルガリア駐屯軍の獨南下部隊は攻撃態勢を整へ他の部隊も命令一下直に進撃し得る態勢下にあつた、余は各部隊の進撃開始の日を夫々四月八日、十日、十一日と決めた、主なる作戰計畫は次の通りであつた。

一、ブルガリア部隊はギリシアのトラキア地方を進撃してエーゲ海に出る、この作戰の中心は右翼部隊に置きこの部隊は山岳兵並に機械化師團を使用してサロニカに向つて破竹の進撃をする。

一、第二軍はスコプリエ方面に向ふ、この部隊の目的は出来るだけ速かにアルバニアから進軍するイタリア軍と合流するにあつた、この獨伊兩軍の作戰は四月六日に開始されねばならなかつた。

一、四月八日から開始すべき作戦はベルグラード周辺に出る目的をもつてブルガリアからの一隊がニツシュの方
向から進軍することであつた、又一獨軍部隊は十日にバナトを占領し、北方からベルグラードの前面に到着す
ることになつてゐた。

一、カリンシア、ステイリア、西ハンガリーに配置されてゐた他の部隊は四月十一日を期してザグレブ、サラエ
ヴォ、ベルグラードを目指して全線に亘つて夫々行動を開始した。

これに關しては我々の同盟國ハンガリー及びイタリーとは自由協定が締結されてゐたのである、マケドニア軍ギ
リシア軍に對抗して進發した獨軍は前大戦において赫々たる戦功を示したリスト元帥の指揮する部隊であつた、
同元帥は再び最も困難な状況の下に難問を解決した、西南方から進撃の部隊及びハンガリーからユーゴに攻め入
つた部隊はワイヒ大將指揮の部隊であつた、彼も亦最短時間の下に目的を到達した、かくて獨軍部隊及び武装親
衛隊はプラウヒツチ元帥統帥の下に一致協力五日間の後には既にギリシア、トラキア軍を降し、アルバニアより
進撃の伊軍と連絡に成功しサラニカを確保し、十二日の後にはセルビア軍をして降服の餘儀なきに至らしめた、
かくてラリツサからアテネへの困難ではあるが武勳赫々たる追撃を導く爲めの前提條件を作つた、この行動はベ
ロポネサス半島及び無數のギリシア島嶼の占領によつて完成された、この戦闘に於て獨軍はその優秀性を完全に
發揮した、特に最も強力な要塞を以て堅められたトラキア戦線の戦闘は豫想し得る最も困難な試練に屬するもの
であつた、戦車隊も亦通過不可能と思はれる地形の中にあつてよくその任務を果した、機械化部隊は部隊個々の
將卒の能力、勇氣、忍耐と同時に裝備の優秀さによつて最上級の賞讃に値する勳功を擧げた、空軍は連戦連勝の
記に新たな勝利の記録を加へた、その犠牲的精神と大膽さはこの地方の峻嶮なることと從來不可能であると考へ

られた悪天候を冒して敢て戦ひを斷行した、その困難さを知る者にして始めてこれを解し得るのである、従つて
此戦闘はドイツ兵に依つて始めてよくこれをなし得るものであると言ひ得る、彼等は泥濘の路を冒し爆破された
道路を横切り、岷々たる隘路を抜け、或は水を涉り岩を越えあらゆる苦辛を冒して僅か三週間の中に二ヶ國を征
服したのである、我々は又この勝利の大半は友邦との提携の賜であることを認めねばならない、特に盟邦イタリ
ーが困難なる中に最大の犠牲を拂つて六ヶ月の長きに亘つてギリシア軍と戦つたこと、即ちイタリー軍は多数の
ギリシア軍を相手にしたのみならずその勢力を碎いて既にその崩壊の避け難きものにしたことを銘記せねばなら
ないのである、ハンガリー軍も亦昔日の強大なる武力の片鱗を現はしバチカを占領しその機械化部隊はサウ河を
越えて進撃した、併し戦局を顧るとき、我々に抵抗せる敵軍特にギリシア軍が恐る可き勇敢さを以て戦つたこと
をここに述べねばならない、彼等も早や抵抗が不可能となるか或は又それが無用となつて始めて降服したので
ある。

更に余はこの戦闘を惹起した元兇に就いても述べねばならない、この戦闘を惹起したのはチャーチル英首相で
ある。彼は今ノルウェー戦やダンケルクの場合と同様勝利を捏造しようと努力してゐる、余はこの戦闘が英國の
ために名譽あるものとは考へ得ないがチャーチル首相はこれを以て名譽あるものと考へるのである、若しチャー
チル首相以外の政治家であつたならば斯くも大敗を喫し、かくも多くの兵士を悲惨の中に叩き込みながら平然と
してその椅子に止ることは出来ないであらう、それはチャーチルの如く大敗を以て屢々名譽ある勝利なりと稱し
平然として居られる如き特殊の性格を有する者にして始めて出来ることである、ギリシアに上陸した英軍はその
數約六、七萬に過ぎなかつたが、戦局が破局に達する迄はその數は二十四萬と稱せられたのである、この軍隊を派

遣した英國の目的は南方からドイツを攻撃しこれを敗退せしめ、これによつて戦局を轉換して再び一九一八年の破目にドイツを叩き込まうといふにあつた、ユーゴスラヴィアはチャーチル首相のために再び悲惨の中に喘ぐこととなり僅か二週間を出でずして全滅の悲運に陥つた、ギリシアにあつた英軍は僅か三週間にして或は殺され或は傷つき或は又捕虜となるか溺死するか敗走せしめられたのである。

而もチャーチル首相は鐵面皮にもバルカン戦に於ける獨軍の損害は七萬五千に上り西部戦線の犠牲者の倍以上に上つてゐると稱してゐる、余はこの戦闘の結果を二、三の簡單な數字を以て諸君に知らせよう。

一、ユーゴ作戦に於ける捕虜の中ドイツ系兵士クロアチア人、マセドニア人等その後直ちに釋放された者は除外するとしてもセルビア人の捕虜は將校六千二百九十八名、兵三十三萬七千八百六十四名である。

一、ギリシアの捕虜は將校八千、兵二十一萬に上つてゐる、ギリシアの捕虜は彼等の示した敢闘に鑑み一部は既に釋放し又は近く釋放されることとならう、英國、澳洲、ニュージーランド等の將校捕虜は合計九千人を超えてゐる。鹵獲品はその概數さへ目下のところでは計量出来ないが現在既に明かになつたものだけでも小銃五十萬以上、砲一千門、機關銃、迫撃砲等は數千の多數に上り車輛も莫大で彈丸は計算すら不可能である。

一、更に我が空軍が撃沈した敵船舶は合計七十五隻四十萬噸、損傷合計百四十隻七十萬噸に上つたのである。東南諸作戦には總兵力三十二師團が用意されてゐたが、この大軍の編成は七日間で完了した、併し實際の戦闘に参加せる兵力はこのうち歩兵及び山嶽部隊十一師團、装甲部隊六師團、機動部隊及び武装親衛隊四個師であつた、この内六日間に亘つて戦闘に参加せるもの十一部隊、十個師團は六日間以下戦闘を行つたに過ぎない、しかして戦闘に参加せざるもの十一部隊を擁してゐた、而してギリシアの作戦完了前既に三部隊を撤收させることが

出来、他の三部隊は最早やその必要なため輸送を見合せ二部隊も同じ理由で同地區に待機せしめるに止めた、英軍と交戦した部隊は僅か五部隊に過ぎなかつた、而もこの五部隊の一部たる装甲三個師のうち二個師が常に戦闘を續けたに過ぎず、残り一個師は作戦中後方に待機し、後に至り必要な爲これも撤收した、要するに英、澳、ニュージーランド軍と戦闘を交へたものは僅かに装甲二個師團と親衛諸部隊に過ぎなかつた、獨陸空軍及び親衛隊の損害は嘗てなき儘少に止りユーゴに於ける損害は陸軍及び親衛隊士官五十七名、下士官及び兵一千四十二名が戦死し、士官百八十一名、下士官及び兵三千五百七十一名が戦傷を負ひ士官十三名、下士官及び兵三百七十二名が行方不明になつた、空軍は戦死士官十名、下士官及び兵四十二名、行方不明が士官三十六名、下士官及び兵百四名であつた。

我々は今回のバルカン作戦を検討する時再び兵士の嚴格なる訓練と優秀なる裝備とが如何に重大なる意義を持つかを確認する、最初の汗と力との犠牲が如何に多くの血を儉約し得たことか、ドイツ兵士が平常の訓練で教へられたところが正しく今回の作戦に於て大なる利益を齎した、この訓練によつて又ドイツ兵士及びその指導者の卓絶した能力によつて初めて最少の血を以て最大の効果を收め得たのである、然しこの最小限度の犠牲のためには多大の優秀な武器と優秀な彈藥を必要とするのである、余は戦争を單なる物質上の問題とする徒輩ではない、何故なら物質は死せるものであり、人間のみが之を活用し得るからである、然し如何に優秀なる兵士も手にする武器が悪いか、不十分な時は効果を擧げることには出来ない、されば戦場にある多數の我々の子弟の生命は銃後にある我々の手中にあるといへる、銃後國民の多大なる汗と力のみが我々の血を節約することが出来るのだ』

次で、ドイツ軍は、五月二十日を以てクレタ島攻撃を開始し、落下傘、グライダー等の新戦術を以

て上陸を敢行し、英希軍に猛烈たる攻撃を加へたので、早くも翌二十一日、同島に移轉せるギリシア政府はさらにカイロに移轉する旨を發表したが、二十二日には英空軍の撤退を發表した。二十五日に至り、獨伊の新鋭大部隊が上陸するに及んで、英希の防禦陣も忽ちにして崩壊し、六月一日、全英軍は遂にギリシア軍を捨て、スツアキア港から脱出するに至り、翌二日、獨軍司令部は『クレタ島には既に全く敵影を見ず、戦闘は完全に終了した』と發表した。

クレタ作戦は僅か二週間を以て終了し、英軍が希軍を見殺しにしたことはダンケルクと同様であつたが、然しその損害はダンケルクに次ぐ大なるものであつた。(英國政府は五月十四日、『英國はこれ以上ギリシア政府援助の途なし』との通告をクレタ島のカネアに移轉せるギリシア政府に送つたと傳へられて居る) 同島にありし英軍は三萬乃至五萬と見られて居たが、六月一日、英國陸軍省の發表せる英軍撤退の聲明によれば、クレタ島からエジプトに脱出せる英軍總數は約一萬五千名で、英軍の損害は甚大であると聲明して居り、ドイツ側が翌二日、作戦完了の發表と共に、ドイツ軍は最後の戦闘たるスツアキア港の脱出戦に於て英軍三千を捕虜とした旨を發表して居り、作戦開始以來の英希軍の捕虜は一萬以上に達して居ること等を綜合して、樞軸軍の戦果はまことに大なるものであり、斯くて獨伊は全バルカンを制壓し、東地中海に於ける戦時態勢を強化し、近東及び北阿に於ける英軍に對して大なる壓力を加へると共に、英國の生命線たる地中海路線に非常なる脅威を與ふるに至つたのである。

る。

右、バルカン作戦に於ける獨伊の大勝に對して、四月二十日、我が松岡外相と獨伊兩外相との間に左の如き祝電が交換された。

〔松岡外相よりリッペントロップ外相宛〕 ユーゴスラヴィア及びギリシアにおける軍事作戦は貴國政府により計畫せられ、且豫期せられたる通り極めて目ざましき方法を以て遂行せられ、迅速且成功裡に終結を見たることに對し閣下に深厚なる祝意を表すると共に、ここに重ねて無敵ドイツ軍の強力と豪勇とに對し多大の讚辭を呈するものなり、何卒總統閣下に予の祝意を御傳達せられたし。

〔松岡外相よりチアノ外相宛〕 ユーゴスラヴィア及びギリシアにおける軍事作戦が迅速且成功裡に終結したることに對し閣下に祝意を表す、貴國軍の勇敢なる功績は我等の衷心より賞讃措く能はざるところにして、今次の成功は貴國軍の名譽に更に榮冠を加へたるものなり、總理閣下に予の祝意を御傳達せられたし。

〔チアノ外相より松岡外相宛〕 我國に對する閣下の眞摯なる友好の念を確認せらるる御懇篤なる御祝電を深謝し右友好の情に對し當方は充分に御禮申し上げんとす、御祝電の主旨は總理にも傳達取計ひたるが、總理もこれを多とし且閣下に謝するところありたり。

〔リッペントロップ外相より松岡外相宛〕 閣下はドイツのユーゴスラヴィア及びギリシアにおける軍事行動が急速且大成功裡に終結せることに對し予に祝辭を送られ且同時に右祝辭を總統にも傳達するやうに依頼せられたるところ、予は閣下の希望に沿ふやう致すべく、ここに閣下の祝辭に對し又閣下のドイツ國防軍賞讃の言葉に對し深甚なる感謝の意を表す、閣下のドイツ滞在中の接待に關する非常に友好的な言葉は予を特に喜ばしめたる

ところにして、閣下のドイツ訪問はまた予の生々とした記憶として永く残るべし、閣下のドイツ滞在中、ドイツ國民は日獨共同の大任務を果すにつき彼等が盟邦日本國民と如何に結びつき居るかを感ぜ居ることを表明せり、我々の共同の任務が勝利を得るはなほ遠きにありとの點については予も閣下と同意見なるが、予は我々盟邦國民が大なる未來を迎ふることを確信し居れり。

第六章 英軍のイラク征服とシリア進撃

歐洲戦局の進展擴大に伴ひ、近東西亜方面に於ける情勢も大いに緊迫を示すに至つたが、四月四日イラクにクーデターが勃發し、アブヅル攝政はバスラに逃亡し、タハ・エル・ハシミ内閣は倒潰し、下院は解散されるに至つたが、このクーデターは同國軍部内の急進派が驟起したもので、イラク内外政策に對する英國の壓迫を一掃せんことを目的とする反英的のものであつたことは、クーデター勃發の直前たる同二日、カイロよりバグダットに歸還したコーンウォリス駐イ英大使に對して國家主義分子の示威運動が行はれた等の事實が示して居り、直接の重大原因としては、去る三月中旬、テオフィック・セウデイ・ベイ外相がカイロに於てイーデン英外相と會見せる際、イラクに於ける鐵道及び油田の管理權を英國に引渡すべきことを要求したのに對する反對が勃發したものと見られて居る。

クーデターの結果、軍部の指導者で親獨系と見られるラシッド・エル・ガイラニ將軍が首相に就任し、アミン・ザキを參謀總長、フェーミ・サイドを機械部隊總司令官、マームード・セールンを空軍司令官、イスマイル・エナメクを國防相に夫々任命し、取敢ず國內の秩序維持に努むると共に、軍事内閣を組織すべく工作を進めたが、七日、新政府の施政方針として、(一)非交戰國たる立場の維持、(二)汎アラブ政策の繼續、(三)英國との條約に基く義務は遂行するが新たな譲歩は絶對にせず、(四)隣邦アラブ諸國との緊密なる協力、(五)正しい國內政治、(六)害惡を爲すものに対する處罰、(七)國民的自由の保持等の諸項目を發表した。

而して、クーデター以來各地に於ける反英運動が激化しつゝあつたが、八日、イラク軍がバグダット附近の英空軍基地シン・エル・デパネを占領するに至つたので、事態を重大視せる英國政府は、俄然、強硬なる彈壓政策に出で、直ちにコーンウォリス公使はザキ參謀總長に對して左の如き警告を發したと傳へられて居る。

『英國はバスラに逃亡せるアブヅル攝政を復位せしめ、イラク軍隊を復員せしめざる限り斷乎たる措置に出づるであらう。イラクに在る英國飛行場及び駐屯軍は今後、かかる事件の發生せざる様イラク軍隊によつて護衛せらるべきである。若し風説の如く、予が現實にバグダットを退去するが如き事態に立ち至らば、英國とイラクとの關係が斷絶の餘儀なきに至ることを考慮され度い』

斯くて英國政府は四月十七、八の兩日に互り、強力なるインド兵の大部隊をバスラ港に上陸せしめ

たが、これは、英イラク同盟條約の規定に従ひ、イラクを通ずる連絡路確立のためであると説明されたが、さらに四月三十日、さらに有力なる英軍部隊がバスラに上陸するに至つたので、イラク政府は『條約の規定の如く曩に上陸せる英軍部隊がイラク領を離れるまでは、英國は新部隊を揚陸せしめる權利なし』といふ強硬なる抗議を提出すると共に、バグダット西方百軒の英空軍基地ハバニアの周邊にイラク軍の大部隊を集結せしめてこれを包圍するの態勢を整へたが、これに關し、イラク政府は左の如き聲明を發表した。

『イラク政府は既に英國との條約を尊重して英國軍がバスラに上陸、イラク國內を通過するを許容すべく凡ゆる努力を拂つてゐることを明かにした。然るにこの條約の條項に反する英國の要求は遂にイラク國をして國權維持自衛のため必要な手段を採るの已むなきに至らしめた。イラク國民は冷靜を保持してイラクの措置は正當なる根據に出づるものなることを信すべきである』

これに對して英國政府は、イラク側の抗議を一蹴すると共に、逆にイラク政府に對しハバニア空軍基地を包圍せるイラク軍の撤退を要求し、『萬一兩軍の間に紛争起りたる時は責任はイラク政府側にあり』との通告を發し、バスラに上陸せる部隊を北上せしめバグダットに迫らんとするの態勢を示したので、事態はまさに一觸即發の危機に立ち至つた。

抑も英國のイラクに對する政策は、萬一トルコが參戰せる場合には、イラクを通じて東洋方面との連絡路を確保せんとするに在り、これがため種々なる謀略工作を以てイラクの支配を掌中に收めんと

企圖しつゝあつたので、開戦以來、日を追ふてイラクに對する壓力を強めて來たのであつた。従つて今次のクーデターにより親英政權の倒壞、親獨政權の出現を見るや、遂に強硬手段を採り、武力を以てイラクの征服を斷行せんとするに至つたものである。即ち四月二十三日、英下院に於てイーデン外相は、『英國政府はドイツがイラク方面の英國權益に對し脅威を加へる可能性があることは充分知つてゐる、今後英國は實力を有する所に於ては徹底的政策を以て臨まず直ちに行動を以て報ゆる強硬方針を採るつもりである』と、その態度を言明して居るのである。

右、五月一日の英國政府の通告に對し、イラク政府は即時英國政府に對し、バスラ上陸の英軍並にイラク領土内に進駐せる英軍の撤收を要求する最後通牒を發すると共に、ガイラニ首相は、同夜、國民に對して左の如き布告を發し、對英開戦の決意を促した。

『開戦の日は近づいた、吾人は戰爭を欲したのではないが、祖國の名譽は各個人の運命に關する、國民はそれぞれの武器をとつて起て、イラク國民は傲慢なる英國の強壓に屈するものではない、われ／＼が今戦はんとする戦ひは祖國の名譽のための聖戦である』

斯くて、五月二日、英國政府は『英イラク兩軍はハバニアの英空軍基地に於て二日遂に衝突した。兩軍の戦闘は終日に互つて繼續されたが目下なほ續いて居るものと信ぜられる』と戦闘開始を正式に發表したが、イラク政府も翌三日、全國民に對して對英最後通牒の期間滿了を以て愈々交戦状態に入

る旨を左の如く聲明した。

『周知の如くイラク政府はこれまで戦争回避のためあらゆる努力を拂つて來た。而してイラク政府は英・イラク同盟條約の規定に従つて英軍部隊のイラク領通過権を容認せんと準備中の所英國側は右條約規定違反の行爲をなし且イラク國の主權、安全並に權利を侵犯した。ここに於てイラク政府は國土防衛のため萬端の準備をなすことが神聖なる義務であると考へるに至つたのである。かくてイラク軍部隊が條約の規定に基づき英國兵の占據してゐる飛行場から英國兵の立退きを要求したところ英國兵はハバニア附近のイラク軍部隊に發砲し來つた。よつてイラク側もこれに應戦したのである。目下戦況はイラク軍の有利に展開してゐる。イラク國民よ、この祖國の非常時に當つて、平靜を維持せよ。そして祖國の名譽と安泰維持のため義務を遂行してゐるイラク軍を絶對に信頼し國內平和を維持せよ。最後の勝利は我々のものとなるであらう。』

なほ、英國政府は兩軍衝突の經過に關して二日、左の如く發表した。

『この際想起すべき事は一ヶ月前にガイラニ首相がイラク軍首腦部の支持の下に「イラク政府は英イラク條約を尊重する」旨を聲明しその結果イギリス政府が「英イラク條約に基きイギリス軍のイラク通過の爲交通路線の開放を希望する」旨をイラク政府に通告した際ガイラニ首相は右イギリスの要求を受諾した事實である、従つてイギリス軍は無事にバスラに上陸を完了した、數日後イラク政府はイギリス政府から更にイギリス軍の第二次上陸の通告を受けるや「イラク政府は第一回イギリス上陸兵のイラク領通過が完了せざる前に更に第二次増派軍の上陸を許容する事は出来ない」旨を通告した、これに對しイギリス政府は飽くまで英イラク條約に規定されたイギリス側の權利を主張するとともに第二次第三次のイギリス兵上陸を斷行し上陸作業は無事に完了した、然るにイ

ラク軍大部隊は英イラク條約に従つてハバニア近傍に設置されたイギリス空軍基地及び教練學校の周邊に集結し始めた、しかしイラク地方軍司令官はハバニアのイギリス司令官に對し「イラク政府はハバニアにおけるイギリスの航空作業及び軍隊の移動を許すことは出来ぬ、蓋しこれによつてわがイラクは爆撃の脅威下に置かれるからである」との挑戰的通告を送つて來た、而してイラク軍の撤収を要求してイギリス大使がガイラニ首相に送れるイギリス使節の要求は全く無視された、なほイラク國民のうちにはガイラニ首相の對英強硬政策に反感を抱きイギリス・イラク間の友好關係の回復を希望してゐると信すべき理由があり、この點から見てもガイラニ首相の對英政策がイラク國民の意向を代表したものと受取れない』

斯くの如く、イラクは英國の侵略に對して斷乎反撃に厥起したのであるが、如何せん戦力の相違によつて勝敗の歸趨は明らかであつた。即ち、英イ兩軍の戦線はハバニア、バスラ、シニアイバ、及びトランス・ヨルダンの三戦線に於て戦つたが、ハバニア戦線に於ては八日、英空軍基地を包圍せるイラク軍の撤退となり、バスラ及びその西方二十軒のシュニアイバ飛行場を経て國境クウエイトに至る戦線に於ては、英國派遣の印度兵がイラク側に寝返る等、一時イラク軍の優勢を傳へられたが、漸次、英軍に壓迫され、また、トランス・ヨルダン戦線は國境寄りの熱砂地帯で、ペトウイン族より成るゲリラ部隊が活躍し、ケルククよりの送油管を切斷する等、ゲリラ戦を展開して英軍を悩ましたが、期待せる樞軸軍の強力な救援も實現せず、汎イスラム、汎アラブの救援も單に聲援に止まり、孤立無援の悲境に於て悪戦苦闘を續けること一ヶ月に及んだが、遂に五月三十一日、バグダットの防備軍が潰

滅し、英軍に對して休戦を申入れるの已むなきに至つたのであつた。

即ち、イラクが敢然として英國に對して宣戰するや、豫ねてから熾烈なる英反感を抱ける各地のアラビア人、イスラム教徒は翕然としてイラク支援の動きを示し、バグダット亡命のエルサレムの太守は、五月四日、パレスチナの全アラビア人に對して武器を執つて壓迫者英國に抗戦すべしとの布告を發し、イラクの回教法典學者團も同じく四日、印度回教徒に對し檄を飛ばせて全アラビア人驟起の聖戰が宣言された以上、英國のための戰鬪に従事する回教徒は回教の神聖な權利を裏切るものであるとの聲明を發して印度回教徒の奮起を促した。英國の勢力下にあるエジプトに於てすら、各新聞は何れもイラク支持の態度を表明したと傳へられて居る。さらに、サウジ・アラビアの參謀長モハメッド・タレク將軍は、四月十六日、『イラクはその選んだ一途以外には如何なる態度も取ることは出来なかつた。英國の態度こそはイラクをして勢ひ武力を用ひその名譽を守るの餘儀なからしめたのである。英イラク戰爭は間もなくアラビアに勃發すべき更に大規模なる戰爭の序曲であるに過ぎない。このアラビアの戰爭こそは英國没落の導因となるであらう』とイラク支援の態度を表明したのであつたが、然し、これ等、實力を有せざるアラビア人、回教徒の支援は結局に於て單なる聲援に過ぎず、イラクは無慚にも英國の暴に屈するの已むなきに至つたのである。

なほ、回教徒の盟主たる地位にあるトルコは、五月三日、開戦と共にサラジヨグル外相がイラク、

イラン、アフガニスタンの各國公使を招致して事態につき協議したが、これは一九三七年七月八日のサーダバッド不可侵條約の規定に基くものであつた。また、イラクのナジシャウケット陸相はアンカラを訪問し、トルコ首脳部及びサーダバッド條約の締約國であるイラン及びアフガニスタン兩國駐土公使と協議を遂ぐるところがあつたが、五月五日、トルコ政府は英國及びイラク兩國政府に對して調停を申入れたが、英國政府は即時この調停申入れを拒絶せざるを得ない旨を言明し、また、イラク政府も、英軍が全イラク領土より退去しない限り、トルコ政府の申入れは拒絶の他なしと回答し、遂にトルコの調停は失敗に歸したのであつた。

さらに最も注目されるのは蘇聯の態度であるが、蘇聯政府は開戦後十日を経た五月十二日、イラクとの外交關係を復活する旨を發表して各方面を驚かせた。右に關するタス通信の發表は左の如くである。

『イラク政府は一九四〇年末、トルコ駐在公使を通じて數回に亘つて蘇聯政府に對し蘇聯とイラク間の外交關係樹立方提議して來たのである、その際イラク側では蘇聯はイラクとの國交開始の場合にはイラクを含むアラビア諸國の獨立承認をも宣言して呉れるやう希望してゐた、蘇聯としてはイラクとの外交關係樹立には積極的態度を保持してはゐるが、何等かの宣言を行ふといふ條件付では同問題を考慮することが出来ない、當時その旨イラク政府に回答、交渉はそれで一時打切りとなつてゐた、然るに一九四一年五月三日イラク政府は駐土蘇聯大使館を通じて蘇聯イラクの國交開始を要望し來り、而もこの際には他のアラビア諸國に關し何等の條件をも附し

て來なかつたので、蘇聯政府もその反對を引込め、イラク政府の外交關係樹立要求を受諾したのである』

元來、蘇聯と近東諸國との外交關係は、一九二九年のイエーメン、サウジ・アラビアとの和親通商條約に初まり、次で一九三三年の侵略國停戰條約主義に基き、トルコを初め、イラン、アフガニスタンと條約を締結し、越えて一九三九年にはこれ等諸國との通商協定を更新し通商代表を送つて居るのであるが、イラクのみは今日まで何等の外交關係を有しなかつたのであつたが、今回、英國との戦争の最中に於て突如としてモスクワ政府が外交關係復活を發表したことは、明らかに反英態度を示すものであるとされて居る。従つて、右發表に對し同日、英國政府は『蘇聯、イラク兩國の國交復活は別に驚くに當らず、これによつて蘇聯のイラク援助政策が推進されるものとは解されない』と殊更らに平靜を装へる見解を發表したのであつた。

斯くて首都バグダットを死守して頑強な抗戰を續けて居たガイラニ首相以下の國民防衛委員會は、五月三十一日、英機械部隊が首都郊外に殺到するに及んで同市を脱出し、バグダット軍事總督は辭任し、イラク軍補助部隊は英軍に對して休戰を申入れたのである。よつて英軍は、バグダット市を占領し、英軍指導の下にエルマリ市長を中心として臨時委員會が組織され、同市の管理が行はれることゝなつた。右休戰に關して同日英國政府は左の如く發表した。

『ガイラニ首相および閣僚のイラク逃亡によりバグダット市長主宰の四名より成る同市治安維持委員會は英軍に

對し休戰を申入れた、英軍は右申入れを受諾、ここに英、イラク間の戦争は終了したが、イラクにはなほ獨軍の飛行機および兵員が殘存し、英軍に對し行動を起すやも知れず、但しアラビヤ人に關する限り戦争は完全に終了した』

英軍のバグダット入城と共に休戰協定が調印されたが、同協定中には、『イラク政府がイラクに於ける英國の權益を尊重する限り、英國はイラクの獨立を尊重するとともにイラク軍三萬の武裝を認め、また、ガイラニ將軍のクーデターにより國外に亡命したアブズル・イラー攝政をして新政府を組織せしめる。』との條項が挿入されて居ると報ぜられて居る。

なほ、ガイラニ政権は親獨的でありと見られて居り、従つてイラク側は樞軸諸國の積極的援助を期待して居たのであつたが、僅かに、五月十七日、ハバニア戰線に於て獨飛行機が英空軍基地を爆撃し同時に、伊政府が伊空軍は既にイラクの各基地に配備されたと發表したのに止まり、獨伊兩國當局は開戰以來、一切沈黙を守つて居り、その態度は各方面から注目されて居た。然るに五月三十一日、愈ゝ、バグダット陥落の日に於て、獨外務當局が左の如き樂觀的な見解を發表した。この積極的な見解は、ドイツが何等か期するところあることを示すものとして、これまた各方面の注目を惹いたのであつた。

『英軍は最近續々兵力を増強してバグダットを壓迫して居り、これに對しイラク軍は多數の犠牲を拂ひ乍らも頑強な抵抗を繼續してゐる、バグダットが脅威を受けることになればイラク政府としては新事態に對處して抗戰の

中心を他に移動しようが、これによつて全局面に重大な變化が齎されることはあり得ない、イラク軍現在の抗戦振りから見れば、戦局を挽回し得ることは確實でドイツは抗戦の前途を極めて樂觀してゐる』

バグダットの陥落によりガイラニ首相はザキ參謀長と共にイランに亡命したが、對英抗爭の中心勢力である國民防衛委員會はシリアのダマスカスに移轉し、六月一日『イラク國民は飽までも對英抗戦を繼續する。英國軍がイラクを撤退しなければならぬ時期は豫想以上に早く到來するであらう』との聲明を發表して、バグダット以外の各戦線に於て、なほ抗戦を續けて居るイラク軍を激勵した。然しながら、六月四日、イラク油田の中心たるモスールが英軍に占領されたのに續いて各地に於けるイラク殘軍も漸次掃蕩されるに至つた。また、蒙塵を傳へられたフェーザル王はバグダットに止まり、親英派のアブズル・イラー前攝政は六月一日、同市に歸還し、再び攝政に復位し、同六日ヤマル・マドファイスを主班とする親英内閣が組織されたと報ぜられて居るが、政治の實權はイラー攝政政權の設立に暗躍した親英派の巨頭ヌリ・エス・サイドの掌中にあり、事實上彼の獨裁政治が實現したものと見られて居る。

従つて、六月十日、イタリア政府はイタリアと新イラク政權との國交關係は斷絶して居ると公式に發表し、その理由として左の如く説明して居る。

『イラク新政府は、眞のイラク國民の感情に反對行動を執つて居る英國の作り上げた傀儡政權に外ならない。眞

のイラク國民はなほ武器を執り英國に對して果敢に抗戦を繼續して居るから、イラクの戦争状態は依然として不變である』

これより先き獨軍のクレタ島の攻略に次ぎ今次英軍のイラク侵入、獨佛新協定の成立等によつて、近東の情勢は愈々緊迫を見るに至り、ドイツ政府は五月十三日、紅海を作戰區域に指定せる旨を宣言したが、次で十五日、英近東軍司令部はドイツ空軍の近東進出を指摘し、英空軍がシリアのラク、バルミラ、ダマスカスの三飛行場を爆撃したと發表すると共に、イーデン外相は同日の下院に於て、フランスはシリアの空軍基地をドイツに貸與したと攻撃して左の如く述べた。

『政府の入手せる詳細な情報によれば、シリアにおけるフランス官憲は獨空軍に對しイラク方面への飛行基地としてシリアの飛行場の使用を許容せんとしてゐる模様である、従つて政府はシリア飛行場における獨空軍に對し適當なる行動を執り得る法的根據を與へられたのである、かくの如き事態に立ち至つたことに對してはフランス政府はその責任から免れることは出来ない、ドイツの命令に従つてフランス政府が獨軍に對しシリアの飛行場の使用を許容することは明かに獨佛休戰條約に違反するものであり、フランス政府の確約と完全に矛盾するものである』

次で、翌十六日、英海軍省は、トルコ領海を除く東地中海全部を新たに商船航行の危險區域と看做す旨を公表したが、これは、右トルコ領海を除く全東部地中海に機雷を敷設して獨軍のシリアに對する軍隊並に軍需品の海上輸送を阻止せんとするものであると説明された。シリアに對する英空軍の爆

撃はその後も繼續され、樞軸軍またこれに應酬し、イラクに於ける戦局の終了と相俟つて、新しき戦局がシリアに展開されんとする情勢を示すに至つた。

斯くの如き英國の爆撃に對して、シリアに於ける高等辨務官兼佛シリア軍司令官ダンツ將軍は十八日左の如き強硬聲明を發表し、英國の攻撃に對して斷乎反撃を加へる決意を表明した。

『最近、獨佛間に行はれた新しき措置は何等シリア占領または内政干渉を意味するものではなく、單に休戦條約の實行に過ぎない。然るに英國はダカーに於ける行爲をまたもシリアに於て繰り返し、フランス人の血を流すに至つた。フランスは求めて英國と戦ふものではないが、英國がもし攻撃するならば、吾々はこれに抵抗しなければならぬ。余はすでに本國政府より嚴重防空に當るべきことを命令された。シリアは暴力に對しては暴力を以て應へるであらう。』

一方、ヴィシーに於ては六月三日、ペタン主席は二回に亙り緊急閣議を召集し、特にウェーガン將軍を列席せしめてシリア問題について協議したが、この結果ヴィシー政府の態度は飽迄も獨佛協力の強化に邁進すると共に、シリアの單獨防衛を決定し、五日、シリアの高等辨務官兼佛シリア軍司令官ダンツ將軍は獨軍のシリア進駐を否定し左の如き聲明を發表した。

『某國の飛行機がシリアにあるといふのは事實に反する、かつて某國機が西方より來りてシリアに一時着陸し東方へ行つたことがあるがその飛行機は同じ條件で東から西へ歸つて行つた、この事實からいろいろのデマが飛んだのである、さらに獨軍がフランス軍と入代つてシリアに進駐したといふ噂があるが、これまた虚報であること

は諸君が一番よく知つてゐる、佛政府は對獨態度を變更することを決意したが、政府はこの新しい政策からフランスが生き抜くことを期待してゐるのみである、しかして佛政府は同時にわれ／＼につきのことを命じてゐる、すなはち、われ／＼に屬する領土を防衛すること、しかも自分の力によつて防衛することである』

然るに、六月八日早曉、英軍並にド・ゴール派の聯合軍は突如として行動を起し、シリアのレバノン地方に對して侵入を開始したが、これについて同日、英國政府は左の如く、その作戰目的を聲明した。

『英國政府は昨年七月一日シリア、レバノンが敵性國家に占領せられ近東攻撃の根據地として使用せられることを容認せざる旨の宣言を發したが、この警告にも拘らずヴィシー政府は樞軸國に協力してシリア、レバノンに空軍基地を設けこれを獨伊の使用に委せ、更にシリア、レバノンは完全なる獨の統制下に置かんとするに至つた、英國政府はペタン主席が行つた「フランスは曾ての同盟國に對し何等の敵對行爲を爲すものでない」との宣言と明白に矛盾する斯る行爲を絶對に容認することは出来ない、英國軍によつて支持された自由フランス軍は八日朝シリア、レバノンに進撃を開始した』

英軍のシリア進撃は、近東に於ける情勢の緊迫に鑑み、將來に於ける事態に備へて、機先を制して重要地點たるシリアを占領せんとする企圖に出でたものであるが、シリアに於ては佛軍の將兵中には續々脱出して、既にハイファに司令部を設置し、英軍と相呼應してシリアに進軍せんと準備しつゝあるド・ゴール派に投ずるものも生じつゝあつたので、シリアの防戦は極めて困難な事情にあつた。六

月八日、英軍のシリア進撃に對してベタン主席は、シリアに在るフランス國民に對して左の如きメツセーヂを發表した。

『シリア在住フランス國民諸君、諸君が現在居住し、その繁榮のため多年に亘つて努力をしてきた國土が今日全く理由のない攻撃の目標となつてゐる。今回の攻撃もダカールの場合と同じくド・ゴール派の裏切者によつて指導されてゐる。これらフランスの裏切者達は英國軍の支援をうけ、佛植民地帝國の統一並にフランスの主權を防衛してゐる同胞の血を流すことを敢へて辭さないのだ。かかる事實を發表することは眞に苦痛であるが、他方フランスはその宣言を忠實に守り、今回の場合もオランに於ても或は又スファツクスの場合に於ても決して前の同盟國に對して最初に武器を取つて抗したことはなかつたことを誇りを以て公表することが出来る。然るに英國側は今回の暴虐なシリア攻撃に先立つて巧妙な宣傳工作を行ひシリア攻撃の理由としてドイツ軍大部隊がシリアに續々上陸しつつあり、且又諸君に防衛を託してゐるシリアの國土をフランスはドイツに割譲せんとしてゐるからであると數日に亘つて牽強附會の主張をなしてきたのである。現地にある諸君はかかることは全く虚偽であることを熟知してゐる筈である。シリアに不時着した獨機數機も三、四機の機體破損したものを除けばすべて直ちに飛去つたことも諸君は知つてゐる。シリアにもレバノンにも現在ドイツ兵は一兵もゐないことを諸君はよく知つてゐる。

然るに諸君は今不正な、驚くべき背信的な攻撃の對象となつてゐるのだ。諸君余は自信を以て確信するが近東に於けるフランスの主權は今日迄一度も脅かされたことはなかつた。之は確かである。諸君の高等辨務官ダンツ將軍が既に諸君に告げたところを余はまた繰り返して、諸君は正義のため、佛領土保全のため祖國の歴史的傳統

的權威擁護のため闘つてゐるのだと言はう。諸君はあくまでこれらの領土を防衛してくれるであらう。これは余の希望であり、且諸君と魂を同じくするフランス全國民の希望である。』

英軍のシリア進撃に對しドイツ政府は、フランス側に獨軍が参加して居るとの英軍側の宣傳を否定すると共に、フランスに對するドイツの態度を表明せる左の如き聲明を、六月十日發表した。

『シリアにドイツ軍が入り込み、ここを次の作戰基地としようとしてゐるとの英國側の宣傳は全く事實無根であり、シリアに向つて先づ軍事行動を起したのは英國そのものである。英國は自國の利益のために國際法を無視し曾ての同盟國に對し理不盡な戰端を開いてゐる。ドイツはフランスに對しては既に停戰協定においてその植民地所有國たることを確認し植民地の武装を許してゐるが故に、フランスがその植民地たるシリアにおいて英軍の武力侵入を撃退することはフランスの義務であるばかりでなく、權利であると信ずる。ドイツは今のところフランスに對しては政治的に道徳的に絶大なる同情と共感とを寄せてゐるだけである。』

ヴァイシー政府は、英軍の進入に對して、十二日、英國政府に對し『過去五日間に於ける戰鬪によりシリアにドイツ軍が居るとの英國側の報道が全然事實無根であると判明した以上、速かに英、ド・ゴール聯合軍はシリアから撤退すべきである。佛當局としては、これ以上戰鬪を續けることによつて双方が多數の死傷者を出し、乃至はダマスクスやペイルートが破壊される前に英軍の侵入が停止されることを希望する』との申入れを行ひ、さらに、重ねて翌十三日、同様な主旨の申入れを重ねて行つたが、これに關して兩國間に交換された覺書の内容を、十三日、英國政府は次の如くに發表して居る。

〔佛政府覺書〕 フランス政府は紛争を擴大せしめるが如き行動を避けるため詳細なる情報の到着するのを待つてゐる。併し若し紛争がこれ以上擴大されるならば、フランスとしては必要な防衛手段を執らざるを得ないであらう。

〔英政府覺書〕 英政府はベタン主席から紛争擴大防止に關する保障を得て欣快とするものである。若しヴィシー政府がフランス軍に對し抗戦を停止するやう指定して呉れば英佛兩國にとつて最大の利益を齎すであらう。英ド・ゴール聯合軍は唯聯合軍に對する攻撃の基地としてドイツがシリアを利用するのを阻止しようとしただけである。

然るに、米國務長官ヘルが十四日、新聞記者との會見に於て『フランスのシリア防衛こそドイツの爲に戦つて居るに外ならぬ』と言明したので、ヴィシー政府は、このヘル長官の非難に答へて次の如く聲明した。

『獨佛協力はフランスが自からイニシアティブを執つて行つた政策であり、自由と傳統の領域に於てフランスが希望して居るものを正しく判斷した結果である。米國はシリアに侵入する何等の根據も有て居ないし、ヘル長官の非難する如くドイツ軍はイラクの英軍に對する作戰基地としてシリアを使用した事實は全然無いのである。斯の如くフランスは英國の侵略に對し自分の手で防衛して居るのであり、そこに何等ドイツの意志は働いて居ないのである』

斯くの如き事情の下に、シリアに於ける佛軍は劣勢の孤軍を以て各地に於てよく戦ひ英ド聯合軍の

進撃に抵抗したが、六月二十一日、ダマスカスは陥落し、七月九日、ベイルートの外郭に英ド聯合軍が迫まるに及んで遂に休戦を提議するの已むなきに至つた。即ち九日ヴィシー政府は休戦事情について左の如く發表した。

『近東の佛軍は過去四週間以來、佛領シリアの防衛に激戦を續けて來た。佛政府の多大の努力にも拘らず、戰鬥を有利に展開すべく軍隊を充分に増援することが出来なかつた。斯くて佛政府は優勢な敵軍に對抗して不必要な血を流し、シリア、レバノンの住民にこれ以上の困苦を與へないため、ダンツ將軍をして直ちに休戦手續を取らしむるに決したものである』

右の如くフランス側が休戦を申入れ戰鬥を停止したのに對して、英國政府はこれに對して回答を與へず英軍はなほも攻撃を激化するに至つたので、十日、フランス外務省は『英國側は我が方の休戦條件提示要求に回答せず、十日朝以來、シリアの全戦線に亙り從來に倍加する猛烈さを以て攻撃を再開し來つた』と發表したが、この間現地に於ては、英國側より休戦條件が提示され、この條件が極めて苛告であつたので、佛軍側がこれを拒否するに至つたものであると傳へられて居り、獨外務省も同日この事實を確認するの見解を發表したが、翌十一日、ヴィシー駐在の米大使館がフランス側の要求して居る休戦條件に對する英國側の回答をヴィシー政府に傳達した。よつて、ヴィシー政府は直ちにその内容を検討したが、その結果英國側の條件を拒否することに決し、同日午後、同じくリール駐佛米大

使を通じて、左の如き拒絶の覺書を英國政府に送つた。

- 一、英國側の回答全文は形式的にも精神的にも佛政府の全く受諾不可能のものである。
- 一、英國側の回答は最初から諒解成立を不可能ならしめる如きものである。
- 一、英國側の回答は英國が佛國委任統治領をその宗主権の下に置く意志のあることを公然と表明して居る。
- 一、佛政府はド・ゴール派の指導者及び裏切者等と交渉することは絶対に不可能と考へて居る。

なほ、右拒絶の回答と共に佛政府は『佛政府は英國側の回答に示された條件について協議することは不可能であると認めたので、シリア軍司令官ダンツ將軍に對し名譽ある軍人として祖國フランスのため善處する様全權を委ねた。』と發表した。また、翌十二日、佛軍當局は英國政府の提示した休戦條件の内容を次の如く發表した。

- 一、シリア領内に在る佛軍武器全部の引渡し
- 一、シリア水域に在る佛軍艦船全部の引渡し乃至收容
- 一、全鐵道、港灣、電話線、無線電信局、貯油所の引渡し
- 一、戰爭繼續中シリア全土の軍事的占領權承認
- 一、在シリア佛軍のド・ゴール軍との交渉権、若し佛軍側が以上條件を承認すれば、英國側は佛將兵に對しその階級並に俸給支拂を保證す
- 一、シリア佛軍の手中に在る英軍俘虜全部の釋放

一、英軍士官捕虜の佛本國に輸送拘禁されたものが全部釋放される迄英國側は同数の佛軍士官捕虜を釋放せず
 右の如く一應佛政府の拒絶により、十二日、ペイルートに於てダンツ佛司令官と英シリア派遣軍司令官ウイルソン將軍との會見が行はれた結果、休戦の軍事的事項のみについて交渉を繼續することとなり、佛政府は『ヴィシー政府は再び英國と休戦交渉を行ふことに決定、十二日午前零時からシリア全線に亙り佛軍は戰鬪行爲を中止した。佛全權は目下英軍陣地に於て休戦協議中である』と發表した。
 斯くて交渉は妥結し十三日、佛政府は『パレスチナのサンダークに於てダンツ將軍により行はれたる交渉は協定に到達し、七月十二日夜署名された』と發表したが、翌十四日、ペタン主席はシリア休戦に關し次の如き二つの布告を發して、佛軍敗北の事實を國民に告げた。

「將兵に對する布告」戦局は苦戦を免れず。力闘數ヶ月にして我々は矛を收めざるを得なかつた。
 「國民に對する布告」無法な侵略のため、又兵力隔絶せる戦ひの犠牲として残念ながら、フランスは近東地方で勢力を失ふことにならう。

右十二日假調印を見た休戦條約は、其の後ダンツ、ウイルソン兩將軍の間に折衝が續けられ、十四日正午に至つてやうやく正式に調印されたが、條約は全文二十二章より成る長文のもので、その主たる條項は左の如くである。

- 一、英軍並にその聯合軍はシリア及レバノンを占領する。

- 一、佛軍は特定地域内に集結される。
- 一、佛軍將士には軍人としての名譽保持が許され、上記特定地域内に赴くに際しては武器、彈藥の携行が許される。但其他の軍需品は一切英軍當局がこれを沒收する。
- 一、佛軍將校は治安が回復するまでシリア、レバノンに駐在してその行政に當る。
- 一、鐵道、通信施設、電氣工場、發電所等は從來の管理人により管理されるが、何等の損害を與へることなく、これを英軍に引渡すこと。
- 一、シリア、レバノン水域に於ける港灣施設並に船舶は凡ての飛行機並に燃料と同様これを英軍に引渡すこと。

第七章 獨英の外交攻勢と各國の動向

一月十七日、チャーチル英首相はグラスゴーに於て左の如き演説を試み、米國の對英援助要望を表明した。

『一、予は現在の危局を容易に脱し得るとは考へてゐない、我々の前途には若し一寸でも油斷すれば重大な結果を齎すやうな危険が横たはつてゐる、恐らく今後幾ヶ月にも亘つて英國の都市や工業地帯は獨機のため反復爆撃を受けるものと覺悟しなければならぬ、而も我々には受けただけの攻撃に對し同等の反撃をする術がない、更に我々が前には受難と苦難がある、併しその最後の結果については予は何等の疑問も持つてはゐない。』

一、現在ルーズヴェルト大統領の特使としてホプキンス前商務長官が英國に來てゐるが我々は一九四一年においては何も海の彼方から大軍の來援するのを希望してはゐない、欲しいのは武器であり船舶であり飛行機である、我々は拂へるものは拂ふのであるが現在我々が要求してゐるものは我々の支拂能力以上のものである、予としては現在英國が維持してゐる文化と進歩の第一線は今後も維持し得るやう民主主義米國が制定しつつある法案の成行に對して深甚なる注意を拂つてゐる。

一、獨軍英本土上陸作戰の可能性は決して忘れてはならない、ヒットラー總統は現在英國をその進路から叩き出すことを最も必要と感じてゐる、彼も既に歐洲の大部分を征服した、併し彼がオーストリー、チェコ、ポーランド、ノルウェー、デンマーク、オランダ、ベルギー、フランスを征服して以來ナチスの信條とドイツの名に對する反感は勃然として昂つて居り、これは今後幾世代も消えることはないであらう。

一、若しヒットラー總統が昨年七月英國上陸は困難であると思つたのならこれは二月にならうが三、四月に至らうが決して容易に成るものではない、彼の對英憎惡が我國に効果を發揮し得ない理由は英國國民の總てが立上つてゐるからであり、英國の全軍隊がその侵入準備の如何なる強行に對しても絶え間なき監視を行つてゐるからであり、我々が數百萬の裝備完全なる軍隊を持つて居りその上、上陸部隊を邀撃してこれを撃破し得る見込みがあるからである、現在我々は未だ半武装國民であるが一九四一年の後半に於ては日を経るに従ひ漸次完全武装の國民となり而してこの時こそ闘ひは對等以上の條件で闘ふことが出来るであらう。』

次で一月三十日ナチス政權八周年記念日に際してヒットラー總統は、對英戰遂行に關する強硬な決

意を表明した演説を行つたが、さらにヒットラー總統はこの演説の中に於て『英國を援助せんとして英國に近づく船は軍艦の護送を受けると否とに拘らず、總て我等に撃沈されることを覺悟せよ』『我等は英國人が現はれる處では到るところに於てこれを撃退する』と述べ、各方面に大きな衝動を與へたことは上述の如くである。(本編第二章、獨英及伊英希の戦況参照)

また、ムッソリーニ伊首相は二月二十二日、ローマに於けるファッシスト黨大會に於て、過去の戦績批判を試み、樞軸陣の強固なることを強調して、英國の獨伊離間宣傳を撃碎したところの左の如き演説を行つた。

『若し我々の準備が完了してゐたならばイタリアは一九三九年九月直ちに参戦してゐたであらう、とはいへ歐洲大陸におけるドイツの赫々たる勝利には優勢なる英軍の勢力を牽制したイタリアの中立が與つて力があつた、フランスの敗北後残る敵は英國一國となつたがイタリアは之に對して最後の一兵まで戦ふであらう、イタリアの戦線は數千キロメートルに及びその戦闘は困難を極めざるを得ない、参戦後四ヶ月間イタリアは敵に猛攻を加へて多大の損害を與へた、當局はリビアの防禦に全力を集中し奇蹟を達成したのである、一九三七年十月から一九四一年一月に至る間イタリアは將校一萬四千名、兵三十五萬六千をリビアに派遣し十個師團を以て構成される第九、第十の二軍團を建設、砲千九百二十四門、最新式機關銃一萬五千三百、砲彈一千百萬發、小銃彈十億三千五百萬發、發動機材料十二萬噸、衣服二萬四千噸、戰車七百七十九臺、輸送トラック一萬臺、自動車五千臺を派遣した、この數字は伊軍の準備が充分完成してゐることを示すものである、同様のことが遠隔の伊領東アフリカ(エチオ

ピアその他)についても云ふことが出来る、兵站補給の望みもないこれ等の地に戦つてゐる伊軍將兵こそ最も賞讃に値するものである。

昨年十一月三大陸から兵力を集結した敵軍は伊軍を攻撃し來り、遂にベンガジを奪取した、我々は彼等のやうに嘘をつかうとは思はない、我々は常に眞實を語る、彼等のやうに麻醉劑を必要としないのである、一つの軍團は潰滅し、又他の飛行軍團が殆んど消滅したが、我々の戦闘精神は益々昂揚してゐる、歐洲大陸における英國の最後の據點はギリシアであつた、我々は全軍勢力を動員して敵の計畫を叩き潰す必要があつた、ギリシアに對する作戦は伊軍總司令官が二日間で決定したものである。

アルバニア戦線における伊軍全將兵は終始勇敢に戦つた、特にアルプス山嶽隊は歴史の頁に英雄的物語を残したものである、伊軍將兵にして敵の捕虜となつた者は約六千名であるが、その大部分は戦傷の結果、捕虜となつたものである、しかし希軍側の損害も亦甚大である、春酣と共にすべては我々に好轉するであらう。

英國はリビアでの六十日間の戦闘に於て戦死者二千を出したのみと稱してゐるが、これは實に稚氣を帯びた欺瞞である、英國はコミニケの數字に少くとも零を一つ加へる必要がある、雷撃機がギリシアの基地より飛出さず英國の航空母艦より飛立ちはじめた以來我々には苦難の日が続いた、併し我々が奮ひ起つた力は特に今次戦争中精神的にも肉體的にも想像に絶するものがある。

戦争が近く終るか永引くかいづれにしても樞軸國の勝利は絶対確實である、予は諸君に英國が勝ち得ぬ理由を説明しよう、第一の理由はイタリアがドイツと手にとつて最後迄前進し續けるといふことである、獨伊の團結を認めようとならない者は皆獨伊の團結が單に政治的軍事的同盟なるのみならず、兩國民の、そして二つの革命の

統合であることを忘れてゐるのだ、ドイツは尨大な量の武器を有してをり、又獨伊兩國の武器の大部分は未だ手つかずに残されてゐる、イタリイは現在迄に百萬の兵を動員してゐる、しかし今年中に若し必要とあらば四百萬の兵を動員し得るのである。

前回の大戰においてドイツは歐洲大陸に孤立してゐた、然るに今回はポルトガル、スペイン及びギリシアを除く他の總ての歐洲諸國はドイツに支配されるか、之と友好的である、經濟封鎖も前回の大戰では非常に威力を發揮したが今回は逆に英國の咽喉元を締上げてゐる、樞軸國民の士氣は旺盛である、勝利を確信してゐるからである、之に反して英國民はハリファックス前外相もいつてゐるやうに他に仕方がないから已むなく戦つてゐるのだ、チャーチル首相はゼノア爆撃によつてイタリイ國民の士氣が挫折するものとの夢を抱いてゐるやうだが、イタリイの士氣がそんなことでぐらつくものではない、英國は今や完全に孤立してゐるが、このことは英國を必然的に米國に近づけしむるものである。

米國の對英援助は成程尨大なるものではある、しかし之等の武器は先づ英國に到着しなければならぬのだ、假令到着するとしても英國はその武器の性能において我々を凌駕することは出来ない、今次大戰におけるイタリイの役割は最大級の重要武器を絶えず増強してゐることである、曩にタラント港で損傷を受けた主力艦二隻は數日を出でずして再び艦隊と行動を共にしてゐる、戰爭終熄の曉ファシスト革命はイタリイの勞働者に對し、彼等が戰爭中に拂つた犠牲に酬いてあらう、イタリイが英國に挑戦した事實は我等の名譽である、國民は歴史の本流に棹さし苦闘敢闘を續ける時に偉大となるのである。

英國が樞軸を打負かす爲には歐洲大陸に上陸しなければならぬ、だがこれは夢物語に過ぎない、次に米國で

は何事が起つてゐるのか、かの國では一切が欺瞞である、先づ第一に米國が民主主義的であるなどは眞赤な嘘だ、數名の銀行家とユダヤ人が寡頭政治を布いてゐるではないか、ローマとベルリンの天才的政治家は斯る精神病院からは喜んで隔離されるであらう、樞軸の軍隊が米國を侵略するといふより火星の軍隊が侵略するといった方が未だ人は之を信用するだらう、予はここに慰安を失つたことを悔む者に對してでなく、眞のイタリイ國民に告げる、國民の現在の犠牲は最後に酬いられるのだ、戰爭終結の時、勝利と正義の平和を歡呼する凱歌は大洋を越えて響き渡り、響き返すであらう。』

さらに、翌々二十四日、ミュンヘンに於けるナチス黨綱領發表二十一年記念祭の席上、ヒットラー總統は上記ムッソリーニ首相の演説と相呼應して、獨伊の關係が理想を同じくした二人の人間の不動の提携であると強調して、英米の獨伊離間の謀略に一矢を酬ひ、對英作戰に言及せる左の如き演説を試みた。

『ナチス黨は其誕生の初めより狹量なる黨第一主義を目的とせず、凡ゆる方面に於て正に壊滅の瀬戸際に瀕してゐた全體としてのドイツ及びドイツ國民に奉仕するを以て立黨の目的とした、當時中産階級及び狹量なる國家主義はマルクス主義に對して生死の闘争を戦ひつつあり國家生活を安定せしむべき何等の希望も存在しなかつた、ドイツはかくして二つの世界に分裂し、麻痺し盡した國家は再建政策を遂行する餘裕すら持ち得なかつたのである、内政、外交兩方面とも何等の統一も存在しなかつた。』

かかる時ナチス黨は國民の唯一の指標、即ちドイツの休戚、全ドイツ國家の利益を目的として闡明し、分立抗

争する無数の諸黨派の利己主義的利益に對抗して立つたのである、吾黨はまた當時のドイツ外交政策上の情勢に對しても抗争しなくてはならなかつた、吾々は勿論ヴェルサイユ體制によるドイツを以て屈辱此上なきものと解し、ドイツ壊滅を目的としてかの條約を作成した吾等の敵に對しての戦闘を開始した、かの條約は當時分立抗争しつゝあつた小政黨の微弱な力をもつてしては、敵をして修正に同意せしめる事は不可能であつた、只全ドイツ國民の團結の力のみがこれをよくなし得たのである。

ナチス黨の敵は合理的な吾等の主張に耳を藉すことを拒絶し、遂に武器に訴へるに至つたので吾等も亦武器をとつて立たなくてはならなかつた、この闘争は凡ゆる抵抗を乗越え、遂に屈服することを知らざる一大精神をドイツ國民に植付けるに至つた、世界はドイツのこの再生の奇蹟を把握出来なかつたと同時に歐洲における二個の偉大なる革命の間に存する友情をも亦理解しようとしなかつた。

吾々はこの冬季徒らに情眼を食つてゐたわけではなく、予が丁度二時間前に受取つた報告はこれを實證してゐる、併し吾等の敵はこれをも亦理解出来なからう、右報告によれば過去二日間に於て二十一萬五千噸の英汽船は吾等の手によつて撃沈され、而もその内十二萬五千噸は護送商船だつた、併し以上の數字は來るべき三、四月に正に吾等の實現せんとしつゝある數字に比すれば物の數ではない、吾等は又單に海上においてのみならず、大英國の敗る日凡ゆる分野に於て驚異的事實を實現せしめるであらう。

英國は敗れる、何故ならばドイツはその生命圏を必要とするが故である、吾人ナチス黨は全國民の福祉のために献身しつゝあるに反して、彼等は少數の國際的資本家の繁榮のために働きつゝあるが故である、ドイツは最大級に重要な經濟的因子である、ドイツは外國の株式市場に考慮を拂ひ、これに類はされる事なく、將來を遠觀

し得る、ドイツ商工業の目的は徹頭徹尾ドイツ國家に奉仕することである、この目的を達するため予は可能の最大限にまでドイツを強力にした。

かくて強力なるドイツが實現した時、英國及びフランスは予と交渉する事を斷乎として拒絶し予をしてドイツをなほより以上に強力にせしめる決意をさせた、ドイツの防衛力は、ドイツの將來を保障する、ドイツにおいては國民、國軍、國家、黨は單一體でありドイツに革命が勃發すると囁きつづける敵國の如き笑止至極といはざるを得ない、ドイツの指導力は過去に比を絶する程強力で、その國內戦線は今日より強力だつたことはない、かくて吾人ナチス黨は吾等の主張の正しいことを確信し勇敢に闘争の新春を迎へんとしてゐる、この最後の闘争の成功は必然であり、ナチス黨が發展生長の過程に經驗した苦惱に比すれば易々たるものであらう、今やドイツ國民は命令一下すれば直ちに進軍を開始するであらう。』

斯くて、三月に入りユーゴスラヴィアのクーデターに端を發し、遂に四月、ドイツ軍のユーゴスラヴィア及びギリシア進撃となり、こゝに全バルカンは樞軸の勢力下に歸するに至つたが、さらに次いで五月英軍のイラク侵入となり、續いて六月、シリアに於ける英佛の開戦を見るに至つたのであるが、この間に於て、大西洋及び地中海に於ける樞軸側の對英通商破壊戦は日を追ふて激化し、英國船舶の喪失量は、四月末に於て六百萬噸を超え、最近の三ヶ月間の損失は毎日五十萬噸を上下するに至り、英米當局も事態を重大視し、米國の對英援助が深刻に考慮されつゝある折から、五月二十四日獨海軍總司令官レーダー元帥は、新聞記者との會見に於て、左の如き質問應答を行つたが、大膽率直

なる談話は、ルーズヴェルト大統領の爐邊談話の放送直前に行はれたものであつたから、所謂リーダー警告として英米側に大きな反響を起したのであつた。(ルーズヴェルト大統領の爐邊談話の放送は五月十四日に行はるゝ豫定であつたが種々なる理由から二十七日に延期された)

【問】閣下は對英援助に關する米國內の異常に活潑な論争に就いては逐一これを研究されてゐることと思ふ。この論争は第一にどうすれば米國の援助によつて英國向けの軍需品を安全に英本土なりその他各方面の戰場に送り届けることができるか。第二にどうすれば米國の援助によつて現在恐るべき數字に達してゐる英軍艦商船の撃沈噸数を減らすことができるかと云ふ問題を中心に展開されて居る。將來この問題から發生すべき様々の結果についての獨海軍當局の考へ如何。

【答】獨海軍當局は問題は極めて重大であると考へてゐる。ことに、米國言論界ばかりでなく米政府當局者が從來この問題について言明してゐるところから判断して、米國がこれまでとつて來た方策が明かに國際法違反の侵略的性質を帯びてゐることは勿論、彼らが今後とるべしと主張してゐる方策に至つては、その國際法違反の侵略的性質について一點の疑ひもないのであるから、獨海軍當局が事態を重大と考へてゐることは當然であらう。多少とも自分の言説に責任を感じる近代戰の専門家なら廣漠たる海洋を越えて攻撃を行ふことが全く不可能であることを承知してゐる筈である。それにも拘らず米國が、ドイツに侵略的意圖があると誣ひるのは、これによつて自分自身の侵略的計畫と他國の事態に干渉容喙せんとする意志とを正當化するため、自己を欺瞞して故意にこれを行つてゐると斷ずる他はない。この場合戰爭挑發者共が氣に病んでゐるのは、ドイツの侵略で

はなく自分達の希望する衝突を惹起することに失敗するかも知れないといふ懸念なのである。しかもなほ、かかる衝突を挑發するため彼等は中立と侵略と戰爭との境界線を抹殺し、次々と國際法違反行爲を取ることによつて、所謂「戰爭に至らない程度」のあらゆる行爲の「限」を擴張すべく如何なる處断をも辭さない勢ひである。

【問】閣下のいはれるのは確實に大西洋方面の英國向け軍需品を輸送するため米國海軍乃至空軍の所謂哨戒活動を擴張せんとする種々の提案や或は衝突を挑發することを目的に何らかの形で護送船團を組織しようとする歩調のことであるか。

【答】この二つの方策は共に政府の最も責任ある地位の者が極めて明瞭に主張要求してゐるところで我々としてもこれに對する萬全の備へをすると共に前以てこれが責任の所在を明かにしなければならぬが同時に又ここで重ねて嚴重な警告を發しなければならぬ。商船護送制に關しては余はここで單に「商船護送制は發砲を意味する」とのルーズヴェルト大統領の見解を確認するに止めよう。護送商船によつて輸送される積荷の性質が米國自身の告白で始めから戰時禁制品であることが明かだとすれば、この種の商船護送制を取つて行ふことは米國自身が調印國として參加してゐる國際諸條約の規定する中立護送ではなく、公然たる戰爭行爲であり、挑發せられざる露骨な攻撃であると云はねばなるまい。従つてこの場合、獨海軍は海戰法規の諸規定によつて戰時禁制品を積載してゐるこれらの船舶に對し凡ゆる措置を講ずる権利があるわけで、この権利の遂行を妨害する者に對しては、たとへそれが米國軍艦であつても必要の場合には武器を以つてこれを排除せねばならぬことになるだらう。所謂哨戒制について云へばそれが侵略的性質を帯びてゐることは現在既に明かである。

ドイツが米國を脅かす危険は全然有り得ないことであり、哨戒制は現に敵國たる英國を事實上支援する結果になつてゐるのであるから、この制度を更に擴張することに對しては緊急に警告を發せざるを得ない。哨戒制は既に明かな如く米國の防禦的安全確保の目的に役立つものではなく、むしろ英國船に對する諜報機關の役割を演じてゐる。コロンブスを始め多數の獨商船が既にこの哨戒制の犠牲になつた。この場合獨軍艦の艦長にしてその艦の所在が米國軍艦によつて敵に逐一通報されるのを聴取傍觀してゐるものが一人でもあるとは考へられない。殊に獨軍艦の任務遂行を妨害する許りかこの諜報によつて獨軍艦を乗組員諸共撃沈するため英國兵力が集結するまで獨軍艦がこれを坐視できないのは當然であらう。

この場合獨軍艦は商船護送制の場合と同じく積極的な戰爭行為に直面してゐるのであり、一般に認められた戰爭法規に従つて問題の艦船に對し敵對行為の中止を要求する権利があり、更に必要な場合には武力をもつて敵對行為の中止を強制する権利がある。余はこの機會に更に中立國艦船航行の問題にも觸れたいと思ふ。中立國の商船に對しては既に以前から消燈したまま航行せざる様警告を發してゐる。消燈して航行する場合には敵軍艦と見做される恐れがあり、従つて直接攻撃に曝される危険があるからである。このことは中立國軍艦に關して特に明かである。現代の戰爭技術の發展段階にあつては消燈した艦船に對しては直ちに自ら發砲することが、自分自身の安全のために必要である。それにもかかはらず消燈したまま航行する艦船がありとすればそれは何らか外部に對して隱蔽すべきものを持つてゐる證據であり、よからぬ企みを抱くものとして無警告攻撃を受けることを覺悟せねばならない。

かかる國際法並に現實の事態を明かに認識しながら進んで危地に赴くのは自ら開ひを挑むものといはねばならぬ。戦争が米國に波及して來る恐れがないので米國の戰爭業者共は逆に戰爭を追うて數千哩を進み、米大陸海岸から遙に離れた遠方に危険を求めてゐる。かくして彼等は米國自身が脅威を受けてゐると感き立て、自分達の希望する衝突を惹き起さうとしてゐるのだ。しかし獨海軍はかかる行動によつて自己の任務遂行が妨害されるのを斷じて許さないであらう。而してかくて遂に紛争が惹き起されたとしてもその責任はドイツの警告を無視した許りでなく更に米國民多數の意志をも蹂躪して發砲の行はれる場所に意識的に進んで行つた戰爭挑発者共が擧げてこれを負ふべきものである。』

右、レーダー元帥の警告發表と同うして、五月二十四日から二十六日に亙り、グリーンランド沖に於て獨英海戦が行はれ、先づ二十四日、英國で最大と誇る四萬二百噸の巨大主力艦フッドは獨新銳戰艦ビスマルク（三萬五千噸）によつて撃沈されたが、英軍は二十六日に至り、キングジョージ（三萬五千噸）の他に急遽増援されたロドネー（三萬三千九百五十噸）プリンス・オブ・ウェルズ（三萬五千噸）リナウン（三萬二千噸）の三戰艦及び航空母艦アーク・ロイアル（二萬二千噸）以下驅逐艦等十六隻を以てビスマルクを包圍し、遂にこれを撃沈したのであつたが、この海戦は開戦劈頭に於けるモンテビデオ沖海戦に勝る激戦で、開戦以來の大海戦であつた。

なほ、五月十日、ヒットラー總統の後繼者と指定され、ナチス黨内に於て重要な地位にあるヘス副總理が、突如として英本土に飛行した事件が勃發して、全世界に異常な大衝動を與へた。即ち、十二

日、英國首相官邸より、ヘス副總理の着陸前後の事情に關して次の如くに發表した。

「一、十日夜メツサーシユミット機一機が、スコットランド海岸を横切りグラスゴー方面に飛去つたとの報告があつた。

一、その後メツサーシユミット機はグラスゴー附近で墜落したが、暫くして落下傘をつけ蹠を挫傷せる一ドイツ將校を現場附近で發見した。

一、右將校は直ちにグラスゴーの病院に運ばれた、初めはホーンと自稱してゐたが後刻自分はルドルフ・ヘスであると語つた。

一、ヘス副總理は彼の身分を證明する種々の寫眞を身につけてゐた。

一、その寫眞によりヘス副總理を個人的に熟知せる數名の者も右將校がヘス副總理なることを確認、英外務省は戦前ヘス副總理と親交のあつた外交官（元駐獨英大使館一等書記官カークパトリック氏）を即刻病院に派遣することになつた、なほ同病院醫師は足部の加療後更に慎重に診察した結果、ヘス副總理は多少精神に異常を來してゐることを確認した。」

また、ドイツ側に於ても同じく十二日、ヘス副總理の失踪に關して、左の如くにナチス黨本部より發表された。

「黨員ルドルフ・ヘス氏は十日その操縦飛行機が墜落、恐らく惨死したものと見られる、ヘス氏は長年病氣のためヒットラー總統より飛行機操縦を嚴重に禁止されてゐたが、最近一飛行機を入手、十日午後六時禁令に反し

てこの飛行機で飛出した儘本日まで消息を斷つてゐる、遺書により精神錯亂の形跡あり、その犠牲となつたものと認められる、ヒットラー總統は直ちに禁令を知つて之を阻止しなかつた副官の逮捕方を命じた」

なほ、翌十三日、ナチス黨本部は重ねて左の如き發表を行つた。

「ヘス副總理失踪の事情は十二日の黨發表によりて完全に明瞭で、この上調査する必要もなく、況んや事件を何等か他の關連において揣摩臆測することは絶対に出来ない、ヘス副總理が精神的に重態であつたことは可成り以前から知られてをり、ヒットラー總統が自己の後繼者として當然ヘス副總理を指名すべきにかかはらず、ゲーリング空相を第一候補者としたことも、ヒットラー總統が當時よりヘス副總理の病狀を知つてゐたからである、ヘス副總理の残した書簡により一切の事情が判明したが、その内容は言明出来ぬ、ただ黨部發表にある如くその精神錯亂即ち誇大妄想は全くの重症といふ外はなく近來は睡眠不足に悩み星占等に凝つてゐた事實もヘス副總理の精神状態を裏書するものである、但し秘密警察に對する恐怖感等は全くなく、これが失踪の原因であつたなどとの想像は根據がない、ヘス副總理が夫人子供を残してこの舉に出たため家族や大きく言へばドイツ國民に對し大悲劇を作ることになつたが、それは致し方がない、繰返して言ふが、本事件は全くヘス副總理個人の病氣に基いて起つたもので、政治問題と絶対に關係を持たぬ、ここにはつきりと言明する、英米始め外國筋では本件をとらへて、ナチス黨内の内紛等と常套的なデマを撒布するであらうが、本事件が外國筋で希望を混へて揣摩臆測してゐるが如き影響をドイツ今後の内政、外交に齎すことは絶対にあり得ない」

さらに獨政府は、右ヘス副總理の遺書について十四日左の如くに發表した。

『遺書は活潑多様なもので様々な人に宛てられてゐる、しかしそれらは救世主をもつて自任する傲岸な個人的企圖によつて二大ゲルマン國家、すなはち獨英兩國の協力を成就せんとするものである、ヘス氏は明かに戦争停止と和平を英國に勧告出来るとの幻想に囚はれたものらしく、この勧告の理由は今次の戦争がただ一つの結果即ち二大ゲルマン國家の中の一つ、この場合には英國の破滅を齎すのみであることを指摘してゐる、この際ドイツとしては英國がヘスをして平常状態の下にあつては口にもすまじきことを述べさせる如き手段を用ひないことを望む、ヘス氏はハミルトン公を正義の人と信じ、同氏に會見しようとしたのであつて、チャーチル首相と會談しようとしたのではなかつた、ヘス氏は理想主義者であり立派なドイツ人であるばかりでなく國家社會主義者である、従つてヘス氏はドイツに關して不利な言を述べようとしなしいし述べることもないだらう、英國はヘス氏を取扱ふに際しておそらく士道を辨へぬ行動に出ることであらう。

ヘス氏は和平を齎らし得るとの幻想によつてのみ行動したのであつてドイツの敵として行動したのではない、彼が落下傘で飛び降り飛行機を破壊して秘密漏洩を阻止したといふ事實がその證左である、戦争は第一に一國あるひは二國の破壊、即ち英國の破壊を結果するだけであるだらうからだ、ヘス事件の悲劇と不快にもかかはらず戦争遂行に關するドイツの決意は微動もするものではない、ドイツの統一も影響されることはない、この事件は英國に宣傳材料を提供はするが、これも一時的のものである、ここ數週間内に英國及びその傀儡はヘス事件よりもさらに重要な、あるものに遭遇し、それで手一杯となることであらう、結局ヘスは彼の個人的努力によつてドイツ民族に平和と勝利の可及的最大の贈物を齎らさうとしたのである』

【註】ヘス副總理が會見したと傳へられるハミルトン公は、スコットランド第一の名家、ハミルトン家の第十四

代の當主、一九〇三年生れで三十八歳、飛行將校、一九三三年ヒューストン・エヴェレスト探險飛行に隊長となり、エヴェレスト頂上空を飛行、その周囲の寫眞撮影、測量等に成功した、一九三六年ベルリン・オリンピックでヘス副總理と知りあひになつた、もとクライデスデール侯と呼ばれてゐたが昨年父の死去とともにハミルトン公となつたと謂はれて居る。

このヘス事件が勃發するやヒットラー總統は十二日附總統令を以て、從來の總統代理事務所を黨官房と改稱し幕僚長たりし全國黨指揮者マルティン・ボルマンを官房長に任命し、黨官房は總統に直屬し、ヘス副總理なき後名實共に副總理（總統代理）制を廢止したが、獨外務省は十四日『ヘス副總理は英國の實情を解せず、自己の錯覺に基き、一足飛びに政策を實行せんとしたもので、勿論同氏の行動により、ドイツの對外政策は寸毫も影響を受けるものではない』との聲明を發表し、十六日にはナチス黨本部のスポークスマンが『ドイツの關する限りヘス事件は終了した。我々は最早ヘス氏とは何の關りもない』と聲明して、ヘス事件を打ち切つたのであつた。

一方、英國側は、この事件を頻りに宣傳に利用すべく、十二日の發表に引續き十三日には、『醫師の診察の結果ヘス氏は身心共に健全である』とか、また『ヘス氏は捕虜として待遇、面會は何人にも許可されない』とか、或は『ヘス氏はグラスゴー病院より他の場所に移し加療中であるが、所在は發表し得ない』等の發表を行ひ、放送等を通じて盛んに對獨宣傳を試みた。また、ハミルトン公との會見も二

回に互つて行はれ、その結果チャーチル首相、クーパー宣傳相等に報告され、英國政府として、この事件に關して何等かの發表を行ふであらうとの説も行はれたが、二十日、チャーチル首相は下院に於て『ヘス事件は未だ發表の時期に立ち到つて居ない。また、何時になれば發表出来るかも今のところ判らない』と報告して以來、英國側に於ても一切沈黙を守つて居るので、このヘス事件の真相は今日に於ても未だに不明とされて居る。

一方、獨蘇の關係に關しては前年末より種々なる風説が傳へられて居たが、一月十日、左の三個の協定がモスクワに於て調印されたことが獨蘇兩國に於て發表された。

經濟協定 昨年十月以來モスクワに於て蘇聯側ミコヤン外國貿易人民委員と獨側シュヌーレ經濟使節團長との間に交渉が進められてゐたもので、新協定は一九三九年二月に締結された獨蘇通商協定に基き一九四二年八月一日に至る迄の兩國通商を規定、從來の協定に比し輸出入數量の飛躍的増大を規定してゐる、新協定に依つてドイツは蘇聯に對し機械類を、蘇聯からは工業原料品、石油製品、食糧品（主に穀物）を供給せんとするものである。

獨蘇國境協定 モロトフ外務人民委員とシュニレンブルク駐蘇獨大使との間に調印された本協定はバルト海からイゴルカ河に至る兩國國境を劃定するものである、獨蘇の新國境線を管てのリトアニア、ポーランド間の國境及び一九二八年一月二十九日及び一九三九年三月二十二日の二回に亘るドイツ、リトアニア間の國境協定に従つて規定するものである。

住民交換協定 過般來リガ及びコヴノに於て獨蘇兩國間代表に依つて協議が進められてゐたもので、リトアニア、ラトヴィア、エストニア三國に居住するドイツ人をドイツ側に轉住せしめドイツ側に住むロシア人及びバルト三國人を夫々その故國に移轉せしめる目的を持ち、新協定に依つて移住を希望するこれ等國民を調印後二ヶ月半以内に交換することになつてゐる。

右の三協定は獨蘇間に介在せる諸懸案を解決し、兩國の協力を一層緊密化したものとして、各方面に大なる反響を起したものであつた。これについて獨政府機關通信DNBは、十日左の如き説明を發表した。

『今回の通商協定は獨蘇兩國間にかつて結ばれたいかなる經濟協定よりも重要なものである、この通商協定により規定された獨蘇兩國間の貿易額は數十億ライヒスマルクに上る、最も主要なことはこれにより多量の穀物がドイツに入つて來ること、かかる大量穀物の取引を規定した協定は今回の協定をもつて嚆矢とする、蘇聯の穀物が豐作で本年の收穫豫想が七十億ブード（一ブードは十六キロ）に達したことが右の取引を可能にしたものである、また鑛油、石油、棉花も多量に輸入されることにならう、蘇聯からかかる輸出に對してドイツは各種の機械類を輸出すべく、その種類は従前よりも増加されてゐる、要するに新貿易協定はドイツの戰爭能力を強化するものである。』

また、蘇聯側に於ても政府の機關紙イズヴエスチャは『獨蘇友好關係の發展』と題する左の如き論説を十日の紙上に掲げた。

「獨蘇兩國は最近ますます友好と相互理解の度を深めてゐるが、昨秋モロトフ外相のベルリン訪問は、兩國友好關係にさらに劃期的進展を見せ、遂に經濟協定の締結となつた、英米一部の政治家は米國が英國に軍艦まで賣り渡しても、米國の國際法遵守と中立維持には何も支障はないが、蘇聯がドイツに穀物を賣ることは平和政策の破壊だと考へてゐる、しかしかかる國際法及び中立に關する勝手極まる解釋は單に政策的示威にすぎぬ、今回の經濟協定は獨蘇兩國—歐洲における二つの最強國—の平和友好關係を強化する最も有效な手段である。」

次で、二月十二日、フランコ西統領はスネル外相を帶同、イタリア領リヴィエラに於てムッソリーニ伊首相と會談したが、スペイン政府は『現下の歴史的瞬間に於て兩國と關係ある凡ゆる歐洲問題につき協議した結果、完全なる意見の一致を見た』と發表した。越えて二十三日、フランコ統領はフランス領モンペリエに於てペタン佛主席と會談したが、この會談にはスネル西外相及びダルラン佛副主席及びビエトリ駐西佛大使、レケリカ駐佛西大使が參加した。

このフランコ西統領のムッソリーニ伊首相及びペタン佛主席との會談は、大戰以來、一部外交界に流布されつゝあつたラテン民族の協調、即ちイタリア、スペイン、フランス三國の聯繫強化と何等かの關係を持つものとして注目されるものであるが、同時に、樞軸陣營内に於ける諸國關係の緊密化を意味するものであつた。

一方、英國に於ては、前年十二月五日の英土通商協定の締結に引續き、近東軍代表マーシアル・コ

ーンウォール中將を主班とする軍事使節團をトルコに送り、一月十三日よりアンカラに於てチアクマク土參謀總長司會の下に英地中海艦隊代表ハワードロイ・ケリー大將、英近東空軍代表エルムハースト以下英土兩軍の首腦者を集めて協議し、さらに十七日にはサラジョグル土外相、ヒューゲッセン英駐土大使、クロムウエル中將等を加へて重ねて協議するところがあつたが、この會議は、一月十二日トルコ政府の責任ある大將が、米國UP通信記者に對して、若しもドイツ軍がブルガリアに進駐する場合に、トルコはドイツに對して宣戰を布告するとの重大言明を行つたと傳へられた直後のことであつたから、相當樞軸側の關心を集めたのであつた。

また、二月二十日より二週間の豫定を以てエジプトを訪問しつゝあつたイーデン英外相及びチル參謀總長は急遽豫定を變更して二十六日空路アンカラに到着し、トルコの政軍首腦部の他に、マクマレール駐土米大使、モスクワから急行したクリップス駐蘇英大使及び駐土ギリシア公使等を加へて會談したが、この會談も、二月二十三日、サラジョグル土外相が勃土不可侵協定及び英土相互援助條約について重大聲明を發表した直後のことであつたから、大いに注目された。(本編第三章、バルカンに於ける獨英蘇の外交攻勢參照)

なほ、イーデン外相一行は、二十八日、一旦カイロに歸還し、三月二日、アテネに飛行し、ゲオルギオス希臘王を初めコリジス首相、パボス希臘軍最高司令官以下希臘政軍首腦部及びマツクヴェー駐希

米公使、アカヤエン駐希土大使と會談を遂げ、五日再びカイロに歸還したが、爾來カイロに滞在しユーゴスラヴィア問題の進展に即應して、アテネ或はベルグラードに現はれ、盛んに反獨工作を行つたことは前述の如くであり、(本編第四章、獨ユ關係遂に爆發参照)また、獨佛協力問題を繞る獨英米の外交戦は次章に述べるが如くである。

バルカン戦争に於て全バルカンより英國勢力を完全に驅逐し得たドイツは、次で經濟工作を積極化し、五月十九日よりブカレストに於てルーマニアとの通商協定を擴充すべき交渉を進め、二十九日を以て獨代表クロデー・シユラー公使とルーマニア代表デイミトリツクとの間に新協定の調印を見たが、なほ、續いて、トルコとの間にも同三十日、物資交換協定を調印し、さらに、六月十八日、アンカラに於てパーベン駐土獨大使とサラジヨグル土外相との間に、左の如き獨土友好條約を調印すると共に兩國間の經濟關係に關する覺書を交換した。

獨土友好不可侵條約 ドイツ國並トルコ共和國は兩國間現存の義務を存續し、兩國國交關係を相互の信頼と眞摯なる友好精神の基礎の上におかむことを切望し、茲に條約を締結するに決した。此の目的の爲め兩國の全權委員としてドイツ國總統はフランツ・フォン・パーベン大使を、トルコ共和國大統領はスクル・サラジヨグル外務大臣を夫々任命、兩全權は各々その與へられたる權限に基づき次の條項を取極めるに一致した。

第一條 ドイツ國並トルコ共和國はその領土の保全及不可侵を尊重し且つ締約國の他の一方に對し直接又は間

接に以上の目的に反する行爲に出でざることを相互に保障す。

第二條 ドイツ國並トルコ共和國は相互の利益に關するすべての問題に關して爾今友好的接觸を保ち、これら諸問題の處理に關し相互の諒解を得るに努むべきことを約す。

第三條 前記條約は批准を経たる上批准書は速かにベルリンに於て交換せらる可し、本條約は署名の日より效力を生じ且つその有効期間は十箇年とす。

締約國は本條約延長の問題に關し時日を定めて相會し意見の交換を行ふべし。

獨土兩國政府交換覺書 本日獨土條約の締結せられたるを祝し、本全權は閣下に對し次の通告を爲すの光榮を有す、即ち我が政府は獨土兩國間の經濟關係増進が兩國の經濟機構上可能性あるに鑑み且つ今次大戰勃發以來兩國の利益に關する幾多の體驗を基として可及的にこれが實現を圖らんとするの用意を有す、兩國政府は近く本條約實現の爲め細目協定の商議に入らんとす。

この獨土條約の成立は、遂にトルコを英國の陣營から引き離し、英國を孤立させたものであり、バルカン作戦と併記さるべきドイツ外交の勝利と見られたが、これに關しイタリア外務省は同日左の如き見解を發表した。

「獨土友好條約は去る十五日ヴェネチアにおいてクロアチアの三國同盟參加調印の日リツベントロツプ獨外相よりチアノ伊外相に對し豫め通告すみのものであり、イタリアは非常なる満足をもつてこれを迎へてゐる。他方トルコの地理的位置をみるならば獨土友好條約の成立は單に歐洲における平和確立に邁進するドイツの外交的勝利

であるのみならず、近東に新秩序を建設するための鞏固な據點を構成することになった點が注目される。つぎに獨土友好條約の齎すべき最も重要な結果は、ただに獨土兩國の友好的な協力のみにでなく、戦略的見地からみてドイツがこの友好條約をいかに適用するかに今後の戦局の大勢がかかつてゐることである。ドイツがトルコにおいて新しく獲得した地位は、イラクおよびシリアを支ふべき大きな支柱を構成するものであり、特に樞軸海軍のエーゲ海制壓を容易ならしめることにならう。そしてこれはさらにエジプト特にスエズ運河附近に集結されてゐる英軍を脅威することにならう。さらにまた、現在極めて微妙な態度を持してゐるソ聯に對してこの獨土友好條約は一種の壓力を加へることとなる點で極めて重要な意義を持つものである。』

ユーゴスラヴィア及びギリシアに對する戦争に大勝を得て、全バルカンを完全に支配するに到れる獨伊は、愈々結盟を固くして、歐洲新秩序の建設に邁進すべく決意を固めたが、兩國は政治的のみならず經濟的にも強固なる協力を爲すために、既に、二月二十六日、兩國は戦争繼續期間中と雖も軍需資材として必要な物資に關する限り貿易乃至は補償條件を度外して資材の相互交流を促進すべきことを内容とする獨伊戦時通商協定を締結し、兩國戦時經濟の一體化を圖つて經濟態勢を整へて、バルカン戦争に臨み、兩國の共同作戰が輝しき勝利を得たのであつた。斯くて、ギリシア戦線に於けるクレタ作戰の勝利が發表された六月二日、ヒットラー總統とムツソリーニ首相とはブレンネル特に於て五時間に亘る會談を行ひ、バルカン戦後に於ける全般の情勢を検討し、今後の作戰を協議したのであつたが、獨伊の意氣まさに衝天、六月十八日、米國に對して資金凍結を斷行して報復し、強硬なる

決意を示した。

また、四月十日を以て獨立せるクロアチアは、六月十五日、日獨伊三國同盟條約に参加し、こゝに樞軸陣營の一勢力として重要な地位を占めることとなつたが、ドイツとの間には五月十四日、首都アグラム(ザグレブ)に於てバヴェリツチ主席とカツシエ獨大使とによつて國境劃定條約が調印され、クロアチアとドイツとの國境線はこの條約により、大體に於て舊オーストリアのクライン及びシユタイヤーマルク(スチリア)の兩地方とクロアチア、マロヴォニア、ダルマチアの舊國境を以て規定された。次で同十八日、ローマに於てムツソリーニ首相とバヴェリツチ主席との間に左記の如き國境條約を初め、クロアチアの獨立の保障、協力等に關する協定が調印され、イタリアとクロアチアとの新しき關係が決定されたのであつた。

一、國境劃定條約

(イ) 本條約に依り本來のダルマチアはイタリア國たるべし、即ちザラ、サベニコ、トラウ、スバラトの諸市を含むザラの地方

(ロ) バゴ、ブラツツア、レチナ以外の舊ユーゴスラヴィヤ領たりしダルマチア沿岸の島嶼

(ハ) モンテネグロとの國境に至る全ボツケ・デイ・カタロ地方

新國境は伊ク兩國代表より成る委員會に於て兩國相互の必要を考慮し現地に於て速に決定せらるべし

本條約は署名後直に效力を發生す

二、アドリア地方軍事問題に關する協定

(イ) クロアチア政府は本協定附屬地圖に指定せられたるアドリア海全面の地域に於ける陸、海、空の如何なる軍事施設乃至軍事基地をも作成乃至維持せず

(ロ) 海軍を建設する意圖を有せず

三、保障及協力に關する條約及最終議定書

(イ) 伊太利國は新クロアチア國の獨立及領土保全を保障す

(ロ) クロアチア政府は右保障乃至伊國との諸條約に反する如き國際協定を爲すことなし

(ハ) クロアチア軍の組織は伊太利軍の協力に依る

(ニ) 伊ク兩國政府は關稅、爲替、陸、海、交通、兩國民の居住及文化に關する諸協定を締結すべし

(ホ) 本條約の有効期間は二十五年なり

四、スバート地方及キユルソラ港の行政組織に關する交換公文

五、最終議定書

舊ユーゴスラヴィア國の締結せる諸協定は新協定の發效に至る迄有效たるべし

バルカン戦争の勃發は蘇聯に取つては極めて微妙な問題であつた。従つて蘇聯の動向は各國の注目を集めたのであつたが、蘇聯最高會議幹部會は五月六日、スターリン黨書記長を人民委員會議長に

任命し、従來同議長たりしモロトフを同副議長兼外務人民委員に任命することを決定し、翌七日左の如く發表した。

一、モロトフ人民委員會議長兼外務人民委員はこれまで屢次に亘り兩要職を兼任することが困難なる旨言明してゐるので、幹部會は今回その要求を容れ人民委員會議長の職を解くに決した。

二、スターリン黨書記長をその後任として人民委員會議長に任命する。

三、モロトフ外務人民委員を人民委員會副議長に任命する。

斯くの如く二十年に亘つて専ら裏面にのみ在つて蘇聯政治の實權を握つて來たスターリンが、突如として覆面を脱して第一線に立ち現はれたことは、何事か今後に於ける蘇聯の動向を示唆する歴史的な事件として各方面に大きな衝動を與へたのであつた。

斯くてスターリン陣頭指揮下の蘇聯外交は、先づ五月九日、ベルギー、ノルウェー、ユーゴスラヴィアの三公使に對して、母國の主權喪失を理由として爾後信任狀無効を通告し、公使館の閉鎖を要求したが、これは獨蘇間の新たな諒解を示すものであり、スターリン議長が、ドイツ軍バルカン進撃以來種々なる風説が行はれて居る獨蘇關係の調整に乗り出したものと見られた。

次で上述の如く英國との戦争最中のイラクに對して五月十二日國交開始を發表し、さらに六月三日ギリシアに對しても、ユーゴスラヴィアと同様、公使の退去を要求したが、これ等は何れもスター

リン議長の反英、親獨政策の片鱗として注目された。

一方、英國は、歐洲各戦線に於ける相次ぐ敗北と、樞軸側の通商破壊戦による打撃とにより、情勢は愈々苦境に陥りつゝあるので、米國の援助の強化を促すべく狂奔すると共に、さらに一步を進めて参戦へと誘ふべく猛烈なる謀略を行つたのであつた。

即ち三月十八日、新任のワイナント駐英米大使の着任歓迎がビルグリムス協會に於て行はれた席上チャーチル首相は、米國の援助強化を要請せる左の如き演説を行つたが、この演説は、ハリファツクス駐米英大使が前日、ルーズヴェルト大統領に對して警告した獨潜水艦が米國近海に向けて航行中であるとの同一情報を重ねて利用したものであり、以てその意圖を推測することが出来やう。

『予は英國國民に代つてルーズヴェルト大統領に深甚の謝意を表する、我々が多くの缺陷を持つてゐることは事實であるがしかも最大の危機に際しても我々は存続繁榮する偉大なる力を保有してゐる、ルーズヴェルト大統領の言葉と行動は我々が最早獨りぼつちで戦つてゐるのではないと勇氣づけてゐる、今や大西洋の彼方で強大な手が我々の爲にハンマーを揮ひ武器を鍛へてゐる、この米朝野の努力を水泡に歸せしめない爲には我々は大西洋上における戦闘に決定的勝利を得なければならぬ。』

ドイツの潜水艦のみならず巡洋戦艦は今や大西洋を横斷し既に護送船團に洩れた我船舶を撃沈してゐる、彼等は西太平洋、即ち西經四十二度より遙かに西方において船舶を撃沈してゐるのである、米國からの陸續たる武器と食糧の流れに對して今や假借なき敵の闘争が展開されんとしてゐる、だが我々は、この武器と食糧の流れなく

しては本土においても近東に於ても戦争を繼續することが出来ない、目下のところでは我々の損失は極めて大きい、だが我々は資材と技術と科學の全力を擧げてこの危険な敵の挑戦に對處して居り我々の對抗力は週毎に強化されてゐる、昨夏米國から護渡された五十隻の驅逐艦は有効にその任務を果して居り我々自身の艦隊勢力もその數を加へつつある、又我々空軍勢力も本土海上とも急速に増強されてゐる。

昨日も予は敵潜水艦三隻が撃沈されたとの情報を受取つた、我々は必ずやこの危局を乗り越えるであらう、だがしかしヒットラー總統にとつては海上輸送路を遮斷して英米兩國を切離しこれを各個に撃破せんとする企圖は極めて眞剣必死である、かるが故に、大西洋の戦闘は戦史上嘗て見ざる程度に決死的意義を持つものとなるであらう、ワイナント大使閣下、貴下は我々とその危険、利害、機密を領ち合ふであらう、而して英米兩國が峻厳なしかし輝かしい共同任務を領ち合つて勝利の榮冠を贏ち得る日が到來するであらう。』

斯くて、ユーゴー及びギリシア戦線に於て英軍が慘澹たる敗北を喫するや、この責任問題を契機として内閣の改造が不可避と見られたが、チャーチル首相は五月一日、左の如く閣僚の入れ替へを發表した。(括弧内は舊職)

無任所相 ビーヴァーブルック卿(飛行機製作相)

飛行機製作相 ジョン・ムーア・ブラバゾン中佐(運輸相)

船舶・運輸相 フレデリック・J・レザリス(英船舶業者)

濠洲高等辨務官 ロナルド・クロス(海運相)

運輸省次官 J・J・シゲエリン大佐（飛行機製作省次官）

飛行機製作省次官 フレッド・モンダーギユ（運輸省次官）

次で、ユーゴー、ギリシア兩戦争の經過報告を機會に政府の信任投票が問題となり、波瀾が豫想されたが、五月六日、下院は四百四十七對三票といふ壓倒的多数を以て信任案を可決し、上院も満場一致を以て信任案を承認した。同日、下院に於ける信任投票に先だつてチャーチル首相が行つた戦況報告の内容は左の如くである。

『エジプトのナイル河谿谷、スエズ運河、マルタ島が若しわれらの手より離るるに至ればわれらにとつてこれに迫ぐる打撃はない、従つてわれはこれらイギリス帝國の戰略地點を守るべく全帝國の武力と資源を總動員して戦ひぬく決心である、而してわれはこれに成功し得る幾つかの確信がある、即ちウエーヴェル將軍は北阿及び近東方面に略々五十萬の兵力を擁してをり、またクレタ島及びトルクも同様萬難を排してこれを死守する覺悟と準備あり、これらの諸地點において敗退するが如き惧れは微塵もない、エチオピア及びソマリランドにおけるイタリア軍の抵抗が崩壊した結果同方面のわが軍は更に北方に向ひ急進撃を行つてゐる、また南阿聯邦首相スマツツ將軍は南阿軍を地中海沿岸に派遣すべき旨の命令を發してをりわが方の防衛にいさゝかの不便もない、大西洋における海上運輸の維持についてはわれはアメリカの絶大な援助を必要としてゐるがこれが近く實現をみることは必至である、アメリカの間断なき援助によつてわれは一九四一年は尠くとも最少必要限度の海上運輸を維持し得るが一九四二年にはアメリカ商船の大量建造に期待をかけねばならぬ情勢にある、一方ギ

リシアが突如として暗黒に消え去つたことはまことに痛恨に堪へぬ事であるが、ただわれは凡ゆる人間力を集中し人事を盡したといふ一事を以て僅かに自ら慰め得るものと考へる。

ロイド・ジョージ氏が戦時内閣諮問會議を組織すべしと要求されてゐるが、戦時内閣は目下のところ圓滑且つ容易にその使命を遂行してゐるので現在のところ内閣の機構に変更を加へる意向はない。

またイラクに關しては先刻入手した戦況報告によれば、六日わが軍を包圍中のイラク軍は攻撃を再開して來たが、わが軍の反撃によりイラク兵四百三十四は捕虜となりて千餘の戦死傷者を出した、イギリス軍のイラク反亂鎮定前にドイツ軍がイラクに進駐するかも知れないがさうなればわれはなほ一層大きな負擔を擔ふこととならう、イーデン外相がスペイン、ソ聯、グイシー、トルコ等に關して言及しなかつたことに對するロイド・ジョージ氏の不満についてはイーデン外相の演説はその公言したことについて判斷するよりも寧ろ眞價はその公言しなかつたことによりて判斷すべきものであると答へたい。

トルコ、英國の關係は極めて高く評價してをり今次戦争でトルコの受持つてゐる役割は最大級に重要である、ドイツ軍はダーダネルスを通南下してエーゲ海の諸島嶼を占領したがトルコとしては海峽議定書の規定に従つてこれを阻止する権利はないのである、これは條文の解釋の問題である、余が信任投票を要求するのは英戦時内閣の安定性に關して諸外國が疑惑を持たないやうにするため絶對に必要と考へるからである、敵國側の希望が空しいものであることを教へるには兩院の討議を完全に盡す以外に方法はない。』

なほ、右チャーチル首相の演説に先だつてロイド・ジョージ翁は、政府が詳細なる戦況發表を行は

ない點を非難し、且つ、英國が米國の援助に絶對的なる信頼をかけることの危険性を指摘して次の如く述べたことは、英國民一部の意嚮を表明したものと見て注目された。

『われ／＼はこれで四度目の大惨敗を喫してゐる、或は痛ましい死傷者を無數に出し致命的ではないにしろ甚大な打撃を受けたことはしば／＼であつた、これらの惨敗をわれ／＼は決して輕視してはならない、現下の情勢におけるイギリスの地位は殆んど同盟を持たぬ孤立的立場にあるといつて過言ではない、アメリカは必ずしもイギリスの同盟國と呼ばれることを肯んぜないであらう、前大戰の一九一八年の時でさえアメリカは聯合國としてではなく唯力を藉したに過ぎぬ、アメリカはイギリスをして勝たしめんと欲するならば、もつと助力が出来た筈である、政府國民はアメリカの投英速度分量を誇張して考へてはならない、アメリカの戰爭産業組織は英國にとつては傳統的に「全的失望」に終る歴史を有してゐるからだ、然しルーズヴェルト大統領も、いまやイギリスの危険に顧してゐることを悟つたものと思はれる、それは最近大統領の態度變化にも明白である、日本は最初の機會を擲んで太平洋の支配をアメリカから奪はんと虎視眈々としてゐる、前世界大戰の際アメリカ艦隊は悉く大西洋に移駐し日本は太平洋保障の任に當つたが、今の日本は何を保障してゐるか、日本が現在保障してゐるところは最初の機會をとらへてアメリカから太平洋支配を奪はんとすることである、何れにしろわれ／＼はドイツに敗滅した舊聯合軍が再度起ち上りイギリスの勝利を確保し得るに至る迄斷乎としてわが地位を死守せねばならない、われ／＼がドイツの實力に追いつきこれを追越さうと思へばアメリカはもつと幾らでも力を藉し得るのである、然し現在のところアメリカはしかく早急なる援助を實施しさうな氣配を示してゐない、尠くとも現在まで傳へられてゐる如きアメリカの對英援助に關する情報以上に無限の助力を付與することも出来るのである、われわ

れにとつて最も重大なドイツ軍の攻撃は船舶に對する攻撃である、ルーズヴェルト大統領並びにスチムソン米陸軍長官はこの打撃が如何に容易ならぬ事態を生んでゐるかを熟知してゐる。』

第八章 獨佛協力問題の紛糾

休戰條約後に於ける獨佛の最大問題は獨佛協力の具體化であるが、休戰後に於けるフランス國內の政情は、對獨協力問題を繞つて相對立紛糾を續けつゝあり、殊に、ドイツ側が支持するラヴァル副首相の對獨協力政策は閣内に於ける非常なる摩擦を生じ、遂に、昭和十五年十二月十四日ベタン主席はラヴァル副主席兼外相及びリベール文相を罷免し、外相にフランダン元首相を、また文相にシユヴァリエを起用すると共に、ラヴァルを主席の後繼者に指定せる憲法の條項の廢止を發表した。この内閣改造は、ラヴァル副首相に對する政府部内の反感の爆發を阻止せんがために行はれたもので、即ちアリベール法相の如きは、對獨協力を以て屈辱政策となし佛政府の北阿アルジェリア移轉を主張し、遂にラヴァルを監禁するに至つた程であり、閣僚中對獨協調政策を堅持せるはベタン主席とアンチジェ國防相のみで、他の閣僚は日和見的であるがラヴァルに對する反感は濃厚であつたから、對獨協調問題に關聯してラヴァル反對の空氣が激化し、對獨協力政策の決定が困難となり、ドイツ側との關係が悪化するに至つたので、ヒットラー總統の要求による最後の態度決定のため、十三日閣議に於て、ラ

ヴァルの放逐を決定したのであつた。

さらに副主席の廢止及び内閣改造の善後策として、ペタン主席は、十四日改造の發表と同時に、『フランス新憲法が國民の承認を得て確立されるまでに、ペタン主席が何等かの事由により、その國家最高指導者たるの機能を果し得ざる場合には閣議が全閣僚の多數決を以て之を代行し新副總理任命まで政府の全機能を行す』との緊急令を發布すると共に、翌十五日、上下兩院制度に代るべき新衆議院裁機關として少數閣僚より成る諮問會議の創設を發表したが、この諮問會議には前日の緊急令による政府の新主席代理の權限も附與されることとなり、議員としてペタン首相を初めフランダン外相、ペイルトン内相、アリエール法相、ブーチリエ藏相、ダルラン海相、キャジオ農相、ベラン産業労働相、ポードワン國務會議書記長の九名によつて構成される旨が發表された。

ラヴァルは罷免と共に監禁されるに至つたが、この報はドイツ側に大きな衝動を與へ、パリ駐在のアベツツ獨大使は十七日ヴィシーに乗り込み、ペタン主席と會談した結果、ラヴァルの監禁は解かれてパリに赴いたが、ペタン主席は二十五日、ダルラン海相を使者として書翰を送りヒットラー總統に對して、ラヴァル罷免の事情を釋明すると共に、昭和十六年一月十八日ラヴァルと會談の結果、罷免問題を繞る一切の誤解が掃かれたと發表された。

然し、ヒットラー總統は一月三十日、パリ駐在のプリノン佛大使を通じて、前記の十二月二十五日

附ペタン主席の書翰に對する回答を送り、ラヴァルの復活及び地中海に於ける佛海空軍根據地使用を獨伊に許容することの二條項を要求した。よつてペタン主席は二月三日ダルラン海相をパリに派しアベツツ獨大使と交渉せしむると共に、同五日、ダルラン海相の歸還を待つて閣議を開いて、ラヴァル復活問題を協議したが、復活に對するラヴァルの條件が、ラヴァルを首相に任命し、新内閣の閣員全部の指名權を許容し、國民議會に對してのみ責任を負ひ、外交、宣傳、内務各行政上の全面的指導權を附與すべしとする、殆んど獨裁權に等しき權力を獲得せんとするものであつたから、同日の閣議に於ては、ラヴァルの復活を拒否し、ダルラン海相を主班とせる新内閣を組織することに決定した。

勿論、このラヴァル復活の拒否はドイツ側をして憤慨せしめたのであつたが、一方、佛國內に於ては、前年末より擡頭せる、ラヴァル派の指導の下に、對獨協力を積極化し速かに事態の安定を計るべしと主張する運動が、二月一日、パリに於てラヴァル派の有力者たるマルセル・デア、ピエール・カタラ及び在郷軍人會、右翼團體、勞働組合等の代表者たるジロー、ゴア等を指導者として學國民衆黨なる新政黨の結成として現はれ、對獨協力問題の解決促進に活潑なる運動を開始する等、情勢は益々紛糾を來すに至つた。

これがため、ダルラン副主席は二月九日、首相に就任し、海、外相を兼任する旨を發表したが、組閣は容易に進捗せず種々なる曲折を経て二月二十四日に至り、やうやく、主要閣僚たる外、内、海、國

防、藏、農の七相を決定し、翌二十五日、他の閣僚たる各國務長官を發表したが、ダルラン内閣の顔觸れは左の如くである。

△副首相兼外相、内相、ダルラン提督、△国防相アンチヂエ將軍、△法相ジョゼフ・バルトレミー、△藏相イヴ・ブーチリエ、△農相ピエール・カチオ、△航空長官ベルジュレ將軍、△民需食糧長官アシャル、△植民長官アラトン提督、△逓信鐵道長官ベルトロー、△文部長官カルコピノ、△厚生長官ジャック・シユヴァリエ、△勞働長官ルネ・ベラン、△工業生産長官ピユシユウ

なほ、新たに二名の辨務官が設けられ、佛獨關係辨務官にはブノア・メシヤン、土木失業辨務官にはルイドウ、情報局長にはジャック・ドリオの機關紙リベルテの主幹であつたポール・マリオンが夫々任命され、また、獨佛經濟關係調整のために特にジャック・バルノーが任命され、閣僚の資格が與へられる旨が發表されたが、これと共に新内閣の對獨協力政策については左の如く發表された。

『新内閣は昨秋のヒットラー、ベタン會談の線に沿ひ獨、佛協調政策を採る事勿論で、新内閣が對獨經濟協力推進のために特に辨務官制を設けたのもその意圖に外ならない。この辨務官はパリに駐在し獨佛產業關係の凡ゆる問題に就き絶えず接觸を保つ豫定である。』

斯くてダルラン内閣は國內對立の緩和を計り、ド・ゴール派の暗躍に對して嚴重なる取締りを行ひ、四月十一日には

(一) 税關吏、警察官、軍人は十七歳以上四十歳迄のフランス人の國外逃亡を防止する爲努力すべし。

(二) 一般家庭、殊に戸主たるものは家族の國外逃亡につき嚴重に警戒すべし。

(三) 政府は緊急事態に對しては緊急手段を以つて對處する覺悟を有する。

旨の布告を發して國民の國外逃亡を防止し、また、同十八日には國際聯盟脫退を通告する等、内外情勢の安定に努力すると共に、獨佛協力問題の解決を圖るべく、ダルラン副主席がパリに赴いてアベツツ獨大使と折衝を續けたが、五月七日、パリに於てやうやく獨佛協力に基く新協定の調印を見るに至り、獨佛關係に一轉廻を見ることとなつたが、同日ヴィシー政府が發表せる協定の内容は左の四項目から成るものである。

一、ドイツはフランスの占領並びに非占領地域の境界を開放し、非占領地域より占領地域への食糧、石炭、鐵、其他の商品を即刻流入せしめることに同意する。

一、ドイツは親戚中に重病者又は死亡者を有する者に對し境界線通過を容認する。露休中の陸海空軍人も同じ。郵便葉書に依る兩地域間の通信は許可するが圖解した場合は禁止する。

一、ドイツは公債株券の境界線通過を許可する。

一、獨軍の占領地に於ける戦費につきフランス側負擔額を軽減(一日四億フランを三億フランに)する問題は目下交渉中である。

獨佛新協定の成立は、バルカン作戰によつて英軍事勢力を歐洲大陸より驅逐したのに次で、フランスに働きかけつゝある米國の謀略を阻止し、大陸から英米の政治勢力を一掃せんとするドイツの強力

なる外交攻勢の現はれであるが故に、英米は大きな衝動を受け、兩國に於てはフランスに對して壓迫を加へ、或は報復的措置に出づべき態度を示すに至つたが、これに對し、五月十日パリ駐在のヴィン政府代表ブリノン大使は、次の如き對米強硬態度を表明せる談話を發表した。

『米國がダカール港を占領せんと欲するならば、米國は實力によつて取らねばならぬだらう、フランスは今なほ常に戰爭準備を整へてゐる有力な海軍を持つてゐる、そして米國が干渉を行はんとすれば佛海軍は必要に應じて重要な役割を果すことを辭さないであらう、佛政府は既に米政府に對し、若し英國がフランス本國向けの食料を輸送する佛商船の拿捕を續行するに於てはフランスは商船を護送せざるを得ない旨通告して置いた、英國の封鎖はこれ以上フランスとして許可することは出来ない、ダルラン副主席は既にリーヒイ米大使に對し事態の重大性について注意を喚起してゐるところである、若し米國が參戰することになれば全歐洲は米國に對して共同防衛の戦線を張つて對抗せざるを得ないであらう』

次で五月十二日、ダルラン副主席はザルツブルグを訪問してヒットラー總統及びリツペントロップ外相と會談したが、この會談は、新協定の成立による獨佛協力をさらに強化したものであつた。故にこの會談の成果について十五日、ペタン主席は左の如く全國民に放送し、また、獨外務省も同じく十五日、相呼應して左の如き聲明を發表した。

ペタン副主席放送『ヒットラー總統とダルラン副主席の會談は「將來への途に灯を點じた」ものである。余は兩者の會談に於て樹立された原則を承認した。但し獨佛兩國間の交渉はまだ結末がついてゐないのだから國民は

勝手な斷案を下してはならない。フランスの望むところはその國力の維持とその植民地帝國の確保にある。』

獨外務省聲明『ザルツブルグ會談の結果はヴィシー國務會議によつて滿場一致承認されたが、これによつて今後の獨佛兩國關係はいかなる方向を辿るか占領地、非占領地の新聞の論調が一致してヴィシー政府の對獨提携方針を支持してゐることによつて明かであらう。今回の會議によつてフランスは歐洲と運命をともにすべきもので、その他の大陸の利益のために左右される植民地ではないことを最終的に決意した。この場合歐洲といふものはもちろんアフリカ大陸をも含めたもので、リーヒイ駐佛米大使が今後いかに暗躍しようともフランス本國はその植民地とともにドイツの新秩序建設に全面的に協力することとならう。』

さらに五月十九日、佛政府は獨佛協定の結果として、ドイツ側は直ちに佛軍捕虜約十萬を釋放することになつた旨を發表したが、なほ同發表に於て、その後の獨佛交渉は極めて順調に進行して居ると附言された。

一方、獨佛協定成立に狼狽せる米國は五月十五日、ルーズヴェルト大統領が、フランスが植民地を含む全領土をドイツに提供したと指摘し、極度の不滿の意を表明した聲明を行つたが、越えて十七日ハル國務長官も新聞記者團との會見に於て前日の大統領の聲明を全幅的に支持する旨を言明し、また英國に於ては、同じく十五日、イーデン外相が下院に於てシリア進撃を示唆せる演説を行つてフランスを威嚇したのであつた。

これに對してフランス側は、十六日、政府發表を以て十五日の米大統領の聲明及びイーデン外相の演説に對して左の如く反駁を加へた。

「ルーズヴェルト大統領はベタン主席の聲明を恰もフランスが同國の植民地をドイツの自由に委ねたかの如く解して居る様であるが、これは驚き入つた次第である、さらにこれに續いて米國側半官報筋から佛領のギアナ及び西印度諸島の沒收を示唆するやうな聲明が出て來るに及んで一層驚かされて居る、ノルマンデー號その他在米佛船の接收の如き到底イデオロギーだけが動機だとは考へられない、一九四〇年五月英米兩國は西部フランスを冷酷にも見棄てた、これはフランスの衷心よりの訴へに對する立派な答といひ得るであらうか、今日、本國領土ならびに植民地帝國の保全を希ふフランスは、歐洲再組織の諸條件につき自國の征服國と完全に意見の一致をみたのである、このことはフランスが英國はもちろん米國に對しても攻撃を意圖してゐることを意味するものではない、英空軍のシリア飛行場爆撃、およびイーデン英外相の對シリア恫喝に關しても、フランスは依然としてアングロサクソン人が侵略を企圖してゐるものと見做さざる態度を持してゐる、エー駐米佛大使はフランス國民の見解を明確に披瀝した、同大使は米國記者團に對しフランスはベタン主席の愛國の至情に全幅の信頼を置く旨言明してゐる。」

次で、二十二日、イーデン外相は下院に於て重ねて左の如き對佛強硬態度を表明したが、この演説はフランスに對する『宣言せざる戰爭狀態』と見做すべきものとして注目を惹いた。

『若しヴィシー政府が英國の戰爭遂行に害ある行動を許すに於ては重大な結果が起ることをフランス國民は覺悟

しなければならぬ。獨佛新協定の成立はヴィシー側では獨佛協力に新段階を畫すものと述べてゐるが、これは例へばヴィシー政府がシリアに於ける飛行場を獨空軍に提供する等の行爲を指すことは明瞭である。ルーズヴェルト大統領はこのヴィシー政府の政策の發表につき率直に意見を表明し、米國政府は米國諸港にある佛船舶に對し一種の豫備的措置を採つたのである。之に對しヴィシー政府は、ドイツとの協力政策は政治經濟問題に限定せられてをり、英國は勿論、まして米國を攻撃するが如き意思は毛頭ないと釋明してゐる。然しこの釋明はヴィシー政府がフランス帝國の資源及び領土を擧げて佛國の前同盟國の敵であると共に佛國自身の敵である國に漸次利用せしめようとする方向に向つてゐることは明らかである。英國政府はフランス國民がかかるヴィシー政府の政策を佛國の名譽と兩立するものと考へてゐるとは思はない。同時にフランス國民はフランス及びその植民地屬領の將來がヒットラー總統の所謂新秩序に聽從するより斷乎としてその獨立維持に邁進し聯合國の最後の勝利によりて解放されるを待つ方がよいと考へてゐると信じる。然し乍ら英國政府としてはフランス國民もさること乍らあく迄ヴィシー政府の行爲を問題としなくてはならぬ。若しヴィシー政府がドイツとの公然たる協力政策が具體化し、或は我が戰爭政策に反する行爲を許し、或は敵の戰爭政策を援助するに至れば、我々は敵を見付け次第それが何處であらうと遠慮なく之を攻撃し、作戰遂行のためには獨軍の占領地たる非占領地たるを問はずその間に區別をつける必要を認めなくなるであらう。去年の八月、我々はド・ゴール將軍に對し戰勝の曉にはフランスの獨立と完整を保障すべきことを約した。フランスの解放のために抗戰を續けてゐる人々を援助する役割を果たすか、又はフランスが今後ドイツの衛星の隊列に加はるかを決定する役割はフランス國民に在る。』

また、ダルラン副主席も翌二十三日、重ねて英米側の宣傳を反駁し獨佛協力を強調した放送を行つ

たが、さらに、同三十一日、パリに於て新聞記者團と會見、フランスに對する英國從來の罪惡を擧げて、斷乎たる對英決意を表明せる次の如き談話を發表した。

「獨佛休戰以來英國によつて不法にも拿捕された佛船は百四十三隻で合計七十九萬二千トンに上つてゐる、また開戦以來昨年六月末までに英國が拿捕せる佛船は九十隻（三十七萬トン）ド・ゴール政權下にある佛植民地の拿捕せるもの十隻（三萬六千トン）ほかに三十三隻（計十五萬八千トン）の佛船舶が昨年六月二十六日以後に公海で拿捕された、十三隻（計十四萬二千トン）の船が英國の要請で米國の港で抑留されてゐる、昨年七月以來英國の手による爆撃および魚雷によつて沈没せるものおよび拿捕を恐れて自爆せるものは二十一隻に達してゐる、英國がかかる殘忍な行爲をとつたのはフランスの海運力を破壊し佛本國を植民地及び爾餘の世界から切離さんがためであつた、この英國の海賊行爲によつてフランスが蒙つた損害は現在フランスがドイツに支拂はねばならぬ負債よりも大きなものである、過去二十年間の英佛關係を見ても明かな如く、英國は常にフランスを利用し搾取し續けて來たのである、英國はヴェルサイユ條約による軍事的義務は全部フランスをして履行せしめておきながら英國自身は經濟的にドイツ國民から土地を買上げ得るだけの餘力を残しておいたのである、フランスが歐洲の警察官たる有難くもない役目を背負はされてゐる間に、英國はドイツの海軍と植民地とを掻き集めたのだ、自國においては極端に保守的でありながらフランスにおいては左翼の組織や自己のいふがままになる政府を支援したのである、しかもドイツが軍事的に強大となり、歐洲合同の重要因子として出現するや、英國はフランスとの同盟を思ひ出した、この英國の偽善を看破したのがベタン主席である、英國は歐洲を合同せしめず、ばらばらにしておいてそこに君臨し、従前通りの政策を續けて行かうとしてゐるのだ、余はベタン主席とともにフランスが新秩

序建設に参加しなければならず、また平和の招來を速めるやうにフランスが行動しなければならぬ、フランスは成育するために平和を必要とする、余自身の義務遂行の決意を固めてゐる余は、スファックス港の爆撃を見てここに宣言する、自國の諸港および交通路を自由に使用し得るフランスの權利はこれをあくまでも確保せんとする決意を余はますく固くするものである、良かれ悪しかれベタン元帥と結びついたわれらの祖國は、その領土を侵され國旗を侮辱されることには斷じて耐へぬ威嚴をなほ保持してゐるのである」

さらに六月五日、ヘル米國務長官は、さらにフランスを非難した聲明を發表するに至り、フランスに對する英米の態度は極度に悪化した、遂に同八日、英國はシリアに對して進撃を開始したのであつた。

第九章 獨蘇戰爭の勃發

前年末頃より獨蘇關係について種々の風説が傳へられて居たが、四月のバルカン戰爭前後にかけて蘇聯はドイツとの國境方面に老なる兵力を集結しつゝありと傳へられ、六月上旬より中旬にかけて獨蘇交渉説と併せて、獨蘇關係の悪化が傳へられた。これについてタス通信は風説の内容について六月十三日左の如く發表した。

「クリップス駐蘇英大使はロンドン歸還前後を通じ、英國及び世界各國新聞通信は獨蘇兩國間に戦争が切迫してゐるとの報道を廣く傳播しはじめた。これらの報道は次の如きものである。

一、ドイツは蘇聯に對し領土的並に經濟的要求を提出し、目下獨蘇兩國間により緊密なる獨蘇新協定交渉が行はれてゐる。

一、蘇聯が獨側の要求を拒否した結果、ドイツは蘇聯に對し攻撃を行ふ目的を以て獨蘇國境方面に軍隊を集結し始めた。

一、蘇聯は對獨戰の準備を開始し國境附近に軍隊を集結し始めた。」

なほ、同日、蘇聯政府タス通信は「右の報道は、蘇聯及びドイツに敵意を抱き戦争が現在以上に擴大することを欲して居る諸國の宣傳である」と發表したが、獨蘇關係惡化説は依然として已まず、却つて開戦不可避説が頻りに行はれるに至つた。

一方、ドイツ政府は同じく十三日、現在フィンランドにドイツ軍部隊が駐屯して居ることは周知の事實であると言明して注目を惹いたが、越えて二十日、フィンランド政府が全面的に總動員令を發したことが報ぜられ、各方面に多大の衝動を與へたが、遂に二十二日午前三時半、ベルリンに於てゲッペルス宣傳相がラジオを通じて獨蘇が戦争状態にある旨を述べ、續いてリツペントロツプ外相が次の如き對蘇宣戰に關するヒットラー總統の布告を朗讀した。

「獨逸國民諸君！ 黨員諸君！ 余は月餘に亘る沈黙の後、諸君に對して遂に眞實を公言することが出来る。一九

三九年九月三日英國側が獨逸に對して宣戰を布告したる時、歐洲に於ける諒解と進歩の如何なる萌芽をもその當時に於ける歐洲最強の國家に對する戦争によつて水泡に歸せんとする英國の常套手段が又も繰返されたのであつた。即ち英國は曾て多くの戦争によつて西班牙を撃滅し、後には和蘭をも打破つた。かくて英國は全歐洲の助力を得て佛蘭西を征服し、今世紀の初めには一九一四年より一九一八年に至る世界大戰中獨逸を包圍した。當時獨逸は只内部的分裂によつてのみ降伏を餘儀なくされたのであつて、その結果は恐るべきものであつた。英國人は先づその周知の偽善的方法によつて彼等が獨逸皇帝とその政府に對してのみ戦ふものである事を聲明したのであるが、獨逸の軍隊が武器を抛棄するや否や、着々と獨逸の破壊に手をつけ始めた。世の中には獨逸人が二千萬人だけ多過ぎる。即ち獨逸の人口は飢餓、疾病、國外移民によつて減少せられねばならぬといふ意味の事をいつた佛蘭西政治家の豫言が文字通り實現された時、ナチス運動は獨逸國民の統一と獨逸復興の爲の準備を開始したのであつた。我國民はその貧窮と悲惨と屈辱の状態から再び立ち上つたのである。かかる獨逸の發展は英國に何等關係はなく、又何等脅威を感じしめる性質のものでもなかつた。獨逸に對する新たな包圍政策は直ちに獨逸に對して燃上つた憎惡によつて生れたものである。猶太人、民主主義者、ボルシェヴィキ、反動主義者共はありとあらゆる手段を盡して新興獨逸國の建設を阻害し、獨逸民族をして再び無力と悲惨のどん底に陥れんとする目的に邁進した。獨逸の他にもこれ等國際的謀徒の憎惡は、かの運命に幸ひせられず、その日々の糧を最も困難なる闘ひ——生きんが爲の戦——によつて得なければならぬ如き民族に對しても向けられたのであつた。殊に世界の資源の一部分にありつかんとする伊太利と日本の正當な權利は、獨逸と同様、全然否定されてしまつた。事實之等の權利は公式に否認されてゐたのである。従つて之等の民族が結合したといふことは、全世界に綱の目を張る富

と權力の結社に對する一種の自衛手段に過ぎないのだ。

米國の外交問題審議委員會に於けるレオナード・ウッド大將の説明に従へば、チャーチル氏は既に一九三六年に獨逸が再び強國となるであらうが故に、絶滅せられねばならぬと言つてゐるのである。一九三九年夏英國は再び包圍政策の蒸返しにより、獨逸の壊滅に乗出す時機が到來したと思惟した。此の目的の爲に動員されたデマ部隊は、他民族をして彼等が獨逸により脅かされてゐる事を悟らしめる事に汲々とし、同時に之等の民族は世界大戰當時と同様に英國の保障と援助の約言によつて獨逸に對し武器を執るの態度に出ださしめる動機をつくつたのである。英國は斯る手段によつて一九三九年の五月から八月に到る迄の間世界に對し、リトアニア、エストランド、レットランド、芬蘭、ベッサラビア、ウクライナ等が獨逸の脅威下にあると宣傳して來たのである。之等の國家の中、多數が英國の言に乗ぜられ、英國が斯る宣傳と共に提出した保證約言を眞に受けたのである。斯て彼等は反獨包圍陣の中に参加するに至つた。斯る情勢の下に於て、余は余の良心と獨逸國民の歴史の前に、英國の主張は偽りであるといふことを單に之等の國家やその政府に對して保證する許りではなく、獨逸國境の彼方の東歐洲最大の強國に對しても安心を與ふるべく、茲に嚴たる聲明を發するのを正しいと認めた。

黨員諸君！ これは余にとり更に辛い又困難な行動であつたとは此の秋諸君は凡て恐らく感ずることと思ふ。獨逸國民は嘗て一度も露國民に對し敵愾心を懷いた事はない。然るにモスコのボルシエウイキの指導者達は、過去二十年以上に亘り單に獨逸のみならず全歐洲に放火せんと試みたのである。

之に反し獨逸は未だ嘗てその國家社會主義的思想及び觀念を露西亞へ移轉せんとした事はない。然るにモスコの猶太ボルシエウイキの指導者は、我々獨逸人並に他の歐洲國民に單にイデオロギー的手段に依らず、特に武

力を以てその支配を強制せんとする諸工作を放棄したことはないではないか！ 露西亞政體の行爲の結果たるや混亂と悲惨と飢餓以外の何ものでもない。之に對し余は、過去二十年の争闘中も正當なる方途より脱線した事は一度もない。又毫も妨害をせず獨逸の生産機構のために祖國に一の新らしい社會秩序を建設せんとしたのであつて、此の秩序こそ單に失業問題を打開したに止まらず、我々勞働者をしてその勞力の結晶の割前をより多からしめんと欲するものである。

我國民の經濟的社會的新建設の二つの政策は全ての階級制度を組織的に除去する事に依り眞の國民共同體結成を目標とするものであるが、これが成功を齎した事は世界に於ける唯一の事象である。

余は随つて只管深甚なる考慮を拂つた後、一九三九年八月外務大臣をモスコへ派遣し英國の包圍政策に對する均勢を保たんと工作を施したのである。元來余がこの行動に出たのは、獨逸國民に對する余の責任觀の然らしめた所である。之に依り余は特に恒久的關係調整を誘引し、犠牲を減少せんと希望したのであつて、然らざれば犠牲は我々に益と負ひ被さつて來たであらう。リトアニア以外の前記の地域並びに諸國は獨逸の政治的利害權に包含されないと云ふ事を、獨逸がモスコで嚴肅に確認した際同時に英國が對獨戰爭に乗り出す場合に關し、特殊な協定が締結されたのである。

ナチス黨員諸君！ 余自身が充分願はしきものと思ひ且つ獨逸國民の利害の爲締結した條約の齎らせる結果は實際には頗る困難な、就中前述諸國內に生活してゐた獨逸人にとつては甚だ困難なものとなつて來た。

小農、手工業者及び勞働者よりなる五〇〇、〇〇〇人を遙かに超える獨逸人男女が以前の郷里を殆んど夜を徹して立ち去らねばならなかつた。それは、最初の日から限りなき苦惱を彼等に與へ、且つ早晚彼等を完全に削減

すべき脅威を加へてゐた新政權から逃れん爲であつた。然るに尙數千名の獨逸人は行方不明となつた。彼等が其後どうなつたかに就いては爾來一切手懸りが無い、その内には一六〇名に垂んとする獨逸國籍所有の男子も含まれてゐたのである。

余は之に對し一切沈黙するの他はなかつた。蓋し究極する處最終的に緊張を緩和し出來得べくんば獨逸間の諸懸案を最終的に調整することが余の唯一の希望であるからである。然るに未だ我軍の波蘭進軍中に既にソ聯首腦部はだしぬけにリトアニアを要求し來つた。この要求たるや徹頭徹尾獨逸不可侵協定に背馳するものであつた。獨逸國は未だ嘗てリトアニア占領の意圖を有したことなく、又此種要求を同國政府に提出した事がなかつたばかりか當時のリトアニア進駐權を要求する事すら避けたのである。蓋し斯かる獨逸の政治目的には相應はしからぬ事に思はれたからである。それにも拘らず余はソ聯の此の新要求に應じた。然るに之はソ聯の飽くなき食欲を繰返す源となつた。波蘭に於ける我軍の輝かしき勝利の機會に余はもう一度英佛に對する平和提議を行つた。この提議は國際的戰爭挑發者の暗躍に依り拒絶せられた。當時既に斯かる拒絶の原因は、英國が相も變らず、バルカントソ聯とを含むべき反獨逸歐洲聯盟の結成を可能なりとする希望を培つてゐた點に求めざるを得なかつた。

故に英國政府は決意してサー・スタッフ・フォード・クリップスを大使としてモスコに派遣した。同大使は、萬難を排してソ聯の對英關係を再調し、親英的方面に展開すべき旨明確な命令を受けた。英紙はこの會談に就き報道抑壓の論理的理由に依り禁止されざる限り報道を續けた。一九三九年秋及び一九四〇年初頭にはソ聯の波蘭、バルト諸國に對する強壓行爲の最初の結果が現はれて來た。ソ聯政府はその行爲を同國政府は前記諸國を他國の脅威より防ぐといつた實に笑止千萬な虚偽も甚だしい主張を以て理由づけた。然るに此の主張の對象は獨逸以外

にはあり得なかつた。それは何れの他國も嘗てバルト地域迄達し得なかつた事實に見て明白である。

然るにクレムリン爲政者はこれを以ても猶満足するに至らなかつた。即ち一九四〇年初頭獨逸が所謂友好精神に即つて東部國境地域より其の兵力を大々的に撤退したのに反し、當時ソ聯兵力の集結は方に明白な對獨逸威と見做さざるを得ない程強化するに至つた。當時行はれたモロトフの發言に依れば一九四〇年初頭にはバルト諸國のみでも既にソ聯の二十一個師團の兵力が駐屯してゐた。

ソ聯政府は此の兵力は前記諸國住民の希望に依り派遣したものであると終始主張しつづけて來たにも拘らず、前記兵力駐屯の目的は對獨逸威以外にはあり得る筈がなかつた。

我軍が一九四〇年五月十日を期して西部佛英軍を目指し進發した時強力なるソ聯軍隊は我東部國境に於て常に脅威的な態勢に出た。

余はそれ故に一九四〇年八月以來、以前の戰爭に於て既に屢々兵火のために荒廢に歸した我東部地方を有力なるボルシェヴィキ軍隊の大集結の爲に之以上無防備に置いておくのは獨逸の權益の爲に不可能だと認めた。この措置は英ソ協力に依り企圖せられた影響を及ぼしたが、即ち有力なる獨逸軍隊を東部地方に牽制し、その當時尙西部戦線に使用中であつた飛行機の威力も之れ以上は獨逸軍司令部でも保證し得ないのに鑑みて西部に於ける戰爭を早く終結せしめんとするにあつた。

之れこそは更に英國の目的に合致するのみでなく、又ソ聯の政策にも合致するものであつたのであるが、その理由は英國は勿論ソ聯も亦此の戰爭を出來るだけ長引かして、全歐洲を弱体化孤立の状態にしようとするからである。ソ聯は羅馬尼に對し將に攻撃せんとする態度に出たが、之は南東歐に於ける新しき重要な基地

を獲得し歐洲大陸に於ける經濟生活の破壊を目的としたものであつた。獨逸は一九三三年以來常に變らざる忍耐を以て南東歐諸國をその通商の相手國として獲得せん爲に努めて來た。我々はそれ故之等諸國の内情が鞏固になり組織されるのに對し最大の關心を有してゐた。ソ聯の羅馬尼及び希臘に對する進出は英國と密接なる關係を有して居り、之等の地域を僅かの期間内に一般的に戰場と化さしむる恐れがあつたのである。我々の政策に反し且つ此の情勢進展に關し責任を有してゐた羅馬尼政府の懇請に對し余は平和の爲にソ聯の要求を認めベッサラビアを割讓する様勸告した。

然し乍ら羅馬尼政府をして獨伊兩國が調整の爲乗り出し勤くとも羅馬尼の領土と残つた地域の不可侵を保證せざる限り斯くの如き措置に對する責任を自國民のみで引受けられないと信じた。

獨逸が一度び保障誓言を行ふ以上は必ずそれを遵守するものである以上甚だ困難を伴ふものであるが、余は遂にこの困難なる措置を採る事を決意した。余は後刻余がこの重大なる責任を引受けたことに依つてこの地域の平和の爲に盡したと信じた。然し本問題を決定的に解決し常に我東方國境に軍隊を増加集結して我方を壓迫せんとするが如きソ聯の對獨態度を明かにせんが爲余はモロトフを伯林に招請した。ソ聯外相は兩國協定釋明の爲左の四ヶの質問を提出した。

一、モロトフの質問 ソ聯が羅馬尼を攻撃する場合獨逸の對羅馬尼保障はソ聯に對しても向けられるか？

余の答辯 獨逸の保障誓言は一般的のものであつて、獨逸は無條件に之に對し義務を負つてゐるものと認める。

その理由は、ソ聯が我々に對しベッサラビア以外には羅馬尼に於て何等關心を有してゐないと聲明したのに基くものである。北部プロヴイナの占領の如きは既に此の保障の違反であり、それ故余はソ聯が之以上羅馬尼に對し

企圖を有するものとは思はなかつた。

二、モロトフの質問 ソ聯は復しても芬蘭の爲め脅威を受けてゐる。ソ聯は此の上事態を隱忍せざるべく決意した。獨逸は芬蘭に一切の援助を與へず、且つ何よりも先づ芬蘭を通過してキルケネス方面に進軍中の獨逸交替部隊を撤退せしむる用意を有するや？

余の答辯 獨逸は芬蘭に對し今後何ら政治的關心を有するものではないが萬一ソ聯が芬蘭民族に對し更に戦争を仕掛けるならば獨逸として最早耐え得ざるものである。況んや獨逸としてソ聯が芬蘭から脅威を受けつつあるとは到底信ずる事が出来ない。それに又獨逸政府はバルト諸國に新しき戰場を發生する事を好まない。

三、モロトフの質問 モロトフ自身がソ聯が勃牙利王を退位せしむる意圖なしと誓約する場合、獨逸は勃牙利に對する保障及び此の目的の爲勃牙利へのソ聯軍派遣に賛同する用意を有するや？

余の答辯 勃牙利國は獨立國にして獨逸政府は勃牙利がソ聯に對し何等かの保障を要請せる事實も乃至獨逸が勃牙利から要請の依頼を受けたことも聞知してゐない。更に獨逸政府は此の問題に關しては同盟國と協議すべきを必要と認めるものである。

四、モロトフの質問 ソ聯は事態の如何に拘らずダネルス海峡の自由航行を要求し、之が保護にダネルス海峡及びボスポラス海峡に重要據點數ヶ所を要求せざるを得ない。獨逸は此の種ソ聯側の意圖を是認せんとするや？

余の答辯 獨逸は常に黒海接壤國の利益に鑑みモントルー條約を改訂せんことを欲してゐる。但し獨逸は前記海峡岸の據點をソ聯が占領することは容認する事が出来ない。

ナチス黨員諸君！ 余が之等の質問に答へてゐた間余は獨逸國の責任ある指導者として、又歐洲文明の使命を帯びたる代表者として探ることの出來た唯一の態度を採つた。その結果ソ聯は愈々反獨行動を増長せしむるのみであり、就中、即刻羅馬尼亞國を内部より覆さんとする陰謀並びに宣傳工作による勃牙利政府の地位を搖がさんとする企圖を開始するに至つた。羅馬尼亞軍隊を混亂し且つ未熟なる指導者等の助けをかりて同國內に一政變が企てられたが、それは同國指導者アントネスコ將軍の失脚を目的とし且つ合法的政權を廢除し且獨逸の干涉を必然的に誘發すべき事態を造出する爲に同國內に混亂状態を齎らさうとしたものである。それにも拘らず余は依然として之に對し沈黙を守るを以つて最善とした。

斯かる企圖が失敗に歸するや否やソ聯軍隊は復もや獨逸東部國境に増強せられた。機械化部隊や落下傘部隊の國境方面に送られて來る數は愈々増大した。數週間前まではただ一個の機械化師團も、それどころか唯一個の獨軍裝甲部隊も我東部國境に駐在してゐなかつた事は、我國軍民の等しく知るところである。

凡ゆる否認及び欺瞞工作にも拘らず明々白々たる、英ソ間に此間締結されたる同盟關係の存在を示す決定的證據が此上まだ必要とあれば、それはあのユーゴスラヴィアの突發事件こそはその典型的なものと云つてよい。余がバルカンの終局的平和招來の爲凡ゆる努力を拂ひ且つムツソリーニ首相との諒解の下にユーゴスラヴィアを招請して、三國同盟に参加せしめんとしてゐた最中に、英ソ兩國は共同の陰謀により、僅か一夜の中に當時既に對樞軸諒解の用意を有したユーゴスラヴィア政府を廢止するに至つたあの政變を計畫したのである。今日こそ我等は、あのセルビア人の反獨暴動を煽つたのは單に英國だけではなくて、寧ろ主としてソ聯だつたといふことを我獨逸國民に知らせることが出来る。

我々がこれに對しても未だ黙つてゐると、ソ聯の指導者等は更に一步を進めて來た。彼等は暴動を起させるだけで満足せず、それから數日後にはあのように知れ渡つた彼等の新しい忠僕等との協定を結んだが、これはセルビア人等をして獨逸によるバルカン諸國に於ける和平工作に反抗して獨逸に敵對せんとする彼等の意圖を強化せしめんとしたものである。かかる對策の根柢をなすものは、セルビア軍の動員を欲した處に在つて單なる精神的なものではなかつた。

余が此の時に及んでも尙語らざることを以つて一層よしとしてゐると、クレムリンの爲政者共は更に又一步を進めて來た。即ちソ聯が、セルビア人をして反獨戰爭を遂行せしめんがために、同國にサロニカ經由によつて兵器、飛行機、彈藥、その他軍需資材を供給すべき約束を與へたことに就いては、獨逸國政府は確たる證據文書を握つてゐる。而してこの事行はれたのは、實に余自身が、時局の平和的處理を希望して、日本の松岡外相に對し同國の對ソ緊張の緩和方を助言したのと殆んど同時であつた。

このソ聯とアングロサクソン側からの襲撃を失敗に歸せしめることの出來たのは、偏へに我精銳部隊のスコプリエへの神速なる進軍並びにサロニカの疾風の攻略そのもののお蔭である。然るにセルビア空軍の將校等はソ聯へ逃げて、同國で直ちに同盟國人として迎へられた。彼等は獨逸を東南歐の戰闘に縛り付け、今年夏中はかかる積りであつた他方獨逸國と伊太利との息の根を止めんがために、ソ聯軍隊の進駐と、英國との密接なる協力及び合衆國の支援を受けたる同軍隊の戰闘準備とを完成する積りであつた。本計畫を水泡に歸せしめることの出來たのは専らバルカンに於ける樞軸側の勝利によつてであつた。

斯くの如くモスコ政府は極めて陋劣な遣り方で以てかの友好條約を裏切つたのである。これ等一切の事が行

はれたのは、實にクレムリンの爲政者等が羅馬尼亞や芬蘭の場合にやつたのと正に同じやうに、最後の瞬間に至るまで平和と友好との假面の下に維持せられ、且つ素朴を装へる多數の聲明や公式否定を以て欺瞞したのである。余は現在に至るまで四圍の事情に餘儀なくされて只管沈黙を守つて来たが、今や遂に、余がこの上尙拱手傍觀するならばそれは獨逸國民及び全歐に對して一種の犯罪者となるべき重大なる瞬間が到來したのである。

現在我國境には約百六十箇師團のソ聯軍が集結してゐる。すでに數週間を通じて同地方は勿論、極北より羅馬尼亞に至るまで國境侵犯事件の續出を見てゐる。ソ聯飛行士は此の國境默殺を以て日常茶飯事の如く心得てゐるが惟ふに右は彼等が同地方をその領土の如く感じてゐる事を我に實證せんがためである。六月十七日より十八日に至る夜間もソ聯偵察部隊は再び獨逸領内に進出し、長時射撃の應酬の後漸く我方のため撃退された程である。此の種の進展が目下の瞬間を招來し、モスコの猶太ボルシェヴィズムの本部に源を發する計畫に對し膺懲の手段に出でざるを得なくなつたのである。

獨逸國民諸君！ 今や前古未曾有の大規模な軍隊移動が行はれつつあるのだ。ナルヴィックに戰勝を博せる將兵は芬蘭の戰友と堅く手を握りつつ北極海岸を占領してゐる。諸威に戰勝せる將軍の麾下にある獨逸諸師團は同じ將軍の下に芬蘭の自由のため跋起せる戰士と結束して芬蘭の國土を防衛しつつあるのだ。東プロシアより南はカルパチア山脈に至るまで前記諸師團は獨逸の東部國境に沿つて待機してゐる。プルト西岸及ドナウ下流に沿つて黒海沿岸に至るまで獨逸兩國將兵は羅馬尼亞主席アントネスコ將軍の指揮の下に堅く結束してゐる。

此の戰線の使命は最早各國の防衛にあらずして實に全歐羅巴、我等總ての安全の確保にあるのだ。即ち今日余の、獨逸國と獨逸國民の運命と未來とを復しても我將兵の双肩に委ぬべく決意するに至つた所以である。

神よ、希くば此の最大な戰爭に加護あらん事を。』

右布告發表と同時に、リツペントロツプ外相はデカノゾフ駐獨蘇大使に對し、左の如きドイツ政府の公式覺書を手交した。

『獨逸國政府は明かに獨逸國及びソ聯の權益の調整を圖らんとする希望を以て一九三九年夏季ソ聯と交渉を開始したのであるが、一方國家主義に屬し之に依つて來る處の權利と義務とを擁護する國家と他方世界革命を準備するコミンタインの一派に屬する黨派に依り支配され國粹國家の崩壞の爲に努力する國との間に諒解を成立せしめる事は決して容易なる使命ではない事が明瞭であつた。それにも拘らず獨逸國政府はソ聯との協力を決意したのであつた。』

獨逸國政府はソ聯内に於ける或種の事件及び國際部門に於けるソ聯政府の或種の措置の如きは此の原則から遠ざかり、尠くとも外國民族を崩壞せしむるが如き從來の方法を廢止するが如きは可能であるが如く確信したのである。茲に於て一九三九年八月三十日不可侵條約が締結せられ同年九月二十八日兩國間の國境及び友好協定が調印を見るに至つたのである。

事實獨逸國政府はソ聯との不可侵條約締結以來そのソ聯に對する政策の根本的改革を斷行し、その日以来ソ聯に對して極めて友好的態度を採るに至つた。獨逸國政府はソ聯と締結した條約の意義は勿論精神に於いても忠實に履行した。之のみならず獨逸國政府は自らの血を流して波蘭を征服し、ソ聯建國以來の外交的大成功に援助したのであつた。従つて獨逸政府がソ聯の獨逸國に對する態度も亦同様であらうと信じたのは當然であつた。獨逸政府は此の想像が根本的に間違つてゐたのを遺憾ながら早くも認めた。

事實上コミンタインは條約締結後各部門に亘り又もや活潑に活動を開始した。此の活動は單に獨逸國內に於てのみならず、獨逸と親善關係を有する諸國或は中立國及び獨逸軍に依つて占領せられた歐洲地域に迄及んだ。條約に公然と違反するのを避ける爲、此の方法は手を變へ品を變へ極めて用意周到にして且狡猾極まる偽裝が行はれた。ゲー・ペー・ウー長官クリロフは此の目的の爲の組織的教育を指導した。ソ聯の外交官、特にブラーグに於ける總領事館は之に對し貴重なる援助の役割を演じた。コミンタインの凡ゆる崩壊工作及び間諜行爲に關しては廣範に亘る證據文書及び資料書類が現存してゐる。專屬の實驗室内でサボタージ用爆彈及び燒夷彈を製造するサボタージ團が組織された。斯くの如き陰謀は尠くとも十六隻以上の獨逸船舶に對し實行された。又、ソ聯在住の獨逸人が本國歸還に際しては彼等を極めて陋劣な方法でゲー・ペー・ウーの目的の爲に獲得するのに利用した。

獨逸國以外の歐洲に於て行はれたるソ聯の破壞工作に關して言へば、殆ど凡ゆる獨逸と友好關係にあるか又は獨逸により占領されたる諸國に及んでゐた。即ち、例へば、羅馬尼國內ではソ聯から持ち込まれた宣傳ピラにより同國內の凡ゆる困窮状態は獨逸の責任だと誣ひられてゐた。一九四〇年夏にも、ユーゴスラヴィアに於て、ツヴェトコヴィツチ政権と伯林及び羅馬尼政府との間に結ばれた條約に對して抗議しろ、と呼び掛けた宣傳ピラが撒かれた。アグラムに於ける或る集會に於ては全南東歐がソ聯の保護領と稱されて、それはやがて獨逸武力の弱化を希望し延いて獨逸がソ聯に所屬すべきものとされた。ベルグラードのソ聯公使館ではソ聯から持ち込まれた斯る宣傳の證據文書が獨軍部隊の手に入つた。洪牙利では此種宣傳は就中ルチニア地方の住民を煽動した。反獨使職の特に活潑に行はれたのはスロヴァキア及び芬蘭に於てであつた。佛、白、蘭の諸國では反獨逸守備軍使

嘆が行はれた。獨逸民政治下「波蘭」では特に巧妙な假面の下に斯かる使嘆が行はれた。希臘が樞軸軍に依つて占領されるが早い、其處でもソ聯は直ちに宣傳に取りかかつた。勃牙利では三國同盟参加に反対の宣傳及びソ聯との保障條約支持の宣傳が行はれた。羅馬尼では鐵衛團内では宣傳により、及び同團指導者中、羅馬尼軍グロリアを操つて今年一月二十三日の反亂計畫が行はれたが、その背後にはモスコ、ボルシエヴィストの手が動いてゐた。これに關しては動かし難い證據が存在する。ユーゴスラヴィアに關して云へば、同國の使節ゲオルゲヴィツチが既に一九四〇年五月にモスコに於てモロトフとの會見中に、ソ聯が獨逸を以て明日の最大の強敵と看做してゐるとの確信を得てゐる確たる證據を獨逸國政府は押へてゐる。

之等の證據は歐羅巴に於けるソ聯の夥しい反獨宣傳行爲の内の僅かな一部分にしか過ぎない。ソ聯の協定や聲明は何れも、前述の今次戰局推移中に益々明かとなつた諸事實に照らして見る時は、全く故意の欺瞞に過ぎない事が明かとなつた。斯くて、友好的諸條約の締結はソ聯にとっては單に戰術的衝策に他ならなかつた。この事はベルグラード占領後同地のソ聯公使館内で發見されたロシア語文書中の次の如き言葉を以つて赤裸々に曝露された。

「ソ聯は時機到來せば直ちに統治するであらう。樞軸側はその兵力を著しく消耗させたのでソ聯は突如對獨襲撃に出でるであらう」

モスコのソ聯政府は獨逸國民と率直に平和と友好關係の裡に生活したいと思つてゐるロシア國民の聲に従はずして、ボルシエヴィストの二枚舌による舊來の政策を踏襲し、よつて自ら重大責任を背負ひ込んだのである。ソ聯の政策は専ら、モスコの兵力を北は北氷洋から南は黒海に至る地域に亘り西方に向け進撃せしむるにあ

つた。この政策の發展はエストニア、ラトヴィア、リトアニアとの所謂相互援助條約の締結によつて開始された。ソ聯の次の手は芬蘭に向けられた。其後に數ヶ月を出でずしてソ聯はバルト海諸國に立ち向つた。就中リトアニア全國、即ち依然として獨逸の勢力圏に屬してゐた地域迄が一九四〇年六月十五日一片の最後通牒を以て、獨逸國政府に對し何等通告もなく、ソ聯により占領せられた。

獨逸軍の對佛英西部戰爭が未だ終了を見ざる折柄早くも對バルカン進出は行はれてゐた。ソ聯政府がモスコイ交渉に際しソ聯としては絶對にベツサラビア問題解決に手を出す意思なき旨聲明せるにも拘らず六月二十四日に至り獨逸政府はソ聯政府よりソ聯はベツサラビア問題を武力を行使して解決すべく決意せる旨通告を受けた。要求は更にプロヴァイナに迄擴大を見るに至つた。仍而獨逸政府は獨逸に援助を乞ひに出でた羅馬尼政府に對し、讓歩を説き更にベツサラビア、北部プロヴァイナをソ聯に割讓すべきやう勸奨した。

ソ聯のバルカン進出に依り俄然同地方の領土的問題は擡頭を見るに至り、特に維納仲裁會議後の如きは反獨政策の空氣は愈々濃化するに至つた。既存の證據材料は最近ベルグラードで發見された一九四〇年十二月十七日附モスコイ駐在ユーゴスラヴィア武官の報告書に依り確認を見るに至つた。同原文は左の通りである。

「ソ聯筋の供述に依れば空軍、戦車、砲兵の整備は本次戰爭の經驗に基き目下全力を擧げて整備中にして、その大部分は一九四一年八月迄には完了の見込である。惟ふに右は時間的に最小限度にて、それ迄の間はソ聯外交政策に表面何等變化を來さしてはならぬ」

バルカン問題に關するソ聯側の非友好態度にも拘らず獨逸は更に繰返しソヴェト社會主義聯邦と諒解を遂げんと努力を傾注し、獨逸外相はスターリン宛書翰中に於てモスコイ交渉以後の獨逸政府の外交政策に關し廣範な解説を試み、モロトフの伯林招請に關してはモロトフの訪獨中獨逸政府はソ聯が樞軸三國及び特に獨逸との友好的現實協働には獨逸がその代償としてソ聯の要求を容れざる限り、參劃の意思なき事を確認せざるを得なかつた。代償とはソ聯の北歐及び南東進出といふことであつた。モロトフが伯林に於て提出せる要求はその詳細を覺書の形式で發表された。要求の一部として、萬一土耳其が長期租借を目指してソ聯側が努力しつつあるソ聯空軍基地及びダルダネルス海峡に於けるボスポラスの海軍基地創設を拒絶するが如き場合は獨伊兩國は土耳其に對しこれが要求貫徹にソ聯側措置に便乗すべき旨が含まれてゐる。獨逸政府としては三國同盟締結諸國との協働の前提條件としてソ聯より提示せる斯るソ聯側の要求を容認することは不可能であつた。

右覺書は更に、ソ聯側が獨逸軍バルカン進駐直後勃牙利政府に宛てた非友好的聲明を想起した後、更に四月五日附セルビアのシモヴィッチ非合法政府との友好條約をも想起し、以下左の如く述べてゐる。

「合衆國ウエルズ國務次官は如何にも満足げな口吻でソ・ユ條約は場合に依つては重要極まる意義を有するに至るべく、恐らく友好條約とか不可侵條約以上のものである」

ソ聯政府はその政策の眞意を陰蔽せんとして種々に試みたが失敗した。之に屬するものには例へば數週間前に行はれた諾威、白耳義、希臘及びユーゴの諸公使の追放、クリツプス駐ソ英大使とソ聯政府との諒解の下に行はれた獨ソ關係に關する英國新聞の完全なる沈黙及び獨ソ關係は全く常態であるかの如く傳へた最近發表されたタス通信社の否認の如きは皆之である。

ソ聯の反獨政策は軍事方面に於ては、總ての出動し得べき軍隊を北はバルト海より、南は黒海に至る迄の長き前線に續々集中せしめるべく續行した。獨逸が全力を擧げて西部戦線に於て佛國と戦闘し、東部には極めて微力

な獨軍しか配置出來得なかつた時、ソ聯軍司令部は極めて有力なる部隊を獨逸の東部國境及び羅馬尼方面に集結した。

獨逸軍總司令部は本年初め以來獨逸外交首脳部に對しソ聯軍の積極的進軍を屢々指摘した。獨逸軍司令部の此の情報に就ては後日その詳細が公表せられる筈である。最近數日間の觀察の結果、ソ聯軍が何時でも積極的行動に出得る立場に在る事が明かに分つた。現在英國から入手せられる情報に依ればクリツプス英大使がソ聯とより密接な協力をなす爲交渉中であり、又從來常に反ソ態度を持してゐたビーヴァブルック卿が全力を盡してソ聯を援助し米國に對しても同様な行動に出でる様要求してゐるとの事であるが、之に依つて見れば彼等が獨逸國民を如何なる運命に陥れんと欲してゐるかが明かに分る。』

イタリア政府はドイツの對ソ宣戰布告に呼應して、六月二十日午前五時半、ソ聯に對し同様宣戰を布告した。チアノ外相は二十日朝、ソ聯駐伊大使ゴレルキン氏をキジ宮に招致し、ソ聯と戰爭状態に入る旨を通告した。

なほ、同じく二十二日、ドイツ政府は(一)蘇聯の宣傳、政治煽動工作に關するドイツ外務省の報告(二)蘇聯の反獨、反ナチ破壊工作に關するヒムラー親衛隊長、フリック内相の共同報告(三)蘇聯赤軍の反獨挑戰に關するドイツ軍司令部の報告の三報告書を發表したが、その内容は左の如きものである。

△外務省報告 ソ聯はルーマニア、ユーゴ、ブルガリア、スロヴァキア、ギリシア等バルカン諸國をソ聯の事

實上の保護國とするため外交機關並にコミンテルンを通じてドイツの新秩序建設工作を悉く妨害し、更に歐洲で唯一つ共産黨の合法的活動が許されてゐるスエーデンを中心に舊ポーランド、フィンランドでも國民の間に反獨氣運を醸成することによつて獨ソ協力を系統的に破壊したが、殊にセルビアのクーデター陰謀に際しては英米と共謀してシモヴィツチ反獨政府にあらゆる援助を與へた。更にトルコを反獨戰爭に馳り立てんとしたのもソ聯である。最近は米國に對しても頻りに接近工作を試みた。

△内務省、親衛隊報告　コミンテルンは非合法的破壊活動の新戦術として廣汎な反獨破壊工作を組織する方針を採用、ストックホルムを本據に、一九三九年來續々共産黨幹部をベルリンに送込み軍需工場の作業妨害を企てた。占領地及びフランスに向つても同様の戦術がとられたが殊に不可侵條約締結後は活動を中止するどころかモスクワで養成した妨害分子を續々侵入せしめ軍需工場、鐵道、船舶の破壊陰謀を續行しそのため船舶丈けでも獨十六隻、イタリー三隻がその犠牲となつた。一方ソ聯の獨經濟、軍事、政治に關する諜報活動はいよゝゝ露骨になり、殊に嘗つて内務人民委員部諜報課長だつたデカノゾフが駐獨大使になつてからソ聯外交機關の諜報活動は極めて活潑となつた。

△獨軍司令部報告　赤軍は獨ソ國境一帯に亘り頻々と不法越境を敢へてして來たが、本年二月十日から六月六日迄に赤軍飛行機の獨國境上空不法越境は實に四十一回に上つた。一九三九年十二月から四〇年二月迄に赤軍兵士の越境は十五回に及び最近は極東兵力を殆ど撤收して獨國境に集結事毎にドイツを脅威せんとする態勢を示した。

一方蘇聯側に於ては、同じく二十二日午後五時シュューレンベルグ駐蘇獨大使が宣戰の布告を蘇外務

當局に通達するや、蘇軍當局は即時全赤軍に對して『侵略者を阻止攻撃、蘇聯國境より驅逐すべし』との命令が發せられ、次で同午後零時モロトフ外務人民委員がラジオを通じて左の如く獨蘇開戦を全國民に宣言した。

『余はソ聯政府並に政府首腦スターリン最高會議議長の命によつて次の聲明を行ふのである。本日(二十二日)午前四時獨軍部隊はソ聯に對して何等の要求をも提示せず又宣戰布告も行はずして我國に對し攻撃し來つた。獨軍は多數の地點から我が國境を攻撃し來り、又飛行機を以てジトミール、キエフ、セヴァストポリル、コヴノ其他の諸都市を爆撃二百餘名の死傷者を出した。敵側は又ルーマニア領、フィンランド領からも空襲及び砲撃を開始し來つた。』

我國に對するこの攻撃は文明國の歴史上全く類を見ない背信行爲である。我國に對する今日のこの攻撃は獨ソ間には不侵略條約が締結されてをり、ソ聯政府は最も忠實に本條約の規定を固く遵守してゐた事實を無視して行はれたものである。この攻撃は不可侵略條約締結以來今日に至る期間を通じてドイツは條約履行に關してソ聯が唯一件なりとも違反したことありとの理由を見出し得ないにもかかはらず無暴にも行はれたものである。ソ聯に對するかかる掠奪的攻撃の全責任は疑もなく完全にドイツのファシスト指導者の負ふべきものである。而して五時半に至り即ち不法攻撃の既を開始した後に至つてシュレーンブルグ大使は獨政府を代表して外務人民委員たる余に對し「ドイツ政府はドイツ東部國境附近に赤軍が集結してゐる事實に鑑みソ聯に對し戰爭開始を決意するに至つた」旨通告し來つた。

之に對し余はソ聯政府を代表して「極く最近に至るまでドイツ政府はソ聯に對し何等要求を提示したことはなくドイツはソ聯の平和的態度を無視して攻撃を開始したものであり、この理由によりファシスト・ドイツこそ正しく侵略者である」旨回答した。尙ほ余は政府の訓令に基きソ聯軍及び空軍は如何なる地點に於ても未だ國境を侵犯した事實はないと明確に附言しておいた。従つて本今朝ルーマニアのラジオがソ聯空軍がルーマニア飛行場を爆撃したと放送したのは全く虚構である。挑戰的言辭である。更に本日ヒットラー總統は遲蒞きにソ聯が獨ソ不可侵略條約を忠實に履行しなかつたと非難した布告を發したがその全文も亦全く虚構であり挑戰的言辭に外ならない。然しとにかくソ聯に對する不法な攻撃が既に開始された以上ソ聯政府もソ聯軍隊に對して速かに出動掠奪的攻撃を撃退し獨軍部隊をソ聯領土から驅逐する様命令を發した。とはいへ今回の我々に對する攻撃はドイツ國民即ちドイツ勞働者、農民及び知識階級によつてなされたものではない。ドイツ國民勞働者、農民、知識階級が如何に壓迫に苦しんでゐるか我々はよく知つてゐる。今回の攻撃はフランス人、チェック人、ポーランド人、セルビア人をすべて奴隸と化し、ノルウェー、ベルギー、デンマーク、オランダ、ギリシアその他諸國を征服蹂躪したドイツのファシスト支配者一派の仕業である。ソ聯政府はわが果敢なる陸、海軍及び勇猛荒鷲の如き空軍が祖國及びソ聯國民に對する榮譽ある義務を美事に果し、侵略者に對し潰滅的打撃を與へることを確信してゐる。わが國民が傲慢不遜の敵の攻撃に立ち向はねばならなかつたのは今回が始めてではない。ナポレオンのロシア侵略に際してもわが國民は祖國防衛の爲に應戦しナポレオンは遂に敗北し没落の運命を辿つた。傲慢の餘りわが國に對して新たな十字軍を宣したヒットラー總統の落ちゆく運命もまたこれと同じであらう。赤軍及びソ聯全國民は再び祖國のため、ソ聯のため、名譽のため、自由のため勝利の戦を闘ち取るであらう。ソ聯政府はソ聯全國民

が勞働者も農民も知識階級も男子も女子もすべてが心から義務を遂行しその職務を完うするであらうと固く確信してゐる。ソ聯全國民は今や從來にもまして固く團結一致して立向はなければならぬ。ソ聯國民の各員は赤軍海軍、空軍のあらゆる要求を充足し敵に對する勝利を確保するため自己自身及び同胞に對して訓練組織及び眞にソ聯愛國者たるに適はしい沒我的獻身的行爲を要求しなければならぬ。ソ聯政府はソ聯國民諸君が我々の光輝あるボルシエヴィク黨の周圍に、我々のソ聯政府の周圍に、我々の偉大な指導者同志スターリンの周圍に更に一層緊密に結集せんことを要望する。我々の戰は正義の戰である。敵を打ち倒せ、勝利は我等のものだ。』

なほ、蘇聯情報局次長ロソフスキーは、六月二十九日、開戦以來、最初の新聞記者團との會見に於て、去る二十二日のヒットラー總統の宣言及び獨外務省の對蘇覺書等に就て指摘されたドイツの對蘇攻撃の理由を反駁して、次の三點を強調した。

- 一、ヒットラー總統は開戦宣言中でソ聯側の獨國境侵入の不法を責めてゐるが、事實は全く逆で本年一月から六月二十一日迄の間にソ聯機の越境事件は僅か八回に對し獨機は實に三百二十四回に及んだ。
- 二、リツベントロップ外相は二十二日の覺書中でソ聯が本年三月反獨共同戦線結成を條件としてトルコに保障を與へたと述べてゐるが、當時のソ聯の聲明を想起すれば獨外相の覺書が如何に非常識なものであるか明かである。

獨ソ開戦後トルコは米國と同様イラン、アフガニスタンと共に中立維持を宣言したが、一體中立を宣言することが反獨戦線の結成を意味するのであらうか。

三、ヒットラー總統はモロトフ外務人民委員がベルリン訪問の際、ダルダネルス海峡のソ聯へ讓渡を要求したと言つてゐるが、その事實無根なることは既にソ聯政府が聲明したところである。』

第十章 獨蘇開戦と各國の動向

六月二十二日未明、ヒットラー總統の命令一下するや、全國境に待機せるドイツ軍の精銳は、潮の如く赤軍に向つて殺到し、こゝに世界戦史空前の大戦争が展開されたのである。この獨蘇戦争の勃發によつて東部戦線の出現となり、こゝに今次歐洲大戦は新しき段階に入り事態は俄然複雑重大を加へたのである。即ち、獨伊を中心とする樞軸諸國は一齊に蹶起してドイツと共に反共十字軍を結成し、また、一方、英米は蘇聯を支持し、こゝに獨伊對、英米蘇の二大陣營の抗争は發展し、戦局の中心は東歐乃至近東西亜に移行するに至つたのである。

ヒットラー總統の宣戦布告が發表されるや、ローマに於ては二十二日早朝、チアノ伊外相がゴレルキン駐伊蘇大使を招致して、伊蘇兩國は二十二日午前五時三十分より戦争状態に在る旨を通告したがさらに二十六日、對蘇遠征軍の派遣を發表した。

ルーマニアも同じく二十二日對蘇宣戦を發表すると共に、アントネスコ首相は全ルーマニア軍に對

し左の布告を發しベツサラビアに進撃を開始した。

『ルーマニア軍將兵諸君、余はかねてルーマニアの歴史から黒點を拭ひとるべきことを諸君に約束してゐた。今日つひに神聖なる戦ひの時が到達した。今や東に西に敵を粉碎せよ、諸君の奴隸化された同胞をボルシエウイキの絆から解放せよ、舊ベツサラビア及びブコヴィナの森を回復せよ、諸君は今世界における最強の獨軍と共に闘はんとしてゐるのである。』

クロアチア政府は二十二日、ドイツ支援の聲明を發表したが、さらにフランス及びスペインと相呼應して歐洲新秩序建設のためにボルシエウイズム打倒の十字軍に對し、一般國民及び現役兵より成る義勇軍を派遣することに決し、その旨を六月二十七日ドイツ政府に通達した。

スロヴァキアは、六月二十三日、チソ大統領は『スロヴァキア軍はドイツ軍と聯合、反共戦線に参加するため國境を越えて蘇聯に進撃を開始した』と布告したが、翌二十四日、正式に宣戰を布告した。ハンガリア政府は六月二十四日、蘇聯との斷交を宣言したが、さらに二十七日、蘇聯との間に戦争状態の存在する旨を公表した。

フィンランドは、六月二十三日、オーランド島附近に機雷を布設し、二十五日には凡ゆる手段を以て對蘇防衛を爲すべき旨を宣言し、二十六日大統領はラジオを通じて、前年平和條約以後に於ける蘇聯の對芬侵略政策を指摘し、殊に今次蘇軍のフィンランド進撃に對する防禦の固い決心を披瀝し、國

民の奮起と一致協力を要請した。これによつて正式に宣戰の布告はないが、蘇聯との戦争状態を確認したものと認められた。なほ、二十七日、東京のフィンランド公使館は左の聲明を發表した。

『芬蘭はソヴェトに對し宣戰布告を爲さざりしも戦争状態に在るを認むるに至れり、事實ソヴェト飛行隊は數度の公然たる抗議の申込を爲したるに拘らず芬蘭の全國土に涉り都市爆撃を行へり、ソヴェトは既に昨年十一月に於て芬蘭を併合すべく企てたり、芬蘭は今や國防に努力す、即ち自衛權の發動に他ならず、なほ芬蘭は英獨對戰に關しては中立的立場を堅持すべく萬全の努力を傾倒するものなり。』

アルバニアも六月二十九日を以て蘇聯に對する宣戰を發表した。

デンマーク政府は六月二十五日、蘇聯との外交關係の斷絶を宣言したが、然しデンマークは依然として非交戰國たる政策を維持する旨を確言した。

スペインに於ては開戰の報至るや全國に反蘇運動が行はれ、六月二十五日、スネル外相は『蘇聯はスペイン内亂の責任者であり、スペイン民衆の眞の敵である』と絶叫し、フアラヘン黨本部は二十六日から義勇兵の募集を開始した。

フランスのヴィシー政府は、六月三十日、ダルラン副主席がボゴモロフ駐佛蘇大使に對して、蘇聯との國交斷絶を通告したが、これと同時に外務省は『フランス政府は蘇聯政府の外交官並に領事館員が我國の保安及び秩序を亂す如き行爲を爲したることを確めた。依つて政府はモスクワとの外交關係

を斷絶するに決定した。』との聲明を發表した。

スウェーデン政府は二十二日、開戦と同時に、獨蘇戦争に對してスウェーデンは飽迄も中立の立場を嚴守し、對蘇戦争に参加する意思のないことを表明した。なほ、二十五日、ノルウェーよりフィンランドに向ふドイツ軍一ヶ師團のスウェーデン鐵道による輸送を許可した。

トルコ政府は、六月二十三日、『トルコ共和國は獨蘇開戦によつて惹起されたる事態に對し、トルコの中立を宣言す』と發表したが、なほ、二十五日、アクタイ駐蘇大使を通じモロトフ外務人民委員に對して『獨蘇戦争により惹起されたる情勢に對しトルコ共和國政府は今回中立を宣言することに決した』と通告した。

イランの中立に關しては、六月二十六日、蘇聯政府がタス通信を通じて『サイド駐蘇イラン大使は二十六日外務人民委員部に對しイラン政府は完全なる中立を堅持する旨を通告して來た』と發表した。なほ、獨蘇開戦と共に、リトアニアに於ては二十三日、元駐獨公使のラジス・スキプラを主班とする新政府が組織され左の聲明を發し獨立を宣言した。

『リトアニア人はあらゆる手段をもつて自由と獨立のため戦ふであらう。リトアニア人はドイツの援助のもとに武器をとり、ボルシエヴィズムの束縛からリトアニアを解放するため起つべきであり、かつリトアニア人は最も友好なる態度をもつて獨軍を迎ふべきである。』

即ち、現在歐洲に於ける獨立四十四ヶ國（フランス、オランダ、ノルウェー、ベルギー、ギリシアを除く）の中、九ヶ國が蘇聯に對して宣戦し、または斷交し、或はドイツ支持の態度を表明したのであるが、その九ヶ國中のドイツを初めイタリア、ルーマニア、フィンランド、スロヴァキア、ハンガリア、クロアチアの七ヶ國は直接對蘇作戰に参加し、また、スペイン、デンマーク、スウェーデンの三國もドイツを支持し義勇軍の派遣、外交關係の斷絶等の形式で反共戦線に参加するに至つたものと見られ、こゝに今次獨蘇戰爭の重大なる意義と性格が存在するのである。これに關して六月二十七日獨情報局長シュミットは左の如き談話を發表した。

「ハンガリアもフィンランド、ルーマニア、スロバキアに倣つて獨伊の指導下に反共戰爭に参加することになつた。フランス、スペイン、オランダ、ノルウェー、スウェーデン等でも義勇兵として前線に出動することを申出る國民主義分子が愈々増加してゐる。ベルギーのヴァロン、フラマン民族の間やフランスでも今や國民主義運動が澎湃として起り、ボルシェヴィズム打倒の歴史的企圖に寄與せんとしてゐるが、更に従來蘇聯と外交關係を持たず、反共態度を一貫してきたポルトガルでも民衆が熱狂的に今回の反蘇戰爭を支持してゐる。新興クロアチアは既にその國民と兵力を擧げてボルシェヴィズム打倒のために提供する用意があることを獨伊に申出てをリスウエーデンも亦獨軍の通過に同意することによつて歐洲共同體への連帶を明かにした。かくの如く歐洲諸國が大小を問はず同一の目標の下に共同戦線を張つたことは歐洲の歴史に未だ嘗てなかつたことで今回の反共戦を契機に歐洲内部の連帶感情は愈々強化されよう。歐洲以外の大陸がこの事態に狼狽して外部から如何なる妨害を加へよ

うと歐洲共同課題を解決せんとする我等の決意は微動だにするものでない。』

一方、英國に於ては、六月二十二日、獨蘇開戦と共に、同夜チャーチル首相が全世界に向けて左の如き放送を行ひ、英國が對蘇援助に起つべきことに決定したること並に米國もまた對蘇援助を與へんことを要請した。

『ヒットラーと戦ふ如何なる人物又は國家も我々の援助を受けるであらう。またヒットラーと共に戦ふ如何なる人物あるひは國民も我々の敵である。獨軍はソ聯の國境を侵犯したものであり、英國の政策が如何なるものであるべきかについては疑問の餘地がない、我々は一つの目標と更改すべからざる目的を持つて居り、ヒットラー及びナチス政權のすべての痕跡を破壊せんと決意してゐるのである。我々は陸、海、空において飽くまでヒットラーと戦はんとするものである。英國は決してヒットラーと交渉しないであらう。英國はヒットラーと戦ふ如何なる國家に對しても援助を與へんとするものである。これが我々の政策であり、これが我々の宣言である。我々はソ聯およびソ聯國民に對して我々が與へ得る如何なる援助をも與へんとするものである。しかし我々は世界の各友邦が我々と同様の方針に出ることを希望するものである。余はここに米國の行動について語らんとするものでないが、若しヒットラーがソ聯に對する攻撃をもつて大民主義陣營の目標を少しでも分裂させ、又はその努力を弛裂せしめ得るものと想像してゐるとすれば、ヒットラーは傷むべき誤算に陥つてゐるといはねばならぬ。ソ聯の危険は我々の危険であり、また米國の危険でもある。我々はソ聯國民がその領土を防衛しつつあり、且つその首腦者が最善の努力を盡して抵抗を試みんとその任務を果しつつあることを知つてゐる。またソ聯への侵入

はインドを含む他の諸領域をも戦火に投ぜしめんとする踏石に過ぎない、また、英本土侵入企圖の前奏曲でもある。ヒットラーは米國よりの援助が到來する前に英國を制壓せんとしてゐるのである。以上のごとき見地から英國はソ聯に對し技術的および經濟的援助を與へんとするものである。英國は戦争の續く限り晝となく夜となくドイツを爆撃するであらう。かくしてドイツが人類の上に注ぎたる苦酸をドイツ國民自らをして味はしめるであらう。然して今後六箇月間に英國は米國の援助を以てその目的を貫徹し得るであらう。』

これに先つて英國政府は、既に蘇聯政府に對して、對獨共同戦線を結成するために、軍事、經濟使節團をモスクワに派遣すべきことを申入れたが、翌二十三日、蘇聯政府がこれを受諾したことを發表した。次で二十四日、イーデン外相は下院に於て、獨ソ開戦までの外交經過並にその後の發展について左の如き報告を行つた。

『余は下院及び國民が對ソ問題につき現實的な見解を採ることを希望する。我々は「的」即ちヒットラー・ドイツ——から目を放してはならぬ。そして又ヒットラー總統も亦彼の「的」から目を放してゐないことに敬意を奉ることとしやう、彼の「的」は英帝國であり彼は英帝國を以つて彼の世界制覇の途上に於ける最大の障礙であるとしてゐるのである。對ソ進撃はヒットラー總統の目的ではない、手段に過ぎないのだ。』

ヒットラー總統は對ソ攻撃により、あの尨大な國家の軍事力を崩壊させ、英國と最後の決戦を交へんとする時又はその決戦の後に東方からの來るべき脅威を除去しやうとしてゐるのである。吾々はヒットラー總統の「我が闘争」に於て決定されたドイツの對ソ政策の時代に還つて來たのだ。ヒットラー外交は猫の目のやうな變り方を

やるが本質的にはこの根本政策から餘り遊離してゐたことはなかつた。全世界の人々は一瞬たりともこの無限の世界制覇の大野心を臆面もなくさらけ出した彼の「根本的外交政策」を忘れてはならない。如何なる協定も條約もヒットラー總統にとつては新しい侵略に對する麻痺劑に過ぎない。

今日の如き逼迫した外交情勢の下に在つて英ソ關係の變遷を長々と分析して見ても何の用にもならぬことは明かである。然し余は之を要約して最も喫緊なりと信ずる諸事實を想起することとしやう。一九三五年余はモスクワに於て外交政策の重大問題について英ソ兩國間には何等の衝突すべきものはないと云ふ點につきソ聯政府と完全な意見の一致を見た。余は率直に事實を表明したこの言葉を今でも眞理として信じ、且つ兩國の關係はこの事實の相互承認により利益を受けるものだと思つてゐる。そして英ソ兩國關係は一九三五年以來幾多の變化を辿つたがこの相互間に完全に一致した意見は今日でも眞理として残つてゐる。兩國の政治組織は根本的に相反し國民の生活様式は全く異つてゐるが、今日我々が直面してゐる現實の事實乃至政治的問題に暗雲をかけることは出来ない。

ドイツはソ聯に對して慎重に計畫された侵略を行ふべく準備してゐた。今から二年前ドイツはソ聯と不可侵條約を締結したがそれ以外はドイツは一度としてその履行につき不満を洩したことはない。ドイツが無警告で對ソ進撃を開始した時ですら條約履行の問題については一片の抗議も提出されなかつたし又この問題につき如何なる種類の交渉も行はれてゐなかつた。最近リツベントロップ獨外相はその聲明の中で「ドイツが英軍のギリシア上陸に對抗してブルガリア及びルーマニアに兵力を集結してゐる間にソ聯は英國と協定を結びドイツの背後を脅すために公然とユーゴスラヴィアに政治的支持を與へ秘密裡に軍事援助を初め更にトルコに對し保障を與へブル

ガリアとドイツに向つて侵略的態度を採るやう従進してゐた。」と聲明した。

實際我々はバルカン諸國民の團結を維持するために彼等がドイツに蹂躪される前にソ聯と協定を結ぶことを非常に歓迎してゐたのだが不幸にしてかかる英ソ協定を締結する機會は一度もなかつたのである。實際この種の性質の協定は一もなかつたのだ。何故ならば最近の英國は對ソ外交はソ聯が獨ソ關係に餘りに忠實なるが故に常に手廻れの形になつてゐた。我々は英ソ協力の途を塞ぐ障礙を除去する可能性について再三研究を行つたがその都度一度び通商問題乃至は政治問題に觸れるとソ聯はドイツとの關係を顧慮して交渉に入るの用意のないことが判つたのである。英國の態度も同様明瞭である。英國としては英ソ双方の利益を基調とし實際上互惠主義に立脚しなければソ聯と如何なる取極めをも結ぶ考は毛頭なかつた。併しかかる基礎は獨ソ條約があるために見出し得なかつたのである。

チャーチル首相がその聲明に於てスターリン議長に危機の切迫を警告したのは獨ソ開戦の直前であつた。英國外務省はその入手した情報によりヒットラーがその常套手段通り獨ソ不可侵條約の煙幕にかくれてソ聯を攻撃せんとしてゐることを確信してゐた。自分はチャーチル首相の同意を得てマイスキーク・ソ聯大使の來訪を求め外務省の情報を話しソ聯が直面してゐる危機を知らせてやつた。マイスキーク大使に請はれるままに自分は更にこの情報につき詳細に話してやつたが、此の切迫した時期に至つてもソ聯は尙ほ獨ソ條約に對するソ聯の態度に疑惑を與へる様な意見の開陳を差控へてゐた。

それは二三週間前のことであつた。そこで余は又クリップス駐ソ大使に對し將に發展せんとする事態に關して協議するため歸國する様訓令した。かかる時こそ余はクリップス大使の經驗や意見が大切だと考へたから大使

の歸國はすぐ實現した。議會も國家もこの困難な事態に於けるクリップス大使の活動に對しては大いに感謝しなければならぬ。クリップス大使はその活動と努力で英政府の基本的考へは英ソ關係を常に正常の基礎の上に保たうとするものであることを充分ソ聯側に知らしめた。従つてクリップス大使が再びモスクワに歸任した曉においては彼はその優れた才能を充分に發揮してソ聯のために種々忠言をなす外、英國の對ソ援助の指導に當るであらう。而して英政府の對ソ援助の意見については既に聲明されてゐる。

英ソ兩國の商議は目下進捗中である。余は未だその完全なる成果をここで明かにし得ないが余はマイスキ―ソ聯大使より次の如き保障を接受した。即ち「ソ聯はドイツを撃破せんとする英ソ共通の事業に協力する目的を以つて軍事、經濟使節をソ聯に派遣せんとする英政府の申入れを受諾した。一方ソ聯は我方に對し近く行はれんとする英ソの軍事提携期間中に於ては英ソ兩國は相互に互惠的基礎の上に立つて援助し合はねばならぬ」英政府はソ聯の斯かる見解に賛意を表明しこれを確認した。

獨の全世界に跨る支配慾を證明する必要ありとすればドイツが嚴肅に繰返した誓を自ら無視してソ聯に對して行つた背信の攻撃こそ人類に提示された最近の證左である。ヒットラーは己が誓言に對し又もその叛逆者となつた、「冬には甘言を、春には爆彈と戰車を」これが世界征服を目指すヒットラーの大、小諸國征服の手である。最早ドイツの偽態は世界を欺くことは出來ない、總ての國はその政治組織が何であらうとまたその地理的位置が如何に大であらうとナチ制度の存在は彼等の安全にとつて大きな而も即時の危険であることを悟らねばならぬ。

英國には恐らく他の如何なる歐洲諸國よりも共產主義者が尠なかつた。我々は常に共產主義を嫌惡して來たがしかし今ではこれは問題ではない。ソ聯は不貞な裏切によつて無警告に侵略された。ロシア人達は彼等の國土の

ために世界を支配せんとする人間と戰つてゐる。この侵略者と戰ふことは同時に我等の唯一の任務でもある。この最近の侵犯に直面して我々はこの決意を弛緩せしめないのみか更に努力を強化せねばならぬ。ナポレオンは曾て「余は常に四、五百萬の人々と共に進軍して來た」と云つたが、我々はヒットラー總統最近の侵略行爲の結果今や幾億萬の輿論と共に進軍することになつた。

今回再びその國土は戰場と化しその國民は又も自ら犯した過失の爲ではないのに塗炭の苦しみ呻吟してゐるわが同盟國ポーランドに對して衷心から同情の意を表明する。ポーランド國民は何時かはその勇氣により、或は又その體驗した類例のない苦難の試練を生かして自由を償ひ取るであらう。我々の確約する所も之である。

トルコは今回の紛争に對し中立を宣言した。英土關係は一九三九年十月の英土相互援助條約の調印以來非常に特殊な基礎の上に立つて來てゐる。トルコは我々の友好的同盟國である。英政府は今回のドイツ政府との交渉の經緯についてはトルコ政府から詳細報告に接してゐたので、獨土友好條約締結にも少しも驚愕しなかつた。英政府としてはかかる條約が締結されないことを希望するのは勿論であるが、何れにせよ今回の獨土條約の前文は兩當事國間に現に他國との間に有する條約、協定等を尊重する旨明言してゐる。トルコ政府はその國際諸條約の中では英土協定が一番重要である旨をくり返し英國に明言した。英土協定の不變なることはその成立以來特にわが駐土大使に度々保障したところであり、且つ最近二十四時間内にもう一度保障を與へた程である。

次にフィンランド公使は余に對し今回の紛争に對するフィンランドの態度はこれ迄も又今後も終始守勢的態度でソ芬外交關係も不變であること、更にフィンランド政府は自國が戰爭に捲き込まれることなき様希望してゐる旨確言したのである。余はフィンランドの行き方は正しく且つフィンランドにとつては唯一の途であつたと確信

する旨フインランド公使に語つた次第である。

余はワイナント米大使の英國歸任を衷心より歓迎する。大使は今回の本國滞在により大統領以下米國各方面と接觸し同時に米國が目下大重で對英援助に努力しつつある有様を親しく見聞して歸任されたのである。最近二、三日否茲二、三時間内にも我友米國が物質的、精神的兩面に亘り英國援助を繼續し更にそれを積極化せしめんとし、てゐる確證を幾多受け取つてゐるが、その援助こそはやがてドイツの抗戦力を粉碎するに充分なものであらう。英政府は「ヒットラー主義に對する一切の防衛は、それが如何なる所から出たものであらうとも結局ヒットラー打倒を促進するものである」とのウエルズ國務次官の聲明には全的に同意するものである。又ワイナント大使は歸任に際し米國が他迄我々を援助するとの決意を再び傳達された。我々の役割は全國民が一團となつてチャーチル首相が二晩前再びその達成を誓言された唯一且つ不變の目標、即ちヒットラー主義とナチス政權の覆滅の目的遂行に邁進し最終の勝利を獲得する迄斷じてその矛を收めないことであらう。』

英國政府の軍事經濟使節團はマクファーレン陸軍中將を首席代表とし、參謀次長のコリヤー海軍少將、參謀本部員マイルス空軍少將を代表とする軍事使節並にカドベリーを首席とし、エグザム陸軍大佐、ワイベート海軍大佐、デヴィス陸軍大佐を代表とする經濟使節と、他に石油専門技術者二名を隨行せしめたのであつた。使節團一行はモスクワに歸任するクリツプス駐蘇英大使と同行、六月二十七日モスクワに到着し、クリツプス大使と共にスターリン議長を初めモロトフ外務人民委員その他各當局者と連日協議を重ねたのであつたが、七月十二日、クリツプス大使とモロトフ外務人民委員との間

に軍事同盟が調印されたのであつた。この協定は英蘇對獨共同軍事協定及び附屬書より成り、その全文は次の如くである。

また、チャーチル首相は對獨蘇戰の情勢に備へ内閣を強化するために七月二十日、次の如く内閣の改造を發表した。(括弧内は舊職)

△文相バトラー(外務次官)△情報相ブレンダン・ブラケン(保守黨下院議員)△ランカスター公領尙書ダフ・クーパー(情報相)△國庫支出長官ハンケー卿(ランカスター公領尙書)△外務次官リチャード・コー(國民保守黨下院議員)△陸軍省經理長官マイケル・サンデス△情報省次官アーネスト・サートル(労働黨下院議員)△失業救済局長官ハーワード・ラムズボザム(文相)△BBC放送局總裁ハロルド・ニコルソン(情報省次官)△首相院内祕書官ジョージ・ワット大佐(保守黨下院議員)△航空省政務次官ヒュー・シーリー卿(自由黨下院議員)

英蘇對獨共同軍事協定

第一條 英ソ兩國政府は現在遂行中の對獨戰爭において相互に凡ゆる種類の援助並に支持を與へるものとす。

第二條 英ソ兩國政府は戰爭繼續中兩國相互の同意なくして休戰または和平條約に關する交渉を行ひまたはこれを締結することを得ず。

附屬議定書 本協定は批准を要せずして即時發効するものとす。

また、米國は開戰の翌二十三日、ウエルズ國務次官が新聞記者會見に於て蘇聯支持の聲明を發表したが、次で二十四日、ルーズヴェルト大統領も新聞記者會見に於て米國は蘇聯に對して最大の援助を

與へると言明した。さらに二十五日には、獨蘇戰爭に對して中立法を適用せぬことに決定した旨を發表したが、七月一日、ウエルズ國務次官が、蘇聯は米國に對して軍需品購入に關して申入れがあつた旨を發表し、米國は全面的に蘇聯を支持し、後には英國と共に蘇聯と軍事同盟を締結するに至つたのである。(第七編米洲の項参照)

蘇聯邦に於ては六月二十二日、開戦と同時に、蘇聯邦最高會議幹部命令を以て動員及び戒嚴令が布告され、各部門に互つて戦時體制が整備すると共に、六月二十七日には英國の軍事經濟使節を迎えて軍事同盟を締結する一方、米國に對して軍需品購入の交渉を開始する等、活潑なる外交工作を開始した。七月三日、スターリン議長は開戦以來初めての放送を行ひ、全國民並に赤軍將兵に呼びかけ戦況を率直に報告すると共に、祖國の危機に際し奮起を要請して次の如く激勵した。

「同志よ、市民よ、兄弟達よ、姉妹達よ、陸海軍人よ、予は今諸君に呼びかける。二十二日ドイツに依つて我祖國に對し開始された不信なる軍事的攻撃は目下引續き行はれてゐる。赤軍の英雄的抵抗に依りドイツの最優秀師團並に最優秀空軍は既に打破られたにも拘らず獨軍は進撃を續け新部隊を攻撃に参加せしめてゐる。ヒットラーの軍隊はリトアニアを占領しラトヴィアの大半、白ロシアの西部、西部ウクライナの一部分等の占領に成功し又獨空軍は爆撃機の作戦範圍を擴大しムルムンスク、オルシャ(白ロシア)、モギレフ、スモレンスク、キエフ、オデッサ、セバストポール等を爆撃してゐる、我々の國の上には大なる危険がかかつてゐる。

光輝ある赤軍が、若干の我都市及び地方をどうして獨軍に引渡すやうな事になつたか？獨のファシスト部隊

はファシスト宣傳員が誇らしげに絶えず宣傳するやうに眞に無敵であらうか？勿論否である。歴史は何れの國に於ても全く不敗の軍隊といふものが存在せず又存在しなかつたことを示してゐる。ナポレオン軍は無敵と思はれてゐたが、これとても露、英、獨によつて完全に破られた。カイゼル・ウィルヘルム二世の獨軍も第一次帝國主義戦争の時にあつてはやはり無敵軍と見られてゐたが同じくロシア並に英佛聯合軍により撃破され最後は英佛軍によつて潰滅されてしまつたのである。同じことは今日の獨軍についても言はねばならない、この軍隊は歐洲大陸においては未だ強力な抵抗を受けたことがないが、我々の領土において初めて強力な抵抗に遭つたのである。そして若しこの抵抗の結果獨ファシスト軍の最優秀師團が赤軍によつて撃破されたならば、これはナポレオンやウィルヘルム二世の軍隊と同じくこの軍隊も亦撃破され得るし、またされるだらうといふことを意味することとならう。然るにも拘らず我領土の一部が獨軍によつて占據されたのは事實を言へばドイツの軍隊は戦時下にあるため既に充分動員されて居り、ソ聯國境に持つて來た百七十個師は完全な準備を整へて行動開始の命令を待つてゐたのであつた。これに反してソ聯軍は現在なほ兵力を動員して前線に送らねばならぬ状態である。ドイツが全世界から侵略者と看做されるであらうことを無視して一九三九年にはソ聯との間に締結した不可侵協定を突如として裏切り之を蹂躪する舉に出たといふことは決して輕視し得ざるところである。

不可侵協定は兩國間の平和條約である、ドイツが一九三九年我々に指示したのは平和の協定だつたのだ、平和條約は平和を愛好する國の領土主權、獨立及び名譽を直接にも間接にも侵害するものであつてはならぬといふことである。周知の如く獨ソ間の不可侵協定は正しくかくの如き協定だつた。然らばソ聯はドイツとの不可侵協定締結によつて何を得たか、我々は一年有餘に亘つて國土の平和を保證し、またドイツが協定を無視してソ聯を攻撃

する危険がある場合これを撃退すべき自國の軍備を整備する機會を得たのである。これは確かに我々にとつての利益であり、ドイツにとつて不利益であつた。ドイツは條約を背信的に蹂躪してソ聯を攻撃することに依つて何を失つたか、ドイツの得たるところは一時的にその軍隊のため若干の有利な地位を得たに過ぎないが政治的にはドイツ自身を血に飢えた侵略者として全世界に暴露することによりドイツは損をしたのだ。獨軍の一时的な軍事的利益が結局一つの挿話に過ぎないことになることは疑ふべくもないであらう。一方ソ聯の政治的利益は莫大でありこれは獨ソ戦における赤軍の決定的勝利を齎すべき基礎として極めて重要な要素である。これこそ我勇敢な全陸海空軍、全ソ聯人民、而して歐洲、米國、アジアの全有識者並にドイツの背信的行爲を非難しソ聯に同情を寄せてゐるドイツの全有識者がソ聯政府の行動を承認しソ聯の措置が適正なものでドイツは敗北しソ聯は必ず勝利を得るものと見てゐる所以である。

強ひられた今回の戦争により敵フアシスト・ドイツとの死闘を展開するに至つた我軍は現在戦車と飛行機とを以て齒の先まで武装した敵に對し英雄的抗戦を行つてゐる、赤軍及び海軍は幾多の困難を克服して自己を犠牲としソ聯領土の一時をも敵に渡さざるため闘つてゐる。今や赤軍主力は無数の戦車及び飛行機を裝備して行動に移らんとしてゐる、赤軍の將兵は比類なき勇猛心を發揮しつつある、敵に對する我々の抵抗は次第に威力を發揮しつつある、ソ聯全人民は赤軍と腕を組んで祖國の防衛に立ちつつある、我祖國を蔽ふ危険を除去するには如何なることが必要か、又敵を撃滅するには如何なる措置が必要であるか就中ソ聯人民が祖國を脅威する差迫れる危険を認識し、一切の自己満足、輕率を棄てることが緊要である。平和的建設的勞働の氣分は戦前には極めて自然であつたが、背景の一切が根本的に變化した今日では致命的なものである、敵は我々の汗を以て潤した土地を奪ひ

我等の勞働によつて獲得せる穀類と石油を奪はんとしてゐるのだ、更に敵は地主の支配やツアリズムを回復せんとし、ウクライナ、白ロシア、リトアニア、エストニア、ウズベク、タタール、モルダヴィア、デョルヂア、アルメニア、アゼルバイジャンその他のソ聯自由人民の國民的文化及び現状を破壊し、これをドイツ化してドイツ王侯貴族の奴隸としようとして企圖してゐるのだ、かくの如く今回の戦争はソ聯及びソ聯人民にとつて死活的戦争であり、ソ聯人民が自由を維持し得るか將又奴隸となるかの關ヶ原である。我々の陣營には不平をいふ者や臆病者、恐慌誘發者、脱走者があつてはならない。ソ聯人民は固ひに臨んで恐れず自由のための愛國的戦争、ドイツの奴隸化に對する我々の戦争に自己を犠牲にして参加しなければならぬ、ソ聯の偉大なる創始者レーニンは常にソ聯人民の主たる美德は我々の敵に對し協力して闘ひ而も勇敢に怖れず闘ふことであらねばならぬと云つた。我等の諸組織の全部は直ちに戦時體制の下に再編成しなくてはならない、總ては前線の利益と敵覆滅の事業の爲に犠牲にされねばならぬ、ソ聯共和國聯邦國民は敵に對して奮起し、その權利と土地を防衛しなくてはならぬ、赤陸海軍全ソ聯邦國民は一致してソ聯の寸土々々を防衛し我等の町、村の防衛のため最後の血の一滴まで注ぎ、我國民が生れながら有する創意と叡智を發揮しなくてはならない。我等は全力を擧げて赤軍を支援し、その構成分子を強化し、その必要とする總てを確保しなくてはならない、我々は赤軍の背後を強力にせねばならぬ、我々の仕事はすべてこの一點に集中し、全産業は更に高度の生産力を動員して小銃、機關銃、大砲、銃彈、爆彈、飛行機を生産しなければならぬ、我々は工場、發電所、電信電話施設の防衛を組織し全土に亘つて力強く防衛組織を備へねばならぬ、我々は敵が奸智に長けたる部隊なることを銘記し、すべての貨車はこれを撤去し一輛の機關車車輛は素より一封度の小麦、一ガロンの燃料と雖もこれを敵軍の手に残してはならぬ、コルホーズからは、すべ

ての家畜を、すべての穀物を安全なる場所に運び、地方當局者は欺瞞と虚偽の流説に迷はされてはならぬ、我々は、これら一切のことを想起し、犠牲に意氣阻喪してはならぬ、恐慌の煽動に乗り臆病となる者こそ祖國防衛を妨害するものであり、かかる國民は何人と雖も即刻軍法會議に附するものである。假令餘儀なく退却する場合においても後方に通ずる輸送機關、貴重な財産を始め撤去することの不可能な非鐵金屬、穀物、燃料の如きものは遅滞なく完全に、これを破棄する必要がある。敵占領地方では歩騎兵によるゲリラ部隊を組織しなくてはならない。敵軍と戦闘のために索制部隊が組織されなくてはならぬ。至る處でゲリラ戦を醸成し橋梁、道路、電信電話線を破壊し森林、倉庫、運輸機關を焼却しなくてはならない、非占領地域を敵とその共犯者にとつて堪へ得ざる状態に陥れなくてはならない、敵の一步步を阻害し一兵々々を殲滅しなくてはならぬ、その凡ゆる手段を組織せしめなくてはならない、ドイツとの今回の戦闘は尋常普通の戦争と考へてはならない、今次の戦争は二つの軍隊の戦争であると同時に全ソ聯國民のドイツに對する戦争である。

この戦争に於て我々は孤立無援ではない、この偉大なる戦争に於て我々はアメリカ及び歐洲國民の中に忠實なる聯合國を有し、のみならず専制ドイツ政府の下に奴隷化されたドイツ國民を有してゐる。今次の戦争は自由維持奴隷反對のファシスト軍の鐵蹄下に奴隷化される脅威に對して蹶起した共同戦線の戦である。この點に於いてチャーチル英首相のソ聯邦援助に關する言明及びアメリカ合衆國政府の我國援助用意の聲明は歴史的なものでありソ聯邦國民の胸奥を感謝の念で満した。我々の軍隊は無敵である。敵軍はやがて我軍の價値を自らの損害によりて學び知るだらう。赤軍數千の勞働者集團農民そして知識階級——これらの者は一致團結して侵略者との戦闘に起ち上りつつある、モスクワ、レニングラードの工場従業員は既に赤軍支援のため總動員の組織を結成した。

この總動員組織は敵軍侵入の危険に類するすべての都市に結成されねばならぬ、全勞働者は我々の自由と名聲と、そして祖國をドイツとの愛國的戦争に於て防衛すべく起ち上らねばならぬ、ソ聯國民の軍隊の急速なる動員を促進し不信にも祖國を攻撃し來つた敵軍を撃退するために我々は國防委員會を組織し、一切の權限をその手に委ねたのである、國防委員會は今や、その活動を開始し、ソ聯陸海軍に献身的支援を與へ敵を撃滅し、もつて勝利を確保すべくレーニン・スターリンの黨、ソ聯政府の下に馳せ参ぜんとする、全赤軍よ、我々の英雄的ソ聯軍とそして光榮あるソ聯海軍を支援するために、我等の全力、わが國民の總ての力は敵殲滅のために注ぎ盡さねばならぬ。』

次で七月十一日、作戰の基本的方向が三方面なることが判然となつたため、國防委員會は大本營に對して三方面軍司令部をそれ／＼設置することを命じ、北西方面軍司令官にはウオロシロフ元帥、西方面軍司令官にはチモシエンコ元帥、南西方面軍司令官にはブジョンヌイ元帥が任命され、『各司令官はすでにそれ／＼作戰地區で軍の指揮をとつてゐる』と發表された。

なほ、七月十三日、ロゾフスキー情報局長は新聞記者會見に於て、英蘇軍事協定の性格について左の如き見解を發表したが、その中に於て日本との關係に觸れ、英蘇軍事協定が日蘇中立條約に何等の影響を及ぼさずと言明した。

『英蘇軍事協定成立は國際情勢を一變せしめる歴史的的重大事件である。ドイツ並にその衛星諸國は今回自由を愛する民衆の眞に強力な提携に直面したことになるのだ。二大強國たる英蘇兩國は對獨戰遂行の爲相互援助を誓約

し、世界最大工業國たる米國また英國の側に立つてゐる。ドイツはソ聯に襲ひ掛かつた時にすら英蘇が共同戦線を張り得ぬだらうと打算して掛かつてゐたが、この打算は今や完全にはずれドイツは相手を次々と倒して行く方法をとり得ずして多面戦線を持つに至つたのである。英蘇軍事協定は歐洲並に全世界の支配を目指すドイツ・ファシズムの絶滅を不可避的に齎すであらう。又英蘇協定と日本の關係についていへば、同協定は蘇聯政府が第三國と締結した如何なる條約義務にも影響を及ぼすものではない。従つて蘇聯政府は日蘇中立條約によつて規定された地位を遵守するであらうし、それが理論的にも政治的にも當然のことであらう。』

また、蘇聯邦最高會議幹部會は七月十七日、政治宣傳機構の再組織並に勞農赤軍内に軍事委員部を創設する旨の緊急令を發布したが、これにより、從來の政治宣傳機構を改組し勞農赤軍内に政治部を設置して作戦と併行して宣傳工作を行ひ得る様の機構を整備すると共に、赤軍各聯隊及び師團參謀部、陸軍關係諸學校並にその他の赤軍諸機關内に軍事委員部を創設するのみならず、各中隊毎に政治指導部を設置して、政治工作を強化し得ることとなつた。

また、七月十九日の蘇聯最高會議幹部會は、スターリン議長を國防人民委員に、現國防人民委員で西部方面軍司令官に任命されたチモシエンコ元帥を同委員代理に任命する旨を發表したが、これによりスターリン議長は國防委員會議長及び國防委員を兼任することとなり、軍政の全權を一身に掌握することとなつたのである。然し、人民委員會議長、黨書記長、國防委員會議長、國防人民委員の四

重職を一身に兼ねるスターリンは、その多忙を軽減するため翌二十日、内部人民委員部と國家保安人民委員會とを合併して人民委員部とし、エアシエデニコ上級大將、戦車の權威たるインフェドレンコ中將、空軍出身のブルジガレフ中將、軍需方面の専門家たるアフクルレフ中將の四名を右合併人民委員部の委員代理に任命し、事務を補佐せしむることを發表した。

第十一章 獨蘇戰爭の經過

獨蘇開戦に際して二千五百軒に互る戦線に配置されたドイツ側の兵力は、ドイツ軍百六十五個師團約二百五十萬、飛行機一萬機、戦車五千五百臺、なほこれにフィンランド軍二十個師、ルーマニア軍二十個師及びハンガリア軍十個師、合計五十個師約七十萬が参加し、總計三百二十萬と推定されたがヒットラー總統の命令一下、北方フィンランド方面（北氷洋よりフィンランド灣に至る約一千軒）に於ては獨軍五個師及び芬軍二十個師、中央舊ポーランド方面（メーメルよりルーマニアと蘇聯國境カルパチア山脈に至る約一千軒）に於ては獨軍百五十個師、南方ウクライナ方面（カルパチア山脈よりドナウ河口に至る約五百軒）に於ては獨軍百十個師及び羅軍二十個師、洪軍十個師が一齊に進撃を開始したのであつたが、これに對して蘇聯側は、北方フィンランド方面には十四個師、中央ポーランド

方面には百十九個師、南方ウクライナ方面には五十四個師、總計百八十七個師約四百五十萬、飛行機六千機、戦車七千七百臺の兵力を配置してドイツ軍を邀撃したのであつた。

なほ、ドイツ軍司令部は六月二十二日、對蘇宣戰と同時に、北氷洋及び黒海の一部を航行禁止區域に指定したのであつたが、さらに同夜、危険水域をバルチック海に擴大する旨を發表したので、戦線はフィンランドよりポーランドを縦斷してルーマニアに至る二千五百軒の陸上戦線に加へて、北氷洋、バルチック海、及び黒海の三水域に互る廣大なる海上戦線が含まれることとなり、まさに、今次大戰に於ける最大の戦線が出現したのである。

斯くてドイツ軍並に芬、羅、洪の各軍は、六月二十二日午前三時を期して、北中南三方面の全戦線に互り一齊に國境を突破して精銳なる空軍の掩護の下に機甲部隊を先頭に怒濤の如き進撃を開始し、これと共に空軍は、モスクワ、レニングラードを初めキエフその他の蘇聯各重要都市に大爆撃を加へたのであつた。

ドイツ軍の進撃はまことに凄まじき勢ひで、殊に中部方面に於ては異驚すべき猛烈さを發揮し、開戦の翌二十三日には、グロドノ、ブレストリトヴィスクを占領し、二十四日にはウヘルナ、コブノに突入したが、また、南部方面に於てもルツクを突破し、早くも舊ポーランド領の大半を席卷し、さらに、北部戦線に於ても二十六日にはドウエナ河の線に達し、ドウナブルグを占領したのであつた。

斯くて、七月十日、ドイツ總統大本營はビアリストツク及びミンスクの大戦果については左の如く發表した。

『世界戦史上最大の激戦たるビアリストツク及びミンスクの二大包圍作戦は、遂にドイツ軍快勝裡に完了を遂げた。右作戦に於て我が方は數名のソ聯將官級司令官、師團長を含む合計三十二萬三千八百九十八名の將兵を俘虜とし、敵戦車三千三百三十二臺を撃破乃至は捕獲、各種口徑の火炮千八百九門その他夥しき量に上る武器軍需品を鹵獲した。右戦果を加算すれば開戦以來東部戦線におけるソ聯兵俘虜總數は四十萬を突破し、撃破乃至は鹵獲せるソ聯戦車數は七千六百十五臺、各種口徑砲四千四百二十三門に達し、ソ聯機撃破は實に六千二百三十三機の多數に及んでゐる』

ビアリストツク及びミンスクの二大包圍戰に於ける獨軍の勝利を以つて獨蘇戰は新段階に入つた。蘇聯側は開戦以來のあまりにも神速果敢なる獨軍の進撃により、殆んど全面的なる敗北を餘儀なくされつゝある情勢に對して、七月三日、スターリン議長は全國民並に赤軍將兵に激勵の放送を行ひ、士氣の昂揚を計ると共に、三方面軍司令部を設置し前線の陣容を強化し、さらにスターリンが國防人民委員を兼任し、軍政黨の全權を一身に掌握して、自から陣頭に立つて獨軍の進撃を阻止せんとするに至つたことは上述の如くである。

然しながら獨軍の進撃は依然として猛烈を極め、七月三十一日にはレニングラード突入説が傳へら

れるに至つたが、八月六日、獨總統大本營はスモレンスク作戰完勝の大戦果を發表すると共に、『戦局は赤軍主力の大打撃の後目下全く新しき段階に到達してゐる。獨軍はスターリン線を第一ベイアス湖の南方、第二スモレンスク方面、第三プリベット沼澤地帯南方の三箇所において突破、フィンランド灣より黒海に至る全線に亘り破竹の進撃を繼續中である。』

と公表し、さらに開戦以來七月十一日までの戦果と、以後八月六日までの戦果とを併せて左の如く發表した。

日	捕虜	戦車撃破乃至鹵獲	火炮鹵獲	飛行機撃破
七月十一日	四〇〇,〇〇〇	七,六一五	四,四二三	六,二三三
八月六日	八九五,〇〇〇	一三,一四五	一〇,三八八	九,〇八二

なほ、獨總統大本營は右發表に續いて四個の特別發表を行ひ各方面の戦況を明らかにすると共に、併せて各方面に於けるドイツ軍司令部の陣容をも明らかにした。即ち、ドイツ軍の陣容は、中央部はフォン・ボツク元帥を最高指揮官とし、これにフォン・クルーゲ元帥及びシュトラウス、フォン・ワイクス兩上級大將の率ゆる精銳部隊並にグデリアン、ホート兩上級大將の率ゆる戦車部隊、ケツセルリング麾下の空軍が参加して居り、北部戦線は、フォン・レープ元帥を最高指揮官とし、プツシュ上級大將の率ゆる別働隊及びベツプナー上級大將麾下の機甲部隊が参加して居り、さらにエストニア作

戦にはキユヒラー上級大將が當つて居り、南部戦線はレントシユテット元帥を最高指揮官とし、ライヘナウ元帥及びチュルプナーゲル歩兵大將麾下の別働隊及びライスト上級大將の率ゆる機甲部隊が参加して居る他に、ジーベルト上級大將の率ゆる獨羅聯合軍も活躍して居り、特にこの方面に於てはロエル上級大將麾下の空軍は抜群の戦功を樹てたと發表されて居る。

而してスモレンスク陥落を以てさらに戦局は第三の段階に入り、北部に於けるレニングラード、中央部に於てはモスクワを目指すドイツ軍の包圍態勢が成り、こゝに歐洲戦史空前の大殲滅戦が展開されたのである。これを以てドイツ側は獨蘇戦争は既に終了したとまで發表したのであるが、この大殲滅戦の開始に先つてヒットラー大總統は、十月一日より二日に亘る夜間、次の如き布告文を全戦線の將兵に對して自から讀み上げて、全軍を激勵したのであつた。

『東部戦線の兵に告ぐ、我國民の現在及び將來に對する重大懸念に動かされ、余は六月二十二日、最後の關頭に立つて斷然機先を制し敵の襲撃の脅威に對して我方より出撃するやう諸君に訴へた。周知の通りドイツを破壊するのみでなく全歐を破壊せんとするのがクレムリン支配者の目的であつた。諸君は次の如き二つの事柄を認識したであらう。第一に敵の尅大な軍備は我々が最悪の懸念を以て想像したものを遙かに凌駕してゐたといふことである。』

我々が行動を開始する以前にこの敵が數萬の戦車を出動したとしたら我々國民及び全歐がどうなつてゐたかといふ事は神のみが知ることである。全歐はこの敵軍隊でなくて大部分は野獸であるものの爲に喪失してしまつて